

21
313



始



21
313

平

大阪萬便覽

21-313



三越にて販賣せる商品は

呉服、太物、歐米各國の諸雜貨、化粧品、洋傘、履物、旅行用具、玩具、文房具、陶磁器、繪畫、御婚儀の御調度類、室内裝飾具、

其他に至るまで店内一面に陳列販賣いたしてをりますので、一度御光來を願へば何品でも容易く御調へになる事が出來ます

大阪高麗橋 三越 吳服店

序

日進月歩、人口の膨脹發展は滔々として止む莫く就中、都市人口の蕃殖は日も亦維れ足らざるの趨勢を示し昨の淵、今の街なる比々皆然らざるは莫し此間古を温ねて新らしきを知り現在に鑒みて將來を畫せんには此種大阪萬便覽の如き必要也、

中村六車君、頃來吾社に入り筆硯に従ふ君は筆の人にして又た足の人也所謂新聞記者として手と足を兼有せる人也寸暇斯書を編み余に示す其の書載するところを見る蓋し坊間多く行はるゝ案内記其のものゝ比に非らず則ち名所舊蹟を叙説する一面に於て經濟部門に筆を交ゆ啻に遊覽交通に至便なるのみならず實益を具備せる點に於て一に經濟資料たるべく之れ君が手と足の活動を遺憾なく發揮せるものにして洵に珍

2. 7. 3
内交

とすべき也庶幾くは世人斯書に據り以て大阪市を視れば其の裨益するところ多大なるべし是れ余が自進以て序を爲す所以也、

大正貳年六月

東雲新報社主幹 恒次 九水

◎例言

- 一、本書は東北兩區を上卷とし更に南西兩區を下卷として發行すべき豫定なりしも編者の都合に依り併せて全部壹卷として發行せり。
- 一、本書の編纂は通俗簡明を主とし比較的實益に資すべく編者の留意せるところなるも往々遺憾ある尠ならず是れ等は異日更訂補綴すべき考へ也。
- 一、本書は普通一片の大阪市案内として概ね其の骨子を捕へたるに止まれば其の詳細なる事項は他専門書に就き參酌せられんことを望む。
- 一、本文の末尾に大阪各商店組合の種類、會社銀行及支店等の一覽表を添付すべき豫定なりしも夫れ等は再版時に於て汎く蒐集すべく斯には省略したり。
- 一、出版豫定期日切迫の爲め南西兩區に於ける材料に遺漏あるを免れず之れ又た再版の上補綴すること、せり。

大正二年六月

中村六車識



●大阪萬便覽目次

●總

說

●大阪市●地勢

●區劃●八百八橋●商工業

●大阪市の沿革

●大阪市上の花

●市政概要

●東

區

之

部

●東區●東區内電車線路案内

○大阪城址

○大阪落城の戦況を報告せる書狀

○大阪城内の遊覽

一

二

三

四

六

八

一五

一六

一八

二

- ◎大阪城濠◎偕行社◎大阪砲兵工廠……………一九
- ◎兵營の數々◎師團長邸◎旅團司令部◎大阪聯隊區司令部……………二〇
- ◎大阪衛戍病院◎森之宮◎王造稻荷神社◎王造座◎産湯稻荷……………二一
- ◎小橋の里◎圓球庵……………二二
- ◎衣川長秋墓◎石津亮澄◎三韓阪◎味原池……………二三
- ◎高津宮址◎飯岡澹齋墓◎片山北海墓……………二四
- ◎入江長輔墓◎阪本亮墓◎熊谷直好墓◎主夜天堂……………二五
- ◎木村兼葭堂墓◎淺生庵野坡墓◎姬山神社◎胞衣塚……………二六
- ◎比賣古曾神社◎磐船山◎味經宮趾◎大阪電氣軌道株式會社……………二七
- ◎寺院の數々◎古墳墓◎僧物外◎小島彫山◎中島貫齋◎古林正桂◎中村芝翫……………二八
- ◎阪本俊貞◎三浦道齊◎石井宇右衛門◎近松門左衛門◎實相寺……………二九
- ◎井原西鶴◎中井一家墓◎丁時梅屋墓◎生國魂神社……………三〇
- ◎北向八幡宮◎眞田山◎清水谷高等女學校◎玉造稅務署……………三一
- ◎明星商業◎大阪大林區署◎朝日神明社◎大阪鑛山監督署◎東消防署……………三三

- ◎東稅務署◎照日神明宮◎博物館◎大阪油取引所……………三四
- ◎大矢組◎大倉組支店◎高麗橋郵便局◎高麗橋◎東橫堀◎東區役所……………三五
- ◎東警察署◎野村定期現物問屋◎近江銀行◎京都商工銀行支店……………三六
- ◎第三銀行支店◎大阪銅器合資會社◎大阪三品取引所……………三七
- ◎山口銀行◎大阪市長邸……………三八
- ◎難波神社◎座摩神社◎難波御堂……………三九
- ◎津村御堂◎芭蕉翁終焉の地◎御靈神社……………四〇
- ◎文樂座◎住友本店◎住友銀行……………四一
- ◎日本生命保險株式會社◎大阪毎日新聞社……………四二
- ◎大阪時事新報社◎大阪新報社……………四二
- ◎洪庵塾址◎商業興信所◎淀屋橋……………四四
- ◎大阪日々新聞社◎三菱銀行支店◎大阪農工銀行……………四五
- ◎三十四銀行◎百三十銀行……………四六
- ◎大阪貯蓄銀行……………四七

三

○明治生命保險大阪支店○明治火災○關西信託株式會社	四八
○朝鮮銀行支店○竹原現物店○堺卯樓○橫濱正金銀行○浪速銀行	四九
○中央電話局○大日本麥酒出張所○第一銀行支店○萬歲生命保險支店	五〇
○鴻池銀行○鴻池男爵邸	五一
○北濱銀行○銘酒澤之鶴○日本債券會社	五二
○灘萬○大林組○難波橋	五三
○難波橋は取拂ひ	五四
○大阪株式取引所○北濱築地	五五
●北濱株式仲買店略圖	五六
○帝國生命保險支店○三越吳服店○三井物産	五七
○三井銀行○東京火災海上保險	五八
○愛國生命○臺灣銀行支店○山中商會	五九
○西部遞信局○今橋○天神橋○八軒屋	六〇
○大阪巡航株式○大阪郵便爲替貯金管理局○大阪衛生試驗所○聖ニコライ教會	六一

●天滿橋●將棋嶋●京阪線天滿驛……………六二

●北區之部

●北區●北區內電車線路案内……………六三
○網島……………六八
○藤田男爵邸○大長寺……………六九
○京阪電氣鐵道株式會社……………七〇
○大日本冷蔵株式○櫻之宮……………七一
○櫻之宮○水道水源地○毛馬閘門○母恩寺……………七二
○淀川橋○泉布觀○造幣局……………七三
○鶴滿寺○長柄長者邸址……………七四
○新淀川○國分寺○崇禪寺……………七五
○大願寺○江口の里○江口城址……………七六
○東洋製紙株式○稻畑染工場○日本フランネル……………七七

◎毛斯綸紡織株式會社◎豐崎宮舊址◎萩之寺	七八
◎梅花女學校◎源光寺◎箕面電車梅田驛	七九
◎官鐵梅田驛	八〇
◎梅田上下發時間表◎阪鶴線發時間	八一
◎曾根崎警察署◎太融寺	八二
◎寒山寺◎兔餓野◎大壩平八郎親子墓◎西山宗因墓	八三
◎森狙仙◎五井持軒◎墨江武禪◎篠崎小竹◎綱敷天神	八四
◎露天神社◎夕日天神社◎北區役所	八五
◎堀川戎神社◎天滿天神社	八六
◎天滿神社附近◎天滿別院	八七
◎監獄署◎天滿市場◎天滿市場◎中之島公園◎豐國神社	八八
◎大阪圖書館◎大阪公會堂◎市役所建設用地◎北警察署◎裁判所	八九
◎回生病院◎帝國礦泉	九〇
◎櫻セメント◎共同火災	九二

◎宇治川電氣株式會社◎曾根崎新地	九三
◎曾根崎新地郵行事	九四
◎大阪堂嶋米穀取引所	九五
◎堂嶋濱通◎劇場堂島座◎藤田組	九七
◎大阪合同結績株式會社	九八
◎大阪市役所◎大阪商業會議所	九九
◎大阪府知事官邸	一〇〇
◎日本銀行支店◎浪速火災保險◎高田商會	一〇一
◎大阪中央郵便局◎大阪瓦斯株式	一〇二
◎大阪堂業株式◎大阪朝日新聞社	一〇三
◎大阪倉庫株式◎大阪稅務監督局◎中之島稅務署◎大阪高醫學校	一〇四
◎大阪府立病院◎大倉商業學校◎土居通夫氏邸◎大阪電燈株式會社	一〇五
◎銀行會社の數々◎明治製糖株式	一〇七
◎大阪商品陳列所◎工業試驗場◎福島	一〇八

- ◎逆櫓松◎福島天神◎五百羅漢◎浦江聖天……………一〇九
- ◎關西大學◎大阪電球◎學校の數々……………一一〇
- ◎福島紡績◎日本紡績◎野田の藤◎圓滿寺……………一一一
- ◎住友伸銅所◎全電線製造所◎商船韓國組……………一二二
- ◎富島組◎大阪稅關◎古川橋◎大阪商船會社……………一二三
- ◎日本郵船大阪支店……………一二四
- ◎尼崎汽船部……………一二五

西區之部

- ◎西區◎西區電車線路案内……………一六
- ◎大阪築港……………一一〇
- ◎天保山燈臺◎木津川燈臺◎櫻島遊園地◎安治川……………一二二
- ◎瑞軒山◎大阪鐵工所◎大阪セメント◎市岡中學校……………一二三
- ◎東洋捕鯨株式◎竹林寺◎茨住吉神社◎九條院……………一二四

- ◎九條新道◎松島遊廓◎佐々木醫院……………一二五
- ◎千代崎橋◎大阪府廳◎大阪警察部◎大阪府會議事堂◎西北區役所◎雜喉場……………一二六
- ◎永代濱◎靱◎願教寺◎新町遊廓……………一二七
- ◎四ッ橋◎堀江遊廓◎阿彌陀池◎土佐稻荷……………一二八
- ◎陶器神社◎加島銀行◎加島貯蓄銀行……………一二九
- ◎大阪朝報社……………一三〇

南區之部

- ◎南區◎南區內電車線路案内……………一三一
- ◎心齋橋◎三津八幡◎佐野屋橋筋◎三ツ寺……………一三四
- ◎宗右衛門町◎住友男爵邸◎湊町停車場◎赤手拭稻荷◎大國神社◎八阪神社……………一三五
- ◎汐見橋停車場◎瑞龍寺◎願泉寺……………一三六
- ◎道頓堀◎南地演舞場……………一三七
- ◎難波驛◎南海鐵道株式會社……………一四〇

○千日前.....	一四一
○三勝牛七○法善寺○自安寺○廣田神社○今宮神社.....	一四二
●阪堺電軌株式●大阪土地建物株式.....	一四三
○新世界●天王寺公園.....	一四四
○一心寺○安井天神.....	一四五
○新清水寺○大江神社○勝惠院○夕陽岡.....	一四六
○茶白山●雲水寺●四天王寺.....	一四七
○須徳鐘.....	一四八

●更訂正誤

編輯校正共に誤謬脱漏異動等尠ならず三〇頁村原西鶴は井原の誤り三二頁玉造稅務署空堀通二丁目は東雲町二丁目移轉。

三四頁照日神明宮の次ぎに東洋救濟保險貯金株式會社の記事數行脱漏。

五〇頁中央電話局の前へに大正貯蓄銀行の記事數行脱漏。

五七頁三越吳服支店長梯孝二郎氏とあるは梯孝次郎氏の誤り。

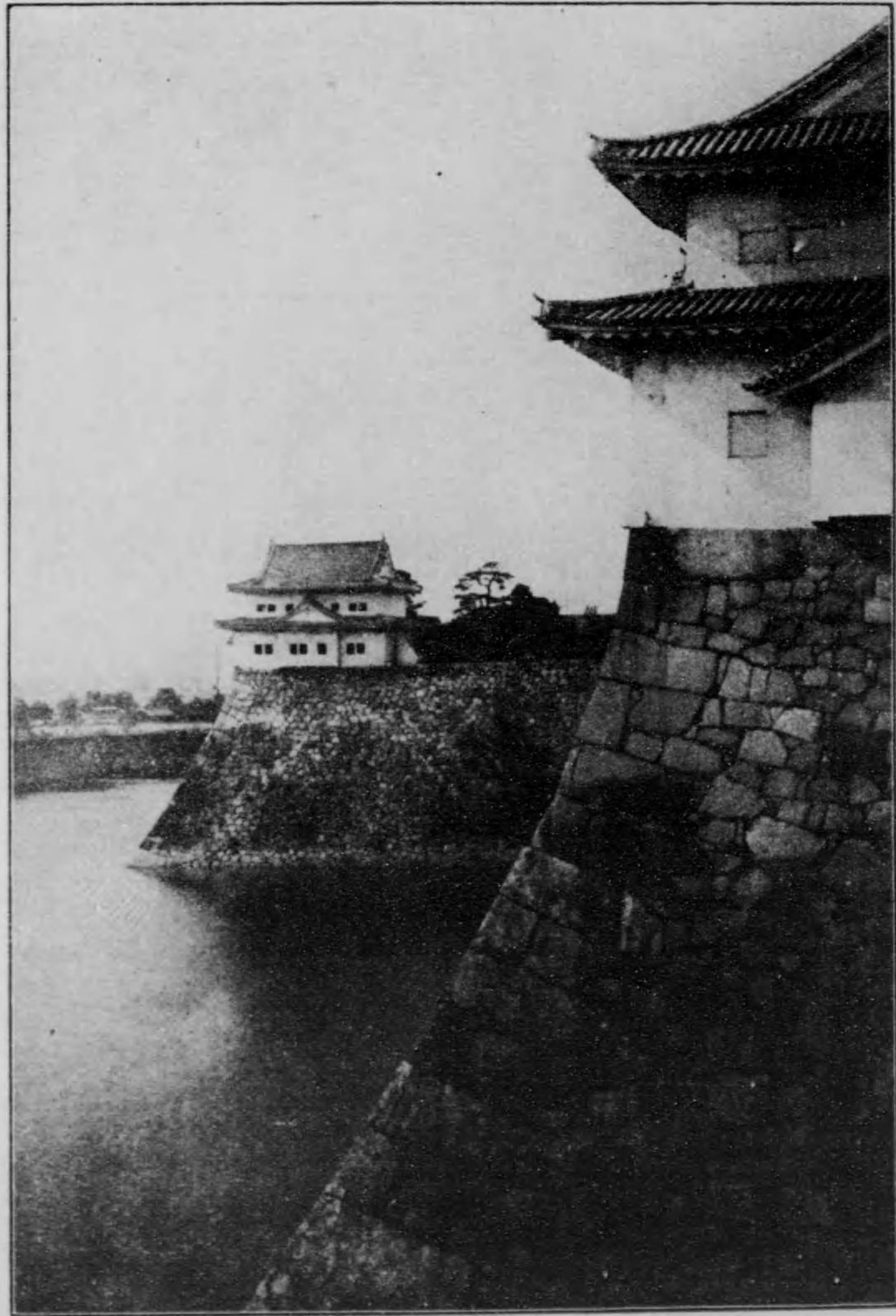
六〇頁大阪遞信管理局は西部遞信局と改稱。

八〇頁鹽大平八郎は大鹽、八四頁篠嶋小竹は篠崎の誤り。

九二頁櫻セメント記事中阪本已之助氏とあるは已之松氏の誤植。

九七頁堂嶋濱通記事の次ぎに大阪日報社の記事數行脱す。

一〇四頁大阪稅務監督局記事中局長渡邊義郎氏は菅野盛次郎氏と更迭。



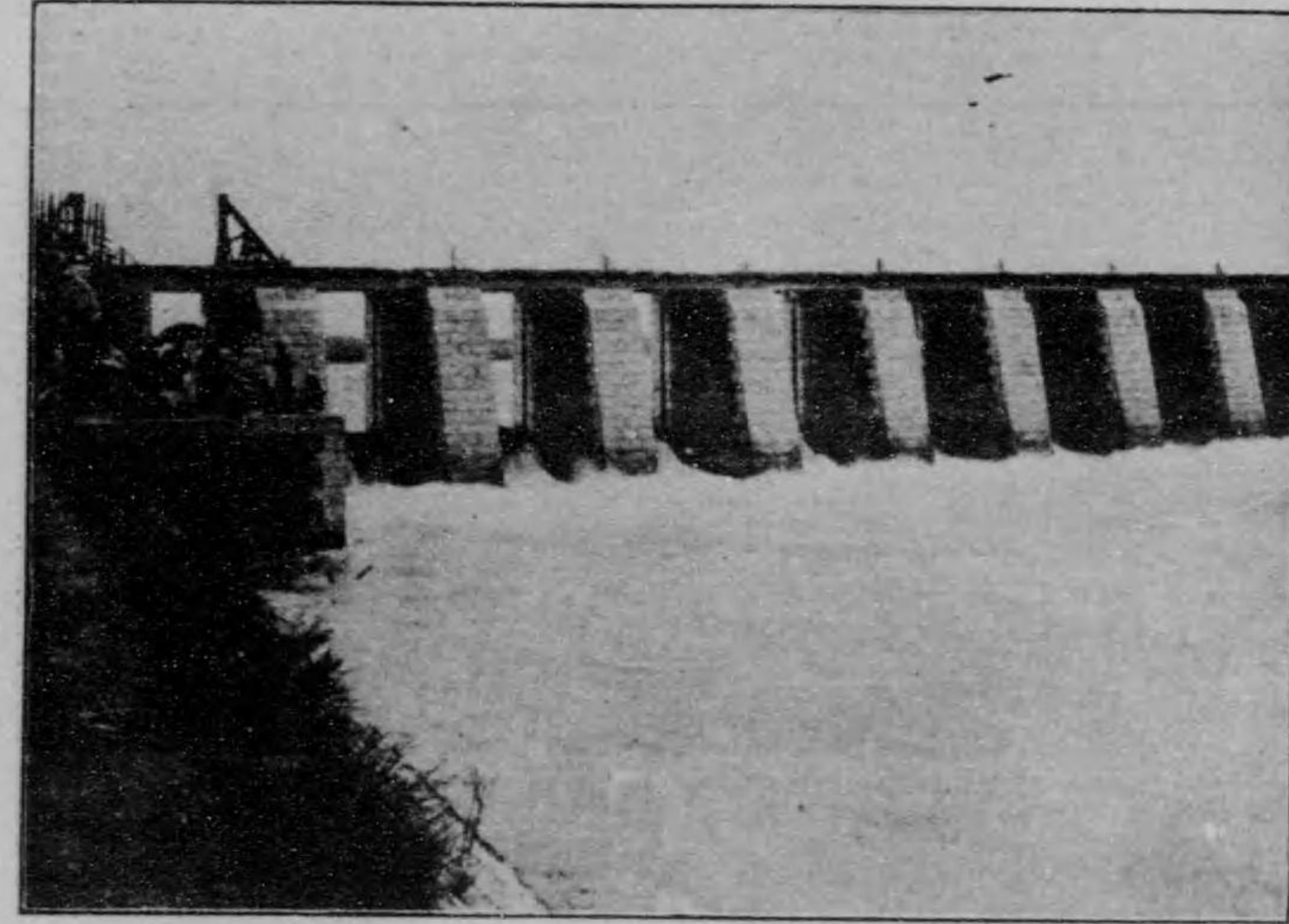
(城 阪 大)

一二頁住友伸銅場記事、湯川寛吉、庵地保氏監督云々は六月一日より伸銅場を伸銅所と改稱し湯川庵地の兩氏去り所長に元海軍造兵監たりし小幡文三郎氏支配人に本莊熊次郎氏就職せり。

一三頁大阪税關長大槻龍治氏は鈴木繁氏と更迭。



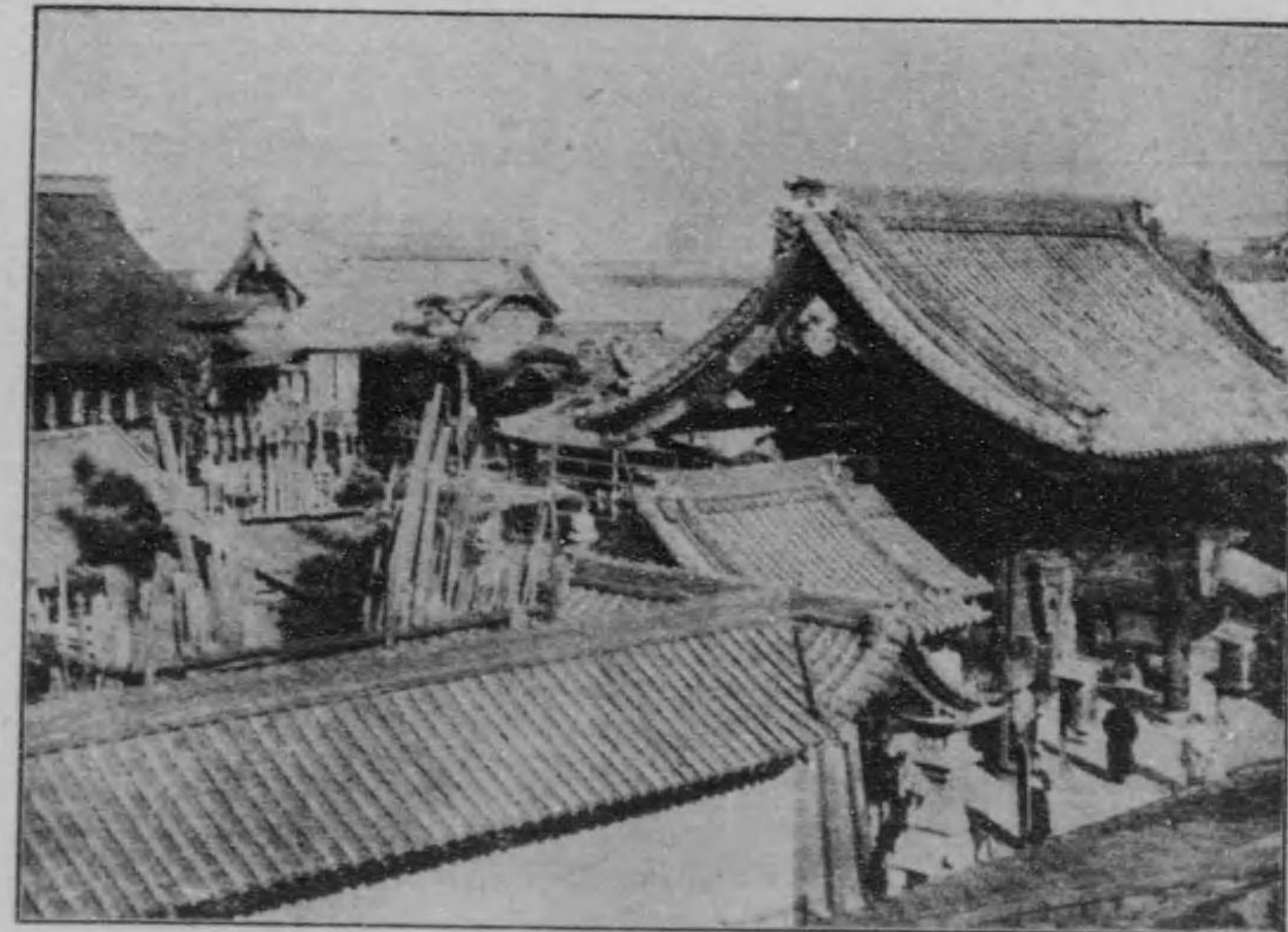
(驛 田 梅)



(門 崩 間 毛)



(前 日 千)



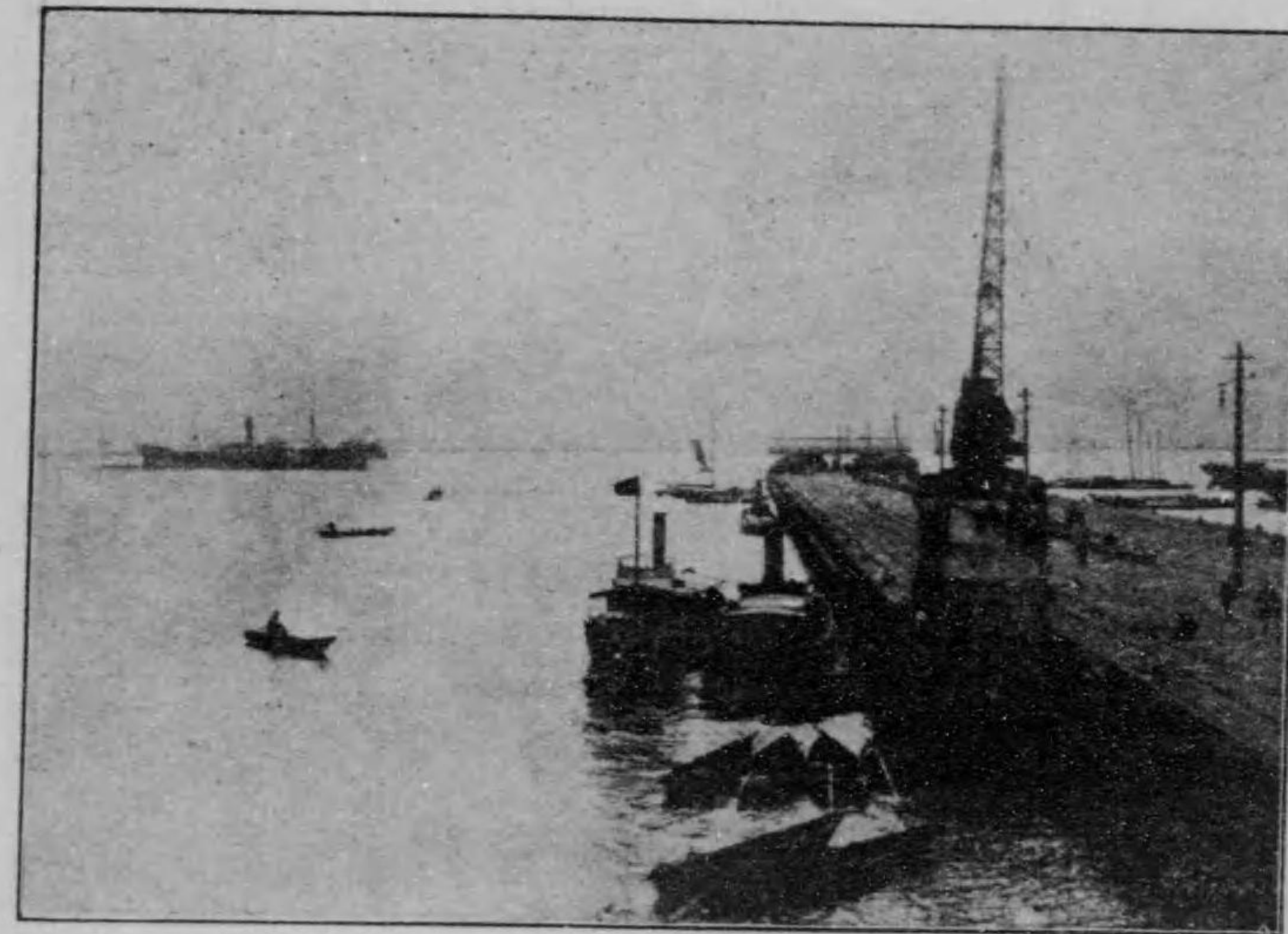
(宮 滿 天)



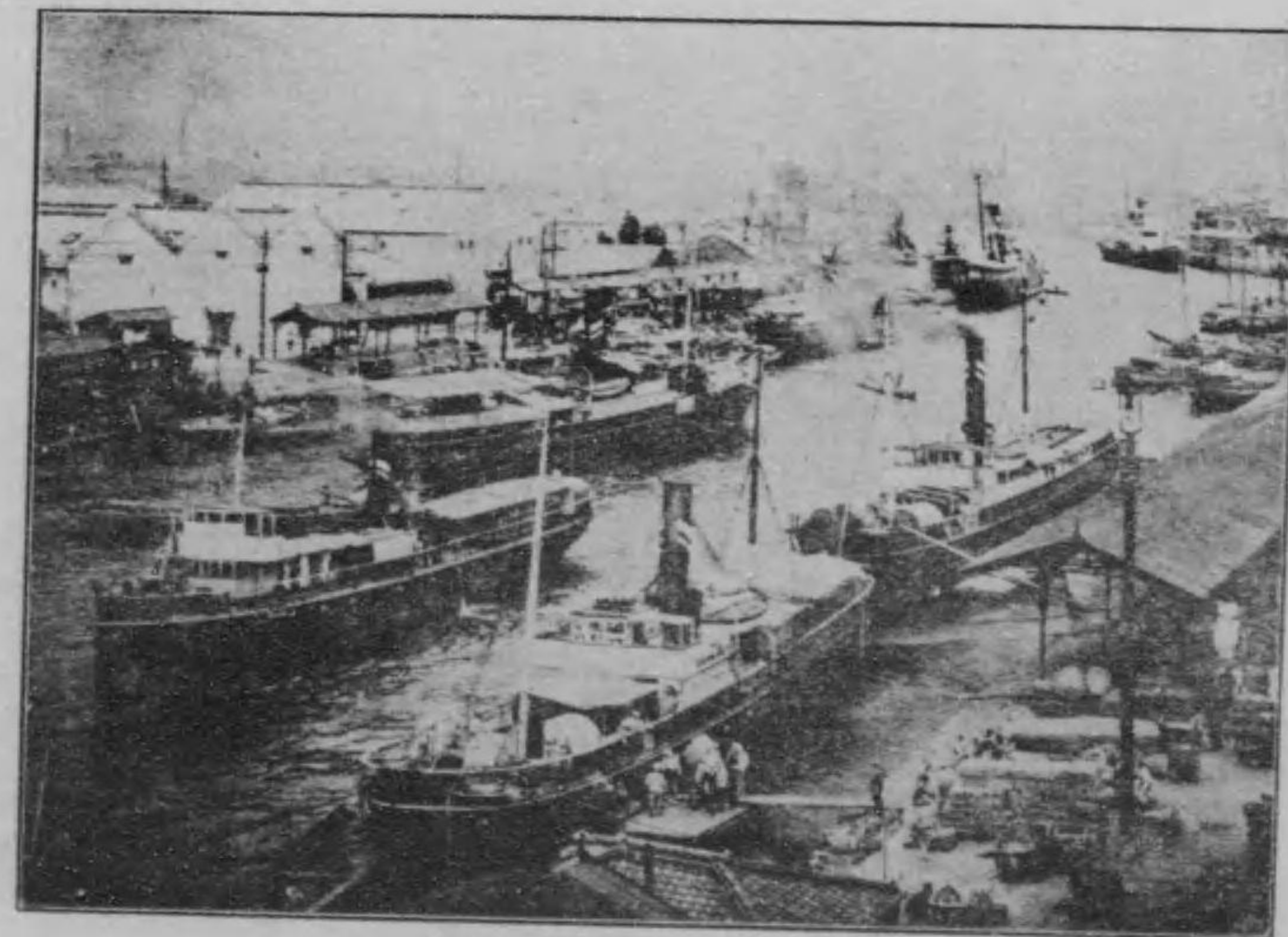
(館 術 美)



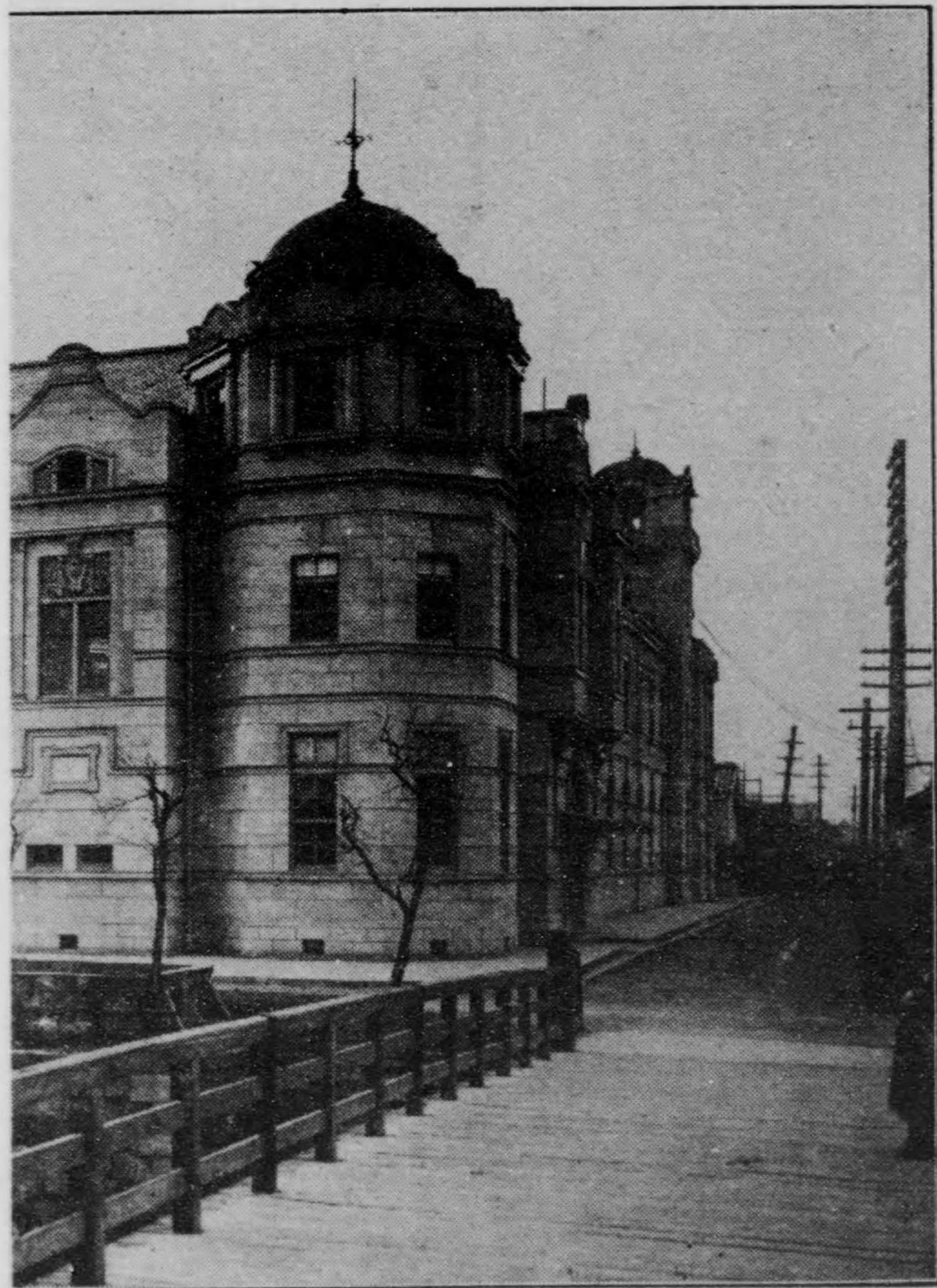
(池 だ み あ)



(港 築)



(口 川 治 安)



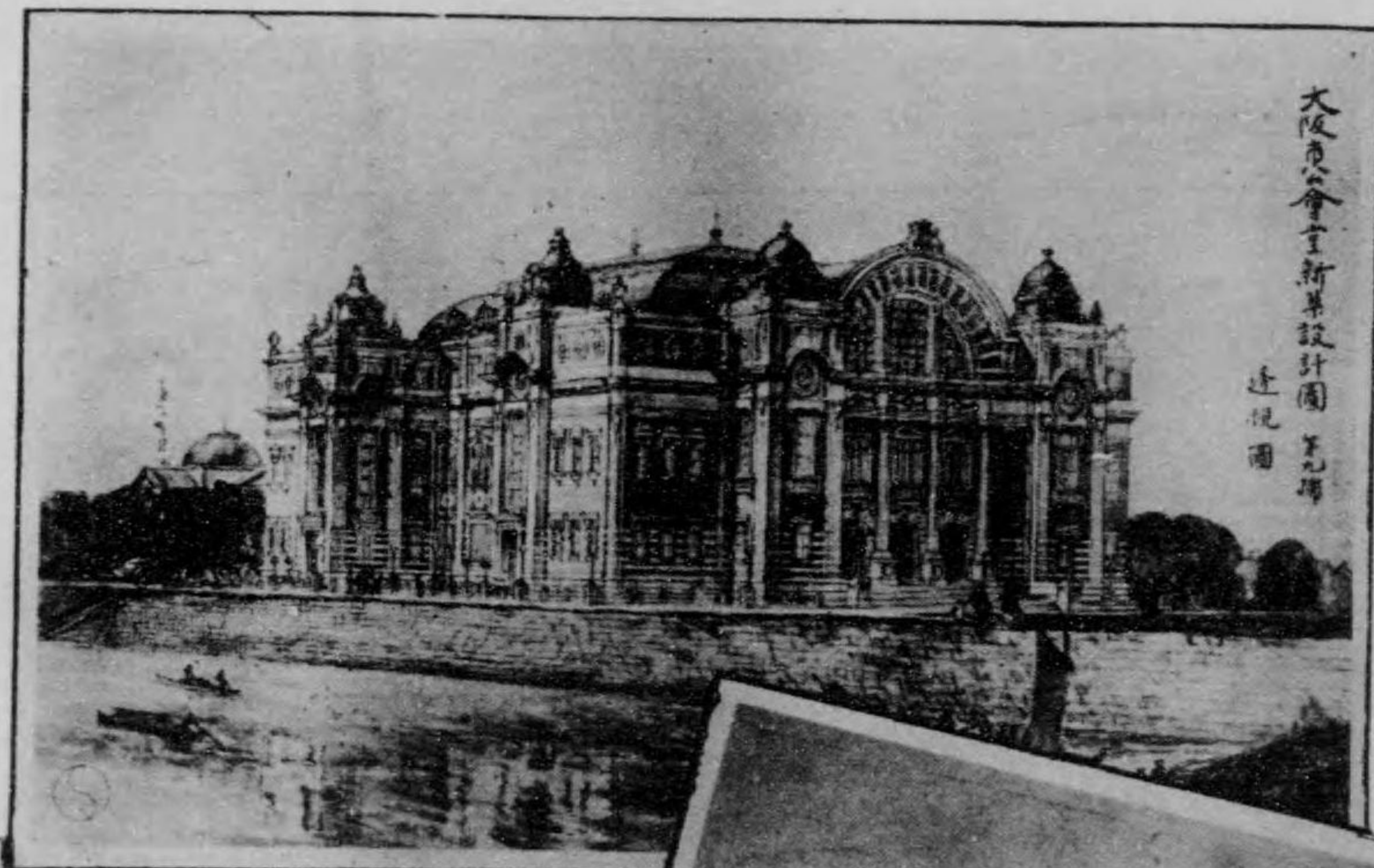
友住目丁五濱北



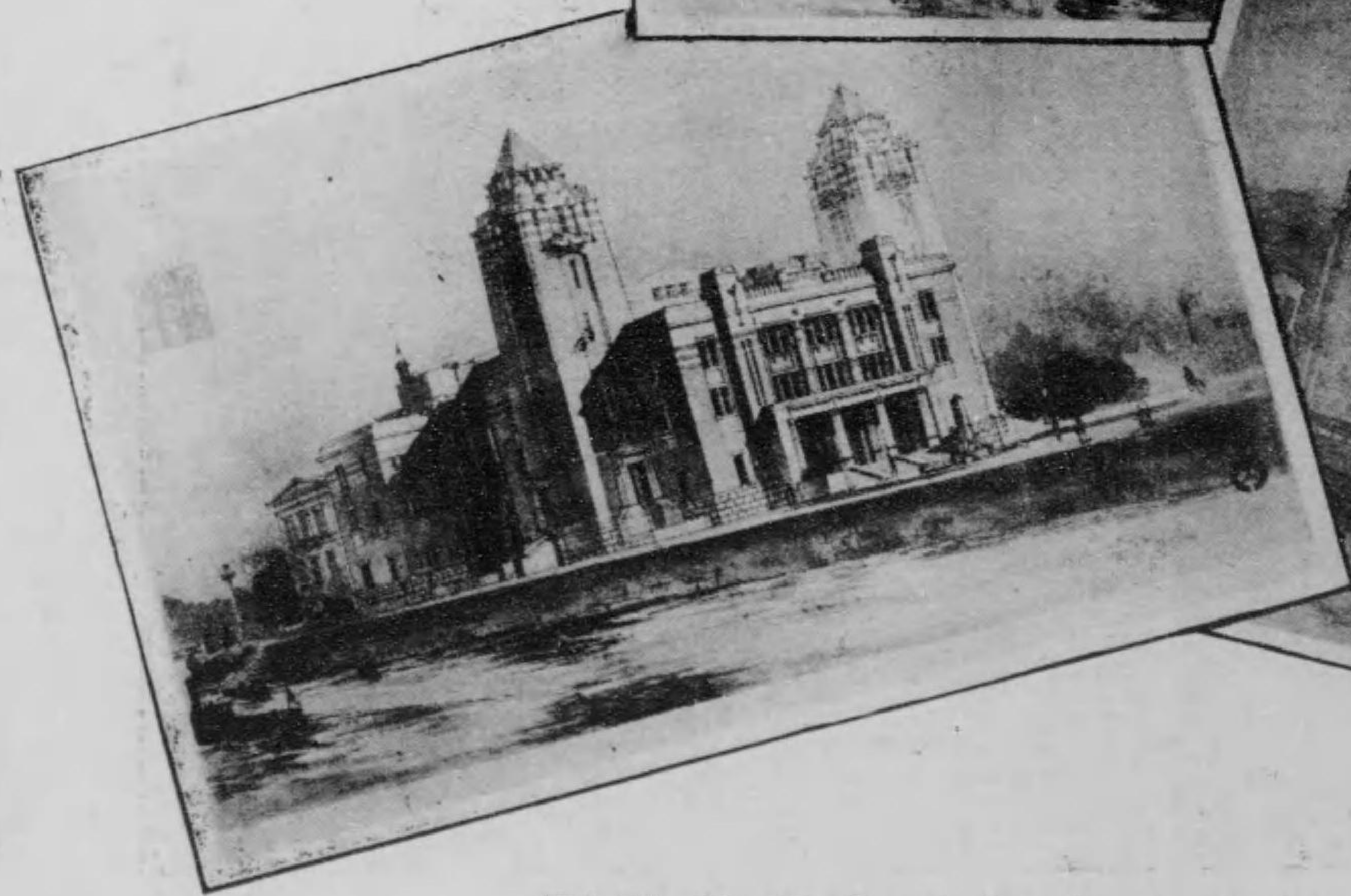
(松のけかいろよ)



(塔重五寺王天)



大阪公會堂新設計圖
透視圖



中之島公園に於ける大阪公會堂設計圖



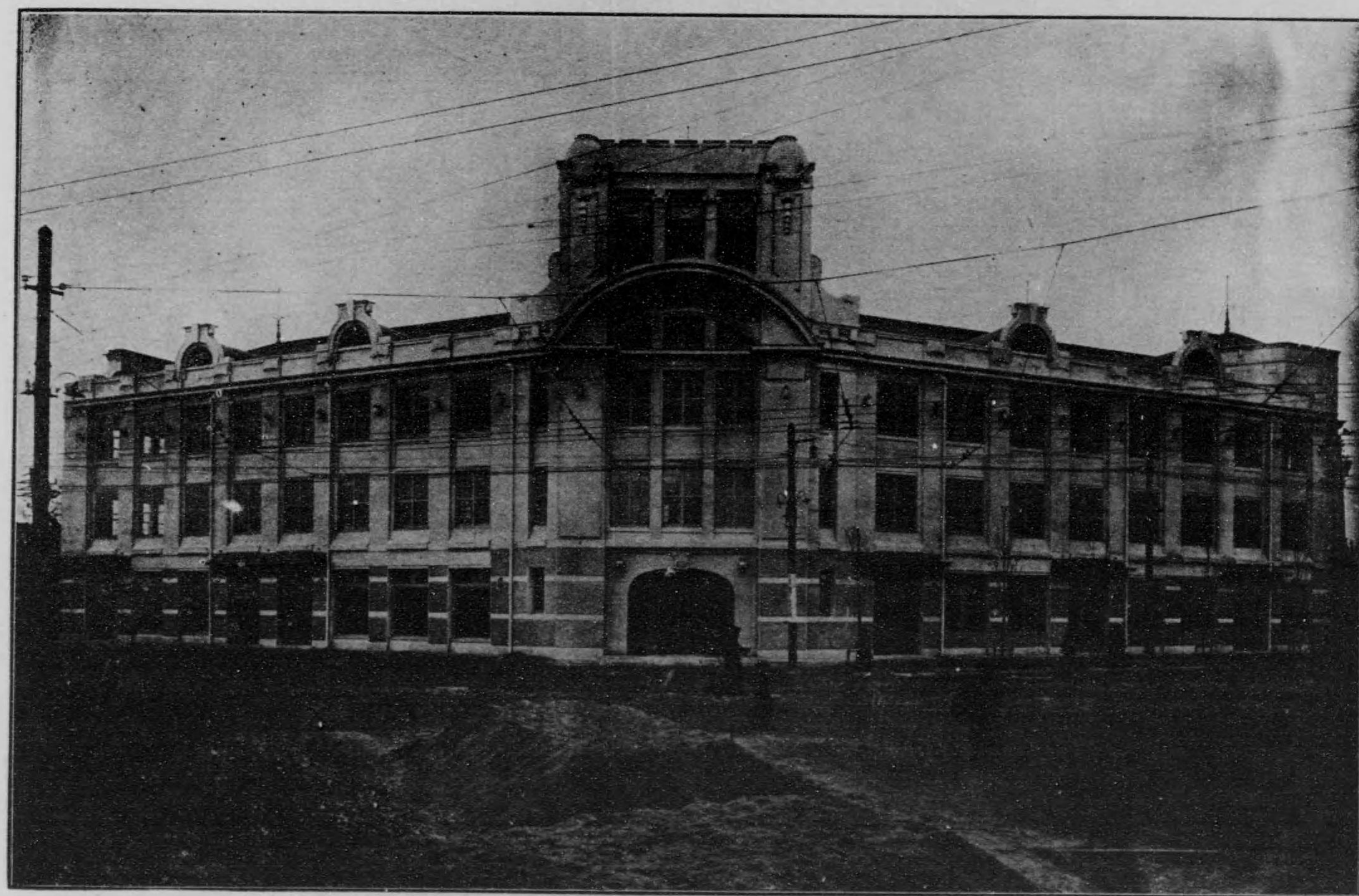
(よいろかけの松)



(天王寺五重塔)



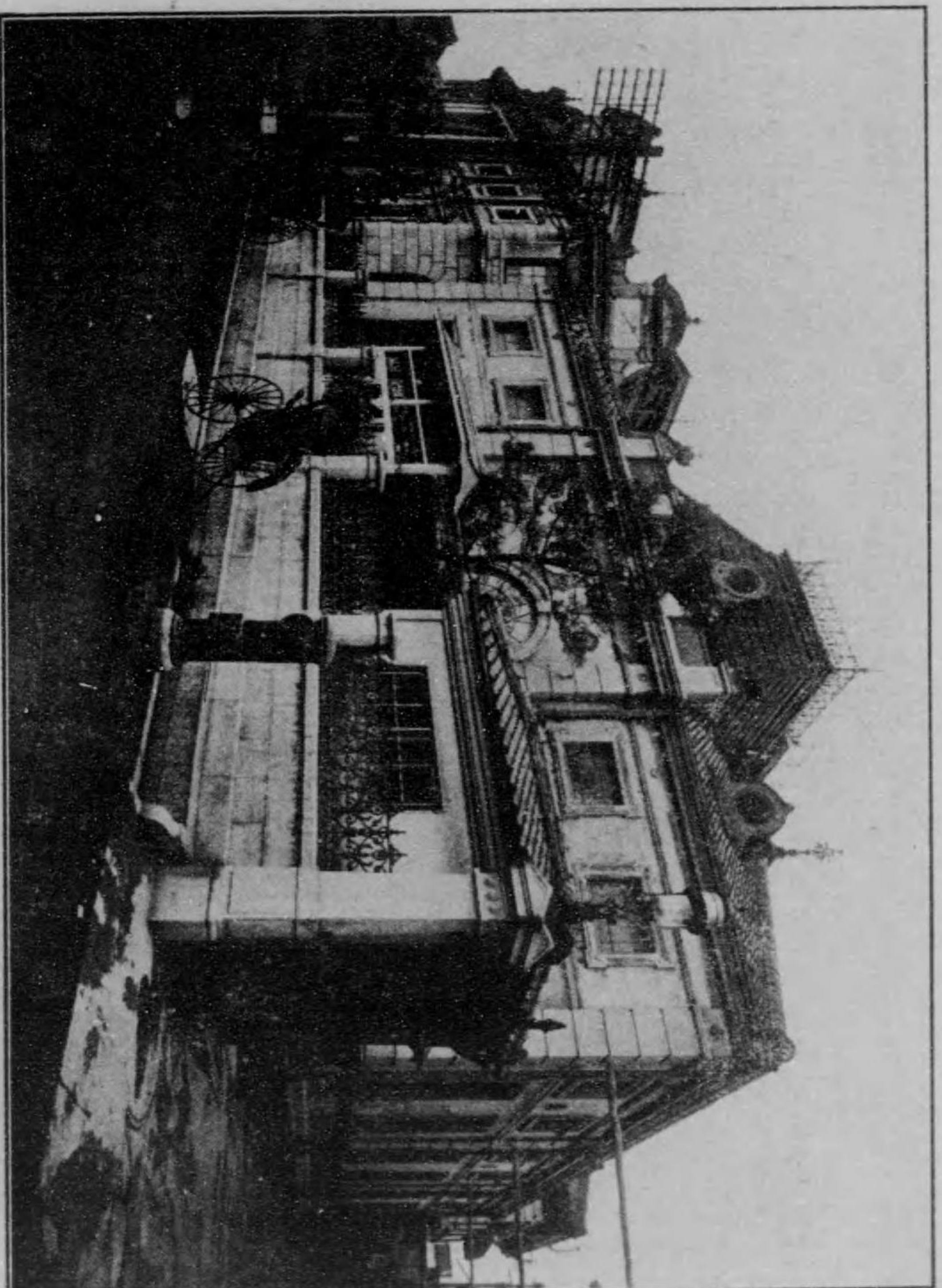
北濱五丁目住友本店に並住友銀行



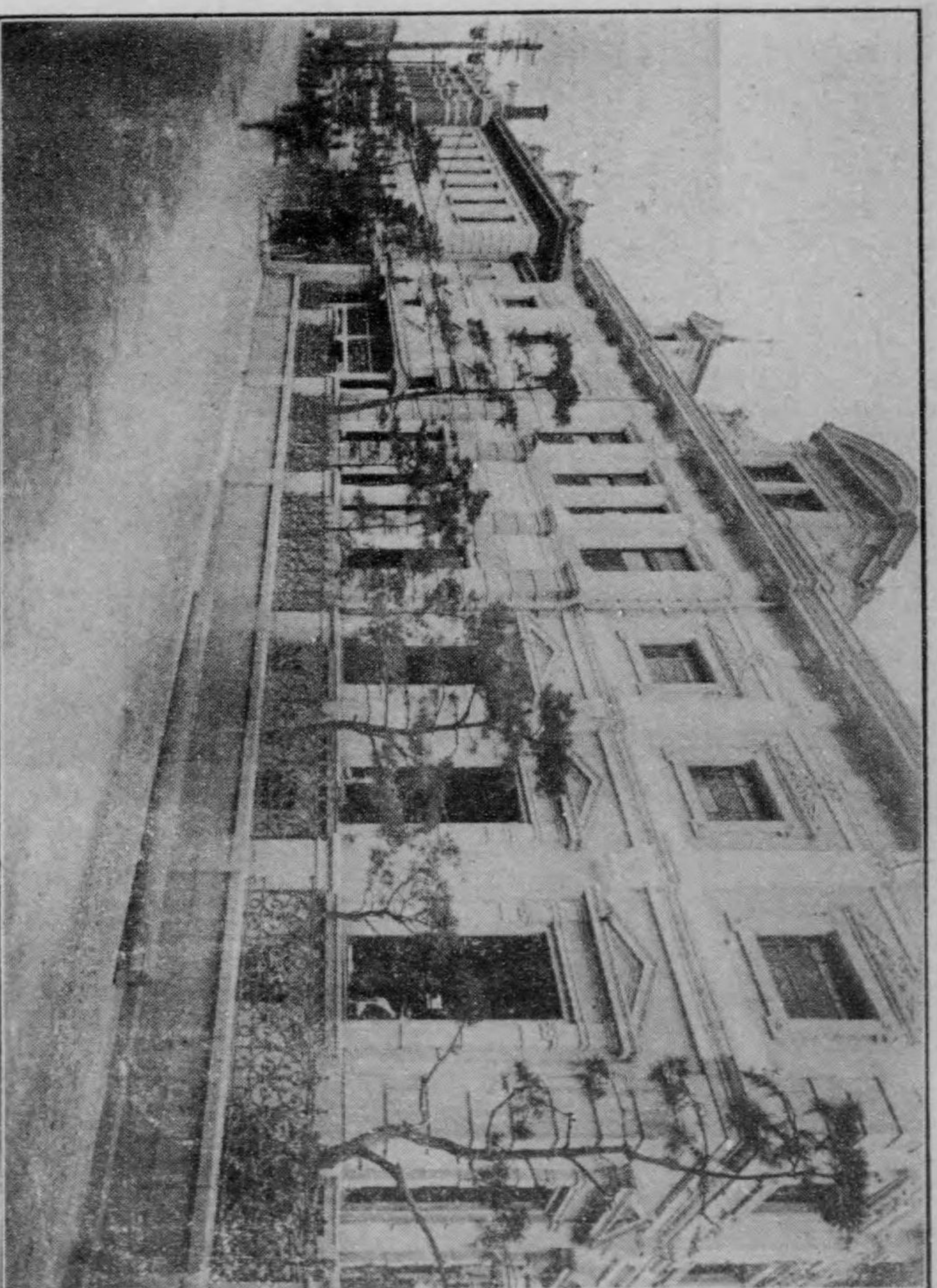
梅田新道市電交又前宇治川電氣株會社



行



大坂株式引取所表門 北濱二丁目



全上南門



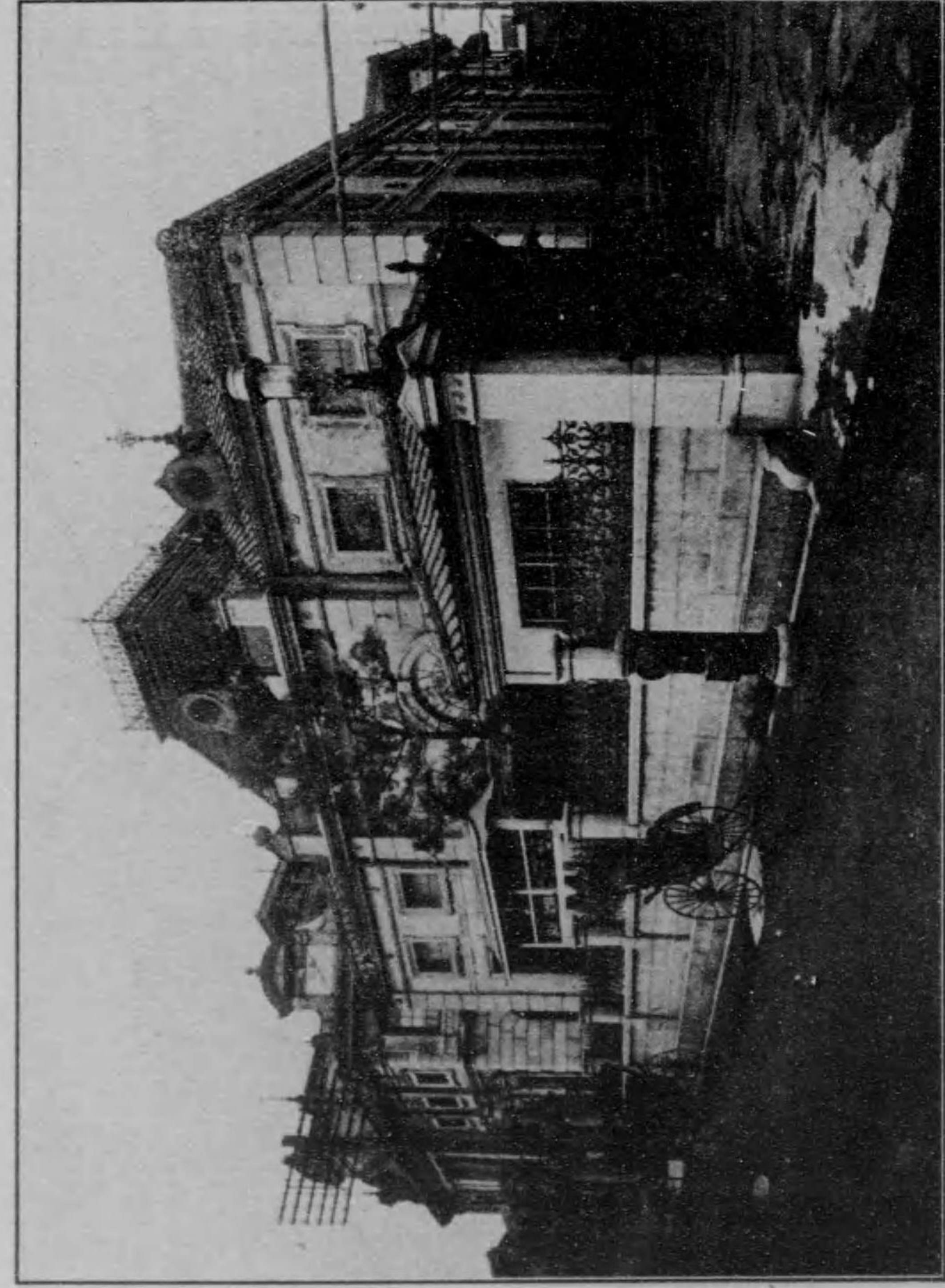
大阪市長男爵兼付行氏



大阪府知事久保利武氏



男爵友吉左衛門氏



北濱二丁目 大阪株式取引所表門

大 阪 實 業 家



浪速銀行頭取
松方正雄氏



大阪商業會議所頭
土居通夫氏



住友銀行理事
中田錦吉氏



大阪實業家
永田仁助氏



北濱銀行專務取締役
小塚正一郎氏



加島銀行重役
祇園清次郎氏

大 阪 實 業 家

山口銀行主
山口吉郎兵衛氏



大阪商船株式會社社長
中橋德五郎氏



京阪電氣鐵道株式會社專務取締役
太田光熙氏

大 阪 實 業 家



大 阪 毎 日 新 聞 社 長
山 本 一 彦 氏



南 海 鐵 道 株 式 社 會 專 務 取 締 役
大 塚 惟 明 氏



大 阪 商 船 株 式 社 會 取 締 役
堀 啓 次 郎 氏



大 阪 實 業 家
岡 島 千 代 造 氏



合 同 紡 績 株 式 社 會 長
谷 口 房 藏 氏



京 都 電 氣 鐵 道 株 式 社 會
專 務 取 締 役 守 山 三 義 氏

大 阪 實 業 家



大 阪 堂 島 米 穀 取 引 所
理 事 長 高 倉 藤 平 氏



日 本 生 命 保 險 株 式 社 會 長
片 岡 直 溫 氏



合 資 社 會 稻 畑 染 工 場 主
稻 畑 勝 太 郎 氏



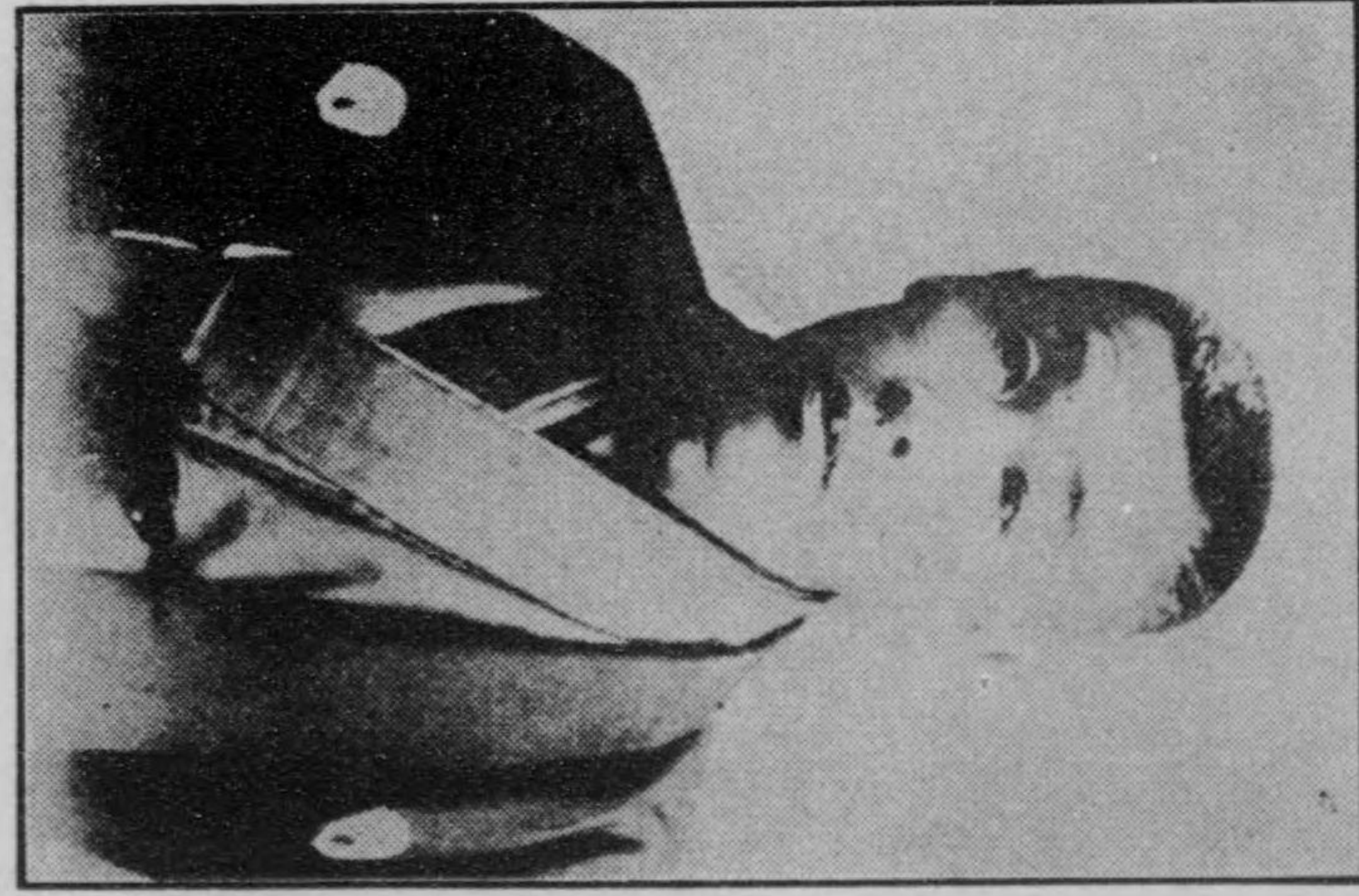
英 面 有 馬 電 氣 軌 道 株 式 社 會
取 締 役 小 林 一 三 氏



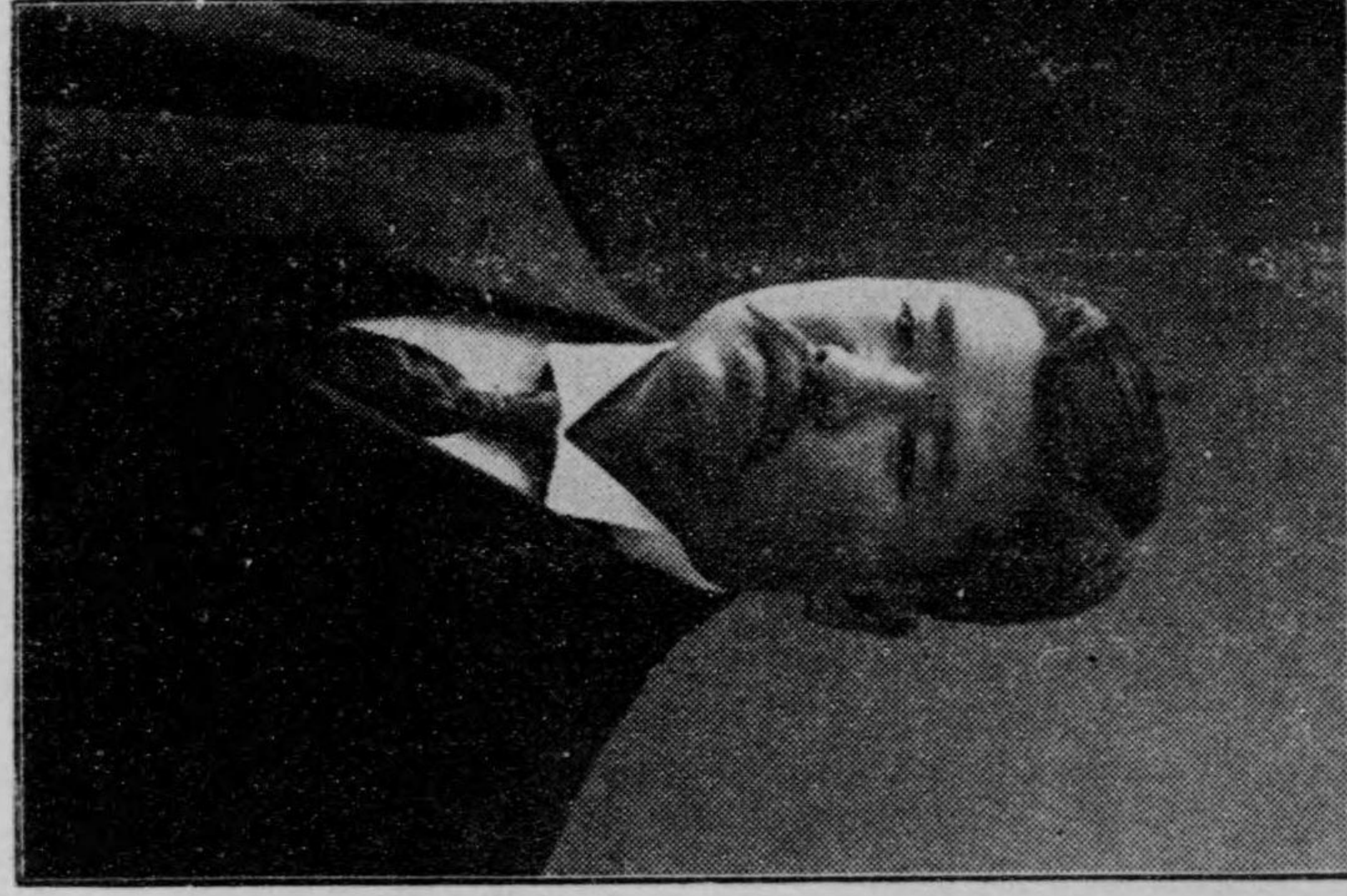
武 內 會 主 武 內 才 吉 氏



阪 堺 電 氣 軌 道 株 式 社 會
支 配 人 足 立 通 備 氏



氏吉太田芝者稅納額多

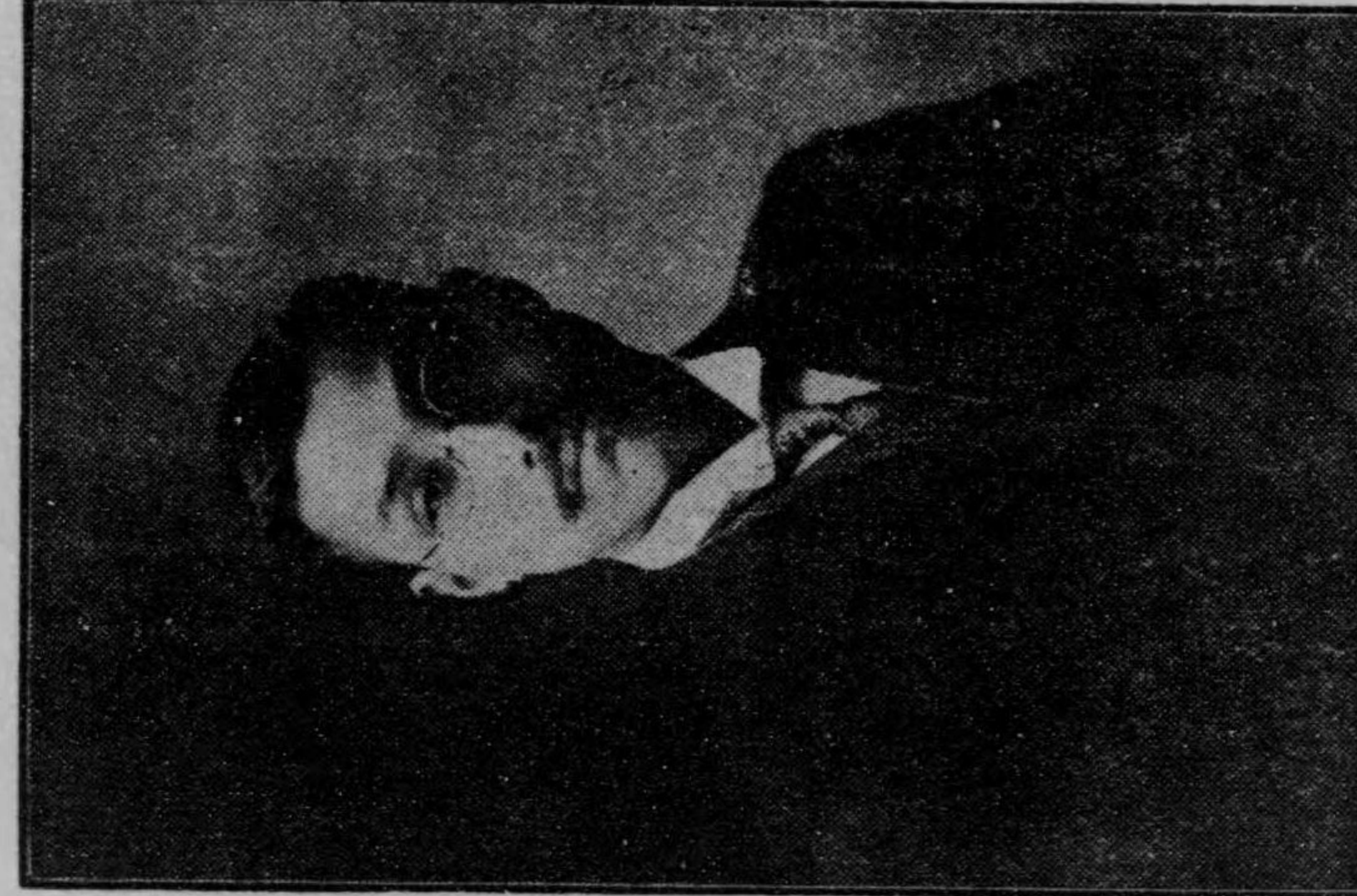


氏七龜原梅者稅納額多

大 阪 實 業 家



氏郎治新上阪者稅納額多



氏藏廣柳者稅納額多

大 阪 實 業 家

大 林 芳 五 郎 氏

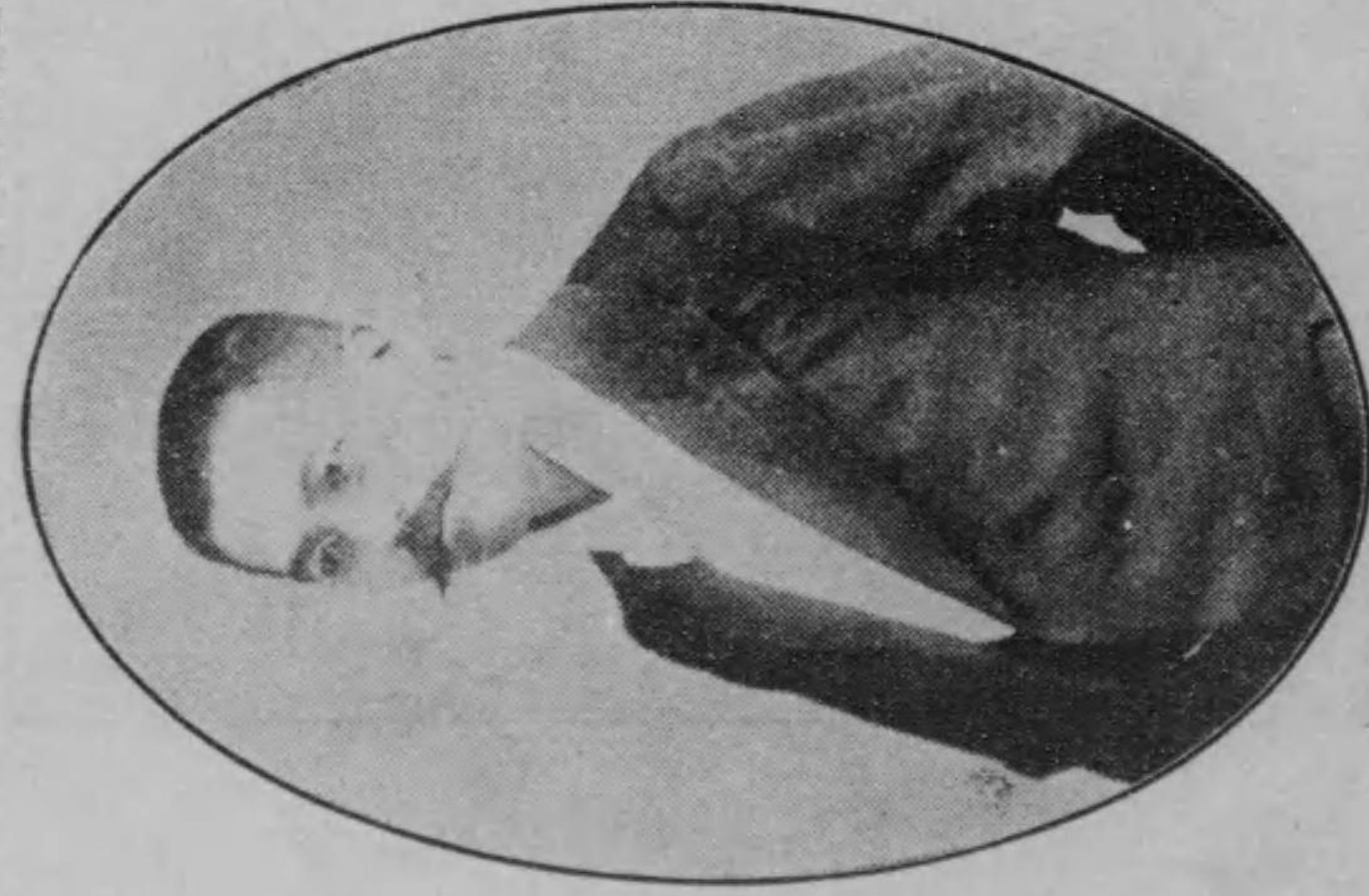


多 額 稅 納 者 田 福 藏 氏



大 阪 實 業 家

大 阪 實 業 家



大 阪 電 燈 株 式 會 社 專 取 務 役
菅 沼 達 吉 氏



大 阪 電 球 株 式 會 社 長
渡 邊 修 氏

月九年貳拾貳治明第期

資本金 參拾萬圓 (拂込済)
 準備金 壹千九百參拾四萬八千參百九拾圓餘 (大正元年)
 保險契約高 壹億壹千六百貳拾五萬七千五百餘圓 (大正二年)

大阪市東區今橋四丁目 電話本局 貳拾四番 貳拾五番

大阪四百三拾番

保險料は低廉にして而かも八年目毎に大決算を行ひ剩餘金の一部を保險約者に配當すべく而して大正元年末に於ける剩餘金は參百拾萬圓に達したり株式組織相互組織の長所を併有するは本社のもっとも特色とする所なり

 **日本生命保險株式會社**

買 賣 米 期

大阪堂島米穀
 取引所仲買人

三河商店

營業主任

山下甚之助

電話東 二二九七
 一九七〇
 四三七一
 四三四五

主任自宅 一三三九
 電話東 三四五八



株式會社 **大正貯金銀行**

頭取 土居通夫

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 東區淡路町二丁目塚筋西へ入 | 本局 電話本局 一六七三番 八三三番 |
| 西區京町堀通千秋橋東へ入 | 京町堀支店 電話土 二七三三番 |
| 東區松屋町筋内久寶寺町角 | 松屋町支店 電話南 三八六七番 |
| 南區難波新地三番丁戎橋筋角 | 難波支店 電話南 三一八四番 |
| 東區心齋橋筋博勞町角 | 心齋橋支店 電話南 一六六七番 |
| 西區北堀江あみだ池表門通角 | 堀江支店 電話西 二九〇九番 |
| 北區下福島船津橋北詰北入 | 船津橋支店 電話土 二五八四番 |
| 北區天神橋筋表門通南へ入 | 天神橋支店 電話東 四四二七番 |
| 西區九條通(新道)二丁目 | 九條支店 電話西 貳壹參四番 |
| 北區曾根崎新地一丁目梅田新道角 | 堂島支店 電話架設中 |

月九年貳拾貳治明業開

資本金 參拾萬圓 (拂込濟)
 諸準備金 壹千九百參拾四萬八千參百九拾圓餘 (大正元年末現在)
 保險契約高 壹億壹千六百貳拾五萬七千五百餘圓 (大正二年末現在)

大阪市東區今橋四丁目 電話本局 貳拾三番 貳拾四番 貳拾五番

 日本生命保險株式會社

振替口座 大阪四百三拾番

保險料は低廉にして而かも八年目毎に大決算を行ひ剩餘金の一部を保險約者に配當すべく而して大正元年末に於ける剩餘金は參百拾萬圓に達したり株式組織相互組織の長所を併有するは本社のもも特色とする所なり

買賣米期

大阪堂島米穀
取引所仲買人

三河商店

營業主任

山下甚之助

電話東 二二九七
一九七〇
四三四五
主任自宅 一三三九
電話東 三四五八



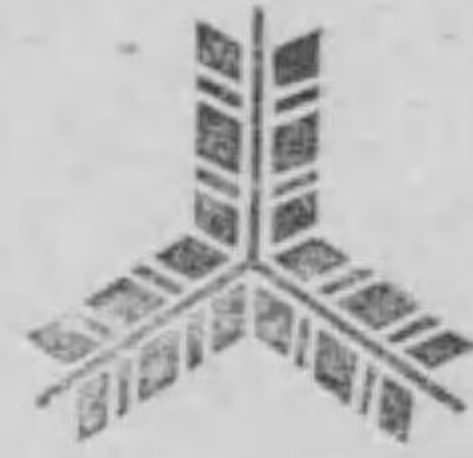
株式會社 大正貯金銀行
頭取 土居通夫

東區淺路町二丁目 電話本局 一六三三番 一八三三番
 西區京町通千代橋東へ入 電話本局 二七三三番
 東區松屋町通河津町西へ入 電話本局 三八六七番
 南區津波新地三丁目 電話本局 三二八四番
 東區心齋橋通河津町西へ入 電話本局 一六六七番
 西區北堀江通河津町西へ入 電話本局 二九〇九番
 北區上野町通河津町西へ入 電話本局 一五八四番
 北區天神橋通河津町西へ入 電話本局 四四二七番
 西區九條通河津町西へ入 電話本局 四四二七番
 北區曾根崎新地二丁目 電話本局 四四二七番

品用御省内宮



四季ノ好飲料
 三三三三
 ツツツツ
 矢矢矢矢
 シジヲサ平
 ナンレイ
 ルジンダ野
 コヤジ | 水



大阪株式
 引所仲買人

今川卯三郎商店

大阪今橋二丁目

電長本局 (四四九、四五〇、
 四五一、一七九八)
 市場特設四五二

株

式

米

米

營業所 大阪北濱取引所表門前

電話局本 (二三九〇)
二三九一
二三九二

大阪株式取引所仲買人

那須善治商店

住宅 兵庫縣武庫郡住吉村

電話御影三七三

賣

買

米

米

大阪堂島米穀取引所

仲買人

北區堂島濱通一丁目

橋本商店

營業主任 曾我一郎

電話 (東一二五〇)
東一二五一
東一二五二

大阪市東區高麗橋三丁目

株式會社

百三十銀行

支店及出張所

大阪市久寶寺町
攝津平野町
豐前小倉町
全若松町
朝鮮釜山港
丹後新舞鶴町

全北堀江
全茨木町
全八幡町
全阪西濱浦
全大阪鎮南

全安治川
全福津市
全前中津
全朝鮮平壤
全攝津

全市難波元町
全大阪市鶴橋
全丹後市多
全筑前市博
全朝鮮仁川港
全越前市江

東區高麗橋二丁目一番地

株式會社 三井銀行大阪支店

電話本局 三三三番 三三四番

西區新町通三丁目十六番地

同 大阪西支店

電話西區 二三二番 二三三番

財界ニ雄飛セントセラ
ル、各位ハ確實ト懇切
トテ以テ常ニ顧客ニ滿
足ヲ與フル



大阪株式取引所仲買人
加藤太治郎商店
ヲ利用セラレヨ

東京株式 場

に於て賣買せんさせらるゝ方は
◎誠意忠實に顧客本位を主義させる

東京株式取引所仲買人

五 高岡株式会社

東京兜町二丁目

電話浪花 (局)二〇六四 (局)一五八九
(局)二〇六五 (局)二四九九

を利用せられよ

●營業案内及商報
御申越次第進呈

●營業案内御申越次第進呈可仕候
●少數にても確實なる御注文を歓迎致候
大阪株式取引所仲買人

石 石橋株式会社

東區北濱一丁目

電話本局 (局)一六六 (局)三三三二
(局)三三三三 (局)自宅八二五

●毎月五日株式の友發行無代進呈

誠 株式の賣買は最も機敏なる取引を秘訣と存候弊店は特に此点に留意し
實 一年の経験に鑑み誠實を主とし至極迅速に取計可申候間多少に不拘御
用命被下度希上候

●營業案内御申越次第進呈可仕候

大阪株式取引所仲買人

S 白洲株式会社

東區北濱二丁目

電話本局 (局)一八四〇 (局)三三五四
(局)一八四二 (局)三三五五

速迅

臺灣行出帆期日變更

亞米利加丸

每月

神戶發正午
 門司發後四時
 基隆着前六時

笠戶丸

每月

神戶發正午
 門司發後四時
 基隆着前六時

兩船共總噸數六千三百噸 客室廣潤 壯麗ニシテ船體動搖セス航海ノ安全ト愉快トヲ増進スベキ諸般ノ設備悉ク完備ス尙船内ニ無線電信局及郵便局ヲ置カル

大阪商船株式會社

大阪株式取引所仲買人

公債株式定期
 現物問屋
石井株式店

東區今橋二丁目

電話本局長 三三四 二〇〇九
 一五三三 二一九九
 市場連接 二〇六四



「株式期米の思惑を
爲さんごせば須ら
く參謀の撰擇を嚴
にせよ本社は常に
靈妙なる觀測を下
して遺憾なからしむ」

大阪北濱一丁目八十九
相 場 觀 測 會

(電話長本局七番)
(大阪一八九六番)

大阪株式取引所
仲買人

吉田信次商店

大阪市東區北濱二丁目百四十五番邸

特電話本局 九九九〇番
九九九一番
九九九二番
發電畧號(カ)又ハ(ヨシタ)

大阪株式取引所仲買人

公債株式
定期現物

問屋 林田株式店

大阪市東區北濱堺筋南入

電話長本局 一一〇三二番

公債株式定期物問屋

大阪株式取引所
仲買人

豐田喜三商店

大阪市東區北濱二丁目

電話
本局 一七六一番
本局 一七六六番
本局 一七七六番
本局 一七八九番

大阪萬便覽

總說

中村六車編纂

大阪市

●大阪市 日本唯一の大商業地としての大阪市は攝津國の東南隅に位置し廣袤東西二里餘南北亦二里餘に亘る大都會にして最近の戸數三十萬六千四百九十五、人口壹百三十三萬七千九百九十九を算し其の年次の統計上平均年齢戸數に於て壹萬貳千、人口に於て五萬七千余を増加しつ、ありて其の膨脹力全國中無比の發達を遂げつ、あり。

●地勢 市街東部の南北に亘りて一帶に丘陵起伏せる外概して平坦南方は和泉の諸部落に接し西方大阪灣を擁して遠く紀淡の諸嶋嶼を望み北方東西成郡の平野に接して新淀川を控制す街衢井然として近く市内電車の開通に依り一層面目を一新したり而して淀川の本支流、縦横に貫通し灌漑運輸の便頗る盛也然も百貨輻輳其の二六時中人跡の

絶たざる如何に以て其の殷賑なるかを窺ふに足るべし。

●區劃 市内を東西南北の四區に分つの外、從來俗唱せる地名あり北區に屬せるもの天満、堂嶋、梅田、福嶋、中之嶋、東區にあるを上町、高津、船場、南區に屬せるを天王寺、今宮、難波、嶋之内、西區にあるを堀江、新町、難喉場、九條、川口と總稱す蓋し一小區劃を總括して交通指呼の便に供せる也。

●八百八橋 江戸の八百八町に對比して水の都なるだけ其稱號を得たる也實に大阪市は河川縱横に貫通しあるがゆへに至る處橋梁の架設あり古來有名なるは天満、天神、難波、高麗、心齋橋等にして其大小の橋梁數多き枚舉に遑あらず洵に八百八橋の名空しからずと云ふべし。

●商工業 水の都又煙の都と稱へられつ、ある大阪市は實に商工業の都なり昨今七千の工場と二萬の商業組合員を有し一年五百萬噸の船舶を港口に吞吐し壹百五十萬噸の物資を鐵路に送迎し而して更に十五億圓の手形を交換して二億圓の工藝品を輸出しつ大、ある阪市は今後大阪築港の完成と相俟て益々膨脹の威力を逞ふせんす近く

西比利亞鐵道開通しパナマ運河の竣成あらんか大阪市は正さに東洋貿易港の中軸となり英領香港を凌駕して東洋第一の貿易港たる運命を支配するに至るべく蓋し熾んなりと云ふべき也。

●大阪市の沿革 神武天皇東征の砌舟師難波の津に入らせ給ひしより浪速國と名けられしは古事記に見へたり難波津に咲くや此の花の和歌は王仁の諷詠にして今尙人口に膾炙せらる應神天皇此津に大隅宮を造營し給ひ又仁德天皇高津宮に都を遷させ給ふや聖德四紘に溢れ至仁至慈、億兆其の高徳に霑被したるは千古の歴史に赫々たり敏達帝の御宇に守屋が佛像を難波堀江に投じたる聖德太子の四天王寺を建立したる推古の朝唐使を難波大郡に饗應したる孝德帝の難波豐崎に宮殿を築造せられたる聖武帝が難波に都を定められ畿内七道に巡察使を派遣されたる之れ古き大阪の歴史を飾るものにして爾來春風秋雨幾星霜、明應年間蓮如上人石山坊本願寺を此地に設けられ光教上人の時代に於て石山城の築造あり降つて豊臣秀吉の大阪城を此地に築き以て天下に號令するに至りて大阪市なる大基礎は茲に初めて完成せられたる也故に市人は今尙豐公の偉

業を徳とす共大阪市のあらん限り此の光輝ある歴史は永劫末代に至るまで朽つるの期莫かるべし。

四

●大阪史の花 古來大阪市を詠せる古歌少からず今古書を涉獵して拔萃せるもの十數首を得たり反覆玩味せば恍惚として昔の面影や偲ばれん

難波津に咲くや此花冬ごもり今を春べと咲くやこの花 王 仁

芦浦(木津邊の西海岸) 延喜の御製

人事の頼みがたきは難波なる芦のうら葉のうらみなる哉 鎌倉左大臣

高彦崎(堀江邊の西の岬) 天地のひらけし代より神さびてはるかになりぬ高彦の崎 後鳥羽院

御津濱 心あらん人の爲めと霞すむらん難波の三津の春の明けほの 慈 鎮

難波江(西長堀の西北の川筋) 難波江の芦の枯葉の春風に秋見し露ぞ袖にこぼる、

敷津浦(土佐堀川の下流の邊) 俊 惠 法師

もしほ草しき津浦ほのねごめには時雨にのみや袖はぬれけん 讀 人 不 知

高津海(芦浦の北方) 名に高き高津の海の沖津浪ちへにかくれぬ大和しまねは 同 上

勝間浦(勝間村の西の海邊) 思ひ出よ千代の子の日の今日毎に勝間の浦の岸の姫松 西 行

白洲岬(木津の北方) 難波がた汐干はむれて出立ん白洲の崎の小貝拾ひに 定 家

堀江(天王寺の東方、百濟川、平野川、狭山川、堀江川の合したる箇所) 堀江こぐ霞の小船行きなやみをなじ春をもしらふ比哉 持 家

堀江川(右の堀江より岐れ今の嶋の内附近を流れし川ならむ) 舟木ほふ堀江の川の水きわにきるつ、鳴くは都鳥かも 良 環 法師

大江の岸(嶋町の邊)

五

渡邊や大江の岸にやどりして雲井に見ゆる生駒山かな

玉造江(玉造の東、百濟川の沿岸)

小町

港入る玉作江にこぐ船の音こそたてね君をこふれど

百濟川(猪飼野の東を流れし川)

俊頼

世の中にしづむとならば百濟川流れ失せぬる我身もかな

味原(味原町附近)

家隆

月清みあじの、原の夕霞さ、めわけくる衣さぬれぬ

●市政概様 明治の始め舊來の政廳を廢し大阪鎮臺を置かれ醍醐氏之れが督たり元年七月後藤象次郎氏大阪知事となる同二年西四辻氏之れに代り府縣の施政なるに及び南北及天満の三組を廢し更に東西南北の四組を設け其の下に東は二十六番組、西は十三番組、南は八番組、北は十五番組を置かれ町數通じて六百三十六となりたり同四年十一月二十二日大阪府を廢し即日更に大阪府を置かれ渡邊昇氏知事となる(明治四年十一月二十二日任權知事、明治十年一月二十二日進知事)同五年に至り改めて市區四

大組八十區に編成一區毎に會議所なるものを設け大中小年寄助役の職員を置き市政を差配したり越て明治十一年に至り郡區町村編成法に基き從來の組區を改めて東西南北の四區に分ち區に區長、町に戸長を置き區會、町會を開く同十三年建野郷三氏知事となり爾來屢交迭あり同二十二年四月市町村制の實施と共に茲に獨立せる「大阪市」なる名稱初めて付せられ東西南北の四區を統ふるに至れり然れども當時は東京、京都と共に特別市制を實施されたるを以て時の知事西村捨三氏市長の事務を兼掌したり同三十年四月市街區域擴張せられ西成、東成の兩郡に屬せる市街接續の町村を合併したり此の結果として東區百六十三町、西區二百十二町、南區九十七町、北區百九町合計五百八十一町となりぬ翌三十一年特別市制の廢止に依り茲に初めて市役所を開設せられ市長以下の市役員の任命を見、市會議員六十名、區會議員壹千餘名なる自治的行政事務の設備全く整頓せるに至れり當時の市長は田村太兵衛、助役は平沼淑郎、後藤玉城の諸氏にして爾來市長として鶴原定吉、山下重威、植村俊平の諸氏順次就任せられ本年二月に入りて男爵肝付兼行氏が植村氏辭任の後を承けて市長に就かれ以て現今に至れる

なり。

部 分

東 區 之 部

●東區 位置は市街の中央に在り東は猫間川を限り北は大川を挾んで北區と界し南は博勞町を以て南區に列なり西は西横堀川を距て、西區に對す廣袤東西三十丁南北長きところ一里餘にして總町數二百二十四、最近の人口六萬九千七十七、人口二十六萬五千六百六十二にして區内は比較的大賈巨商を網羅し有名なる會社銀行等を包容して商業の中樞地とも稱し得べし。

●東區内電車線路案内

●東區内電車線路案内 名所舊蹟其の他主要なる事項に付いては以下順路項を分ちて仔細に説明しあるがゆへに其の編に就き一覽を仰ぐべきも此の線路案内は單に各市外電鐵停車場に於ける木標式立札に準ぜるものなれば幸に諒せられよ。

- 天滿橋南詰停留場 ○京阪電鐵京都行乗場(東隣) ○大阪肛門病院(西前隣)

- 藤田男爵邸(東五丁) …… ○京阪電氣軌道株式會社(東北十丁)
- 大日本冷蔵株式會社(東北十二丁) …… ○大阪階行社(東三丁)
- 大阪城京橋口(東五丁) …… ○大阪衛戍病院(東三丁)
- 片岡直輝氏邸(東三丁) …… ○ニコライ教會(西三丁)
- 鈴木馬左也邸(西三丁) …… ○井上周氏別邸(西四丁)
- 百三十銀行八軒屋支店(西三丁) …… ○銀行新聞社(西四丁)
- 辯護士鈴木豐次郎氏邸(西南四丁)
- 大手通 …… ○師團長邸(東一丁) …… ○大阪地方幼年學校(東一丁半)
- 輜重兵大隊(東五丁) …… ○住友理事湯川寛吉氏邸(東北二丁)
- 大阪城大手門(東六丁) …… ○三十四銀行頭取小山健三氏邸(西四丁)
- 大手通谷町筋南北には新古の洋服商店多し
- 内本町一丁目 …… ○第七旅團司令部(東三丁) …… ○大阪聯隊區司令部(東三丁)
- 砲兵第四聯隊(東四丁)

- 谷町四丁目……○大電善電所(西二丁)
- 谷町五丁目……○歩兵第三十七聯隊、歩兵第八聯隊(東四丁)
- 谷町六丁目……○代議士守山又三氏邸(東二丁)……○山口銀行支店(西二丁)
- 上本町二丁目……▲此の界限兵營を控あるがゆへに小飲食店多し
- 大阪鑛山監督署(北二丁)……○大阪大林區署(北西二丁半)
- 東雲町……○ウキルミナ女學校(北三丁)……○清水谷女學校(南一丁)
- 玉造稅務署(南三丁半)……○明星商業學校(南四丁)
- 眞田山(南五丁)……○東雲新報社(北東四丁)
- 玉造終點……○官鐵玉造驛(南一丁)……○玉造座(南一丁)
- 上本町三丁目……○玉造警察署(北半丁)……○大阪貯蓄銀行支店(南半丁)
- 上本町五丁目……○高津宮址(東六丁)……○味原池(東七丁)
- 上本町六丁目……○日本赤十字病院(東六丁)……○産湯稻荷(東七丁)
- 柳廣藏氏邸(東七丁)

- 上本町七丁目……○生魂神社(西四丁)……○桃山中學(東六丁)
- 桃山病院(東八丁)
- 上本町八丁目……○天王寺中學校(西前)……○三井物産藤野龜之助氏邸(東五丁)
- 上本町九丁目……○毘沙門池(東前)……○紅葉寺(東前)……○菊池恭三氏邸(北半)
- 廣岡惠三氏邸(東一丁半)……○高倉藤平氏邸(東三丁)
- 女子師範學校(東四丁)……○高等商業學校(東五丁)
- 官鐵桃谷停車場(東七丁)……○豊川稻荷(東七丁)……○大嶋甚三氏邸(西前)
- 天神橋南詰……○高麗橋郵便局(南一丁)……○嶋町地藏尊(東南二丁)
- 大阪巡航株式會社(東前)……○伏見通い汽船昇降場○巡航乘降場(東前)
- 大阪衛生試驗場(東一丁)……○高麗橋(西南二丁)……○北濱築地(西二丁)
- 大阪遞信管理局(西南三丁)……○大倉組支店(南西三丁)
- 魚芳樓(西南三丁)……○臺灣銀行支店(西南三丁)
- 大阪舍密工業株式會社(西南半丁)

- 北濱……………○大阪株式取引所(東南角)……………○各株式取引所仲買店(此附近に在、浪花橋(西半丁)……………○木村長門守碑(西北一丁半)
- 大阪銀行集會所(西北二丁)……………○大阪ホテル(西北三丁)
- 大林組(西一丁)……………○辯護士武内代議士邸(西一丁半)
- 北濱銀行(西南三丁)……………○砂川辯護士邸(西南二丁)
- 市場之大阪社(西南二丁)……………○山中骨董店(西南二丁)
- 株式日報社(東南二丁)……………○大阪夕報社(東二丁)
- 經濟日報社(東南二丁)……………○灘萬(南前)
- 淀屋橋南詰……………岩井商會(南一丁)……………○日本生命保險株式會社(南三丁)
- 三十四銀行(南東四丁)……………○三菱大阪支店并ニ銀行部(南三丁)
- 大阪日々新聞社(南前)……………○大阪毎日新聞社(西二丁半)
- 劇場帝國座(南西五丁)……………○商業興信所(東一丁)▲西方は大川町にして此界限旅館多し

- 高麗橋……………○三越服呉店(東前)……………○三井物産○三井銀行(東半丁)
- 山中商會(東一丁半)……………○愛國生命支店(東一丁半)
- 東京火災支店(東一丁半)……………○帝國生命支店(東北二丁)
- 小川平助氏邸(東北一丁)……………○鴻池銀行(西北一丁半)
- 高橋安次郎氏邸(西北二丁)……………○谷回春堂(谷新助氏邸(西南一丁)
- 大阪麥酒支店(西一丁半)……………○百三十銀行(西三丁半)
- 大阪貯蓄銀行(西四丁)第一銀行支店(西二丁)……………○大阪時事新報社(西二丁半)
- 平野町……………○石崎合資會社(西前)……………○電話交換局(西二丁半)
- 浪速銀行(西南三丁)……………○中井洋服店(南一丁半)▲高麗橋平野町の中間道修町は賣藥店舖櫛比し其の繁昌を極めつ、あり
- 本町二丁目……………○東警察署(東半丁)……………○東區役所(東三丁)
- 芝田大吉氏邸(南東一丁半)……………○京都商工銀行支店(西一丁)
- 山中合名會社(西一丁半)……………○森下仁丹(東北三丁半)

○野村定期現物問屋(西北二丁) ▲本町通は太綿太物問屋多く四方よりの注文瀕繁也

○南久太郎町……○大阪三品取引所(西二丁)……○八木與三郎氏商店(西二丁)

○山口銀行(西北三丁)……○住友銀行支店(東前) ▲南、北久太郎町附近は三品取引所仲買店營業しつ、あるがゆへに綿絲賣買の顧客來り集まり大に賑ふを見る

○博勞町……○第一銀行支店(南二丁)……○船場郵便局(南西二丁)

○寺西製油所(東南三丁)

○内本町二丁目……○博物館(西北一丁)……○東洋救済貯金株式會社(西二丁)

○東稅務署(東二丁)……○東消防署(東二丁) ▲此附近松屋町通は各種商品商はれ就中、刀劍小切もの、青物魚市等日々賑し

○本町三丁目……○近江銀行(北二丁半)……○第三銀行(西二丁半)

○本町四丁目……○有隣生命保險株式會社(北一丁半)……○船場銀行(北二丁半)

○祭原洋酒店(北一丁)……○濱谷帽子會社(南一丁)……

○大阪電燈修繕所(南一丁半)……○津村別院……○相愛女學校(西北二丁) ▲此停

留場は心齋橋通なるがゆへに往來頗る瀕繁也

●大阪城址 大阪市に去來する遊覽人十萬歳幾十萬人而して是等々々の腦裏に刻する大阪市の繁華を誦ふと共に必ずや豊太閤の偉業を聯想せざるはなし 從て大阪城なる副業を追思するを禁ぜざるものあるべし 然り 春風秋雨幾百年歳、幾多の變遷、幾多興亡の歴史を有しつ、ある大阪城址は今尙古の宏大なる霸蹟を止めて市の東北隅に傲踞せり 現存せる城の周圍一里餘、東南は玉造に接し 猫間川、寢屋川の二流東北を廻り大手、京橋、青屋、玉造の四門あり之れ天正十一年豊臣秀吉の築城せる一部にして古の所謂帶曲輪、外曲輪なるもの遠く市街に散在して今近く認むべからず此地先に石山と稱へ明應年間蓮如上人石山坊なる一字を建立し後光教上人日蓮宗徒を防がんとして築城したるもの光佐上人の時に至り織田信長と隙あり兵を構ふ此際兵燹に罹り烏有に歸したるを天正十二年豊公其趾に築き日本第一の金城鐵壁とはなれり即ち豊公の霸權を握るに至りて文祿の四年迄居城し以て天下に臨みたりしも慶長三年豊公の薨するに及び秀頼此れ

に居れり元和元年に至りて徳川家康の爲めに落城し爾後徳川氏の有るなれり徳川氏之れを松平忠明に賜ひ同八年内藤紀伊之守信忠を以て城代と爲す爾來幾變遷明治初年大阪鎮臺を置かれ今は第四師團司令部とはなれり城内規模飽迄も宏大にして古今興廢の蹟人をして轉た舊懷の念に堪へざらしむ遊覽の順路としては市電本町一丁目若しくは大手停留場に下車するを便とす。

●大阪落城の戦況を報告せる書状

元和元年夏五月七日大阪落城の砌り深く本丸に攻め入り秀頼親子の居座せる處までも襲ひたる徳川勢の旗頭井伊掃部頭直孝に従ひ軍師として智謀勇略を奮へる岡本半介宣就が落城の翌八日勿々江州なる井伊の家中に向け早飛脚を立て、戦況を齎したる其の書翰は今猶ほ大切に保存されて東警察署 巡查部長上田壽福氏の手にも抑も上田氏は如何にして斯かる珍書を藏せるやを聴くに今より十數年以前舊井伊家の御用間を勤めたる江州の兩替屋何某と云へるもの往昔の豪奢に引換へ見る影なりく零落して京都に佗び住居せる折柄傳手ありて同氏は其家に同居したる事ありしが其

の後大阪に移らんとして同家を辭する際紀念に差し上くべしとて贈られたるは即ち件の書狀にて程經て後ち計らずも斯かる珍しき品なることを知るを得たり筆者の岡本半介と云ふは初め熊井田新八正武と稱し姓を石上を呼びしが後ち岡本を嗣ぎたり最初は上州小幡の臣にして武田家に仕へて上泉常陸介秀胤に従ひ小笠原氏隆の兵法を學びて氏家流一名上泉流の兵法家となり井伊掃部頭に仕へ帥に従ひて屢次功を建てたるが隠居して喜菴と呼び嵯峨流の書を能くし茶道に詳しく畫に巧にして松花堂と親交あり専ら風流の道に遊び居たるが明曆三年三月十一日八十三の高齡を以て歿せりと其の戦況報告の書翰は中助大夫、大新右衛門、大女蕃他一名に宛てたるものにして嵯峨流の筆蹟美はるしく以下の如くに記され文字頗る古簡にして能く意を盡し讀み行くうち歴々として當時の戦狀を窺ひ思しむるなり「態と早飛脚を以て申入れ候昨七日天王寺表に於て大合戦御座候て大阪町七ツ時分に落城仕候昨日の合戦掃部頭様御覺悟專一を以て勝利を得させられ候天下の名譽心易かるべく候其子細は越前少將様衆より軍を始め申候處眞田殿相懸り半時ばかりもみ合申し當

手より横鎗を入懸け崩し城際まで押込め申候處敵押返し藤堂殿衆を初め其外夥敷崩し申候處掃部頭様御馬驗押立旗本きらりとこたへ申候て又押返し町まで押込み火をかけ一時にもみ落し申候天下の大利冥加御叶成され候先以御満足成させらるべく候其爲申入候以上五月八日岡本半介

尙々中介七殿は御高名成され候(虫蝕)備前殿主水殿新作右殿(虫蝕)是非に及はず候以上(大正二年三月廿四日大阪時事より轉載す)

●大阪城内の遊覽 城内には見るべきもの多し大手門を入れば豊公築城の當時諸侯に課して運搬せしめたる巨巖大石、陸軍々樂隊(電東四一八〇)大阪衛戍監獄(東電三三九)櫻門、師團司令部(電東八)經理部あり司令部の建物は千疊敷と稱へられ舊和歌山城内に在りしもの明治初年茲に移されたるものなり有名なる銀水井は其の前庭に金水井は天守跡の上り角に昔へ金銀板を石に換へて投入したるものなりと傳へらる其の驕奢驚くべし天守跡には大砲一門据置かれあり砲は維新前徳川氏の鑄造に係り葵紋を刻しあり日々砲兵第四聯隊の兵士に依りて正午を報せらる所謂午砲是也人尙し此の臺址に登臨す

れば市中の全景を一眸の中に收め遠く周圍に攝河泉の山川を眺め又た烟霧渺茫の中に紀淡の峰巒を望むを得べし臺東に大阪上水道の貯水地あり之れ水源地より此處に湧き上げられ更らに之れより四通八達蜘蛛網の如く分岐して市民に日々清水を供給するの根源也●城濠 現存せる大阪城を廻りて築城以來、今も昔の色を湛へて變らぬ大濠あり濠中には幾戦役の都度投入せられたり云ふ武器彈藥數知れずと傳へらる明治四十四年一たび濠深の規畫ありしも中途沙汰止みとなりし濠内魚類多く生息し鯉鮒鰻鯰鼈龜山椒魚等其の主なるものにして風歌み水清き中に游泳するさま一美觀たるを失はず。●階行社(電東二〇四) 陸軍々人の俱樂部とも云ふべく二階造の洋館にして四圍繞らすに鐵柵を以し庭内樹木多く藓苔地を縫ふて清楚掬すべく門内戦役の紀念塔あり。●大阪砲兵工廠(電東一三三) 東區杉山にあり日本唯一の軍武器製造所にして大阪城京橋口北部より城の北東を廻り蜿蜒として玉造方面にまで工廠を駢建し此間約三十餘丁あり其規模の宏大なると共に内部の設計機械の精華を網羅しあるがゆへに精巧絶妙工業の發展轉た驚くべきものあり云ふ。

●兵營の數々 騎兵第四聯隊(電南四二〇)は東區小橋寺町俗に云ふ眞田山の一部に在り日清、日露戰役に殊勳を樹てたる名譽の隊旗を奉戴す(市電玉造東雲町二丁目停車場より南約三丁程)歩兵第八隊(電南二六〇八)と同第三十七聯隊(電南二七〇八)は法圓坂町に在り(市電上本町一丁北)第八聯隊は西南、日清、日露の各戰役に第三十七聯隊は日露戰役に參加し何れも武勳赫々の名譽を荷ふ第卅七聯隊の北隣は野戰砲兵第四聯隊(電南二六〇四)にして(市電谷町三丁目東)輜重兵第四大隊(電東四四三)は嶋町一丁目に在り共に名譽の戰歴を有す。

●師團長邸(電東二一四三) 第四師團長男爵大迫尙敏氏の官邸は大手前にあり同將軍の武勳は世既に知るに可なる也。

●旅團司令部 第七旅團司令部は大手前之町にありて野戰砲兵隊に南面す門前には日々衛兵を附しあり。

●大阪聯隊司區司令部(電東二〇二五) 之れ又た大手前にあり旅團司令部と隣接せり司令官は陸軍歩兵大佐濱面又助氏なり。

●大阪衛戍病院(電東三三五) 東區嶋町一丁目にあり陸軍病患者の收容するに可なる病室清潔内庭の花弁麗はしく病院として總ての施設間然するに可なるなし。

●森の宮 日本紀に推古天皇の六年夏四月 鵠二喉を難波の森に養はしむ云々即ち其森の跡にして俗に鷲の森と稱へられたるに可也明應年間蓮如上人別院を此の附近に建營したりしも信長の爲に攻められ紀州雜賀に落延びし時鷲の森の名を同地に移せり宮は官線玉造驛北七丁程大阪城南にあり聖德太子の御父用明天皇を祀れり。

●玉造稻荷神社 郷社にして豊津稻荷と稱す森の宮の南にあり倉稻魂神外四柱を祀る天正年間兵火に罹りしを慶長八年豊臣秀頼再興したり當地味原郷にありしもの寛永年間此地に移し次來屢修築を加へしもの今は玉造稻荷と崇拜せられ賽人多く縁日殊に賑ふ。

●玉造座 官線玉造驛西半丁突當りにあり此界限にての劇場として比較的評判高し
●産湯稻荷 味原池の南に位せる法藏山と唱ふる小丘上に在り比賣古曾神社の舊址なりと傳へらる社内には古來名高き産湯清水あり天兒根命十五世雷大臣の子、大小橋臣

命の産湯に供せるものなり。然かも清泉透徹冷明神々として四時絶ゆるなく市人之れを用ふるもの多し。而して此の界限に桃を植ゆるもの多きを以て此地一帯を俗に大阪の桃山と呼ぶ地は閑雅高燥四邊の眺望に富むがゆへに春秋遊士の群を爲す社傍に大厦高樓あり富豪柳廣藏氏(東區小橋東之町電南一六)の本邸也。

●小橋の里 高津宮址の北の地にして現今は小橋寺町小橋之町等の數町に分割さる我國架橋の始めたる仁徳天皇の十四年に架したる猪甘津橋の舊跡にして又大小橋臣命の館ありし地なり。

●圓珠庵 山小橋町に在り契沖阿闍梨の舊居にして契沖始めて此庵に留錫せる時浪波津は山はなれき我庵は高津なればや阪の上にある

と咏まれしとぞ住んで元録十四年正月廿五日六十二歳にして逝けり墓は庵の一隅にあり「契沖阿闍梨墓」と刻す遺愛の梅は今尙其の墓畔に存せり契沖の名は國學復興の碩學者として萬葉代匠記の編述者として青史に垂れたり明治廿一年十二月宮内省より阿闍梨の學徳を追賞ありて祭資料金六百圓及び從四位を贈り玉へり。

●衣川長秋墓 圓珠庵境内契沖の墓側にあり伊勢國一志郡須川の人にして本姓池田瓊齋と號す故あつて衣川姓を嗣く寛政三年本居宣長翁に師事したり後國學者として知らる文政五年二月十日享年五十八にして逝く碑文は本居大平にて衣川長秋奥墓と刻しあり。

●石津亮澄墓 同じく圓珠庵の墓地にあり曾根崎に生れ初め尾崎雅嘉に従ひ後本居大平に就て學ぶ最も和歌を能くしたり碑面に富草屋石津君墓とあり天保十一年二月九日歿す享年六十二。

●三韓阪 圓珠庵前の坂筋を云ふ此附近に往古鴻臚館ありしがゆへに其の名の起れるなり鴻臚館とは遣韓及遣唐使の出還に宴を張り若しくは入朝外人を饗應せる館なり。

●味原池 上記産湯稻荷の北方にあり周圍十五六丁もあらん延寶年間田地の用水として堀鑿せられたるものにして生田南水先生の著書に依れば古歌に往々謳れたる味原池なるものは此の池を云ふにはあらで此東方附近の低地なるべし云々其の他比賣古曾神の御

影池又は白鴨の御池なき、の古傳は信憑するものなし。

●高津宮址 東高津北之町にて近く味原池の西北に當れり明治三十二年十一月仁徳天皇壹千五百年祭を大阪市に於て行はる、や此の地に宮址を假定したるなりと土地は清潔に淨土を以て培はれ中央小松宮彰仁親王殿下の御筆にかゝる自然石の巨碑を建てられ周圍は蒼々たる樹木を植へられていと神々しく秀靈高雅にして俗塵を交へず門外鐵柵を廻らして日常人の出入を禁ぜり因に云ふ仁徳天皇の宮址に於ては考古家各見るところ異なるれども大阪城邊と云ふ説多數を占め居るもの、如し果して如何にや。

●飯岡澹湯墓 龍淵寺内にあり寺は産湯の西北、小橋中寺町にあり飯岡姓、名は考欽字は徳安澹齋は別號也、混沌詩社の盛なる頃教鞭を揮へり寛政元年十一月八日歿享年七十三、翁に三女あり長は天折し次女は頼春水に嫁して山陽を生み三女は尾藤洲二に嫁せりと翁の碑銘は頼春水の撰なりといふ。

●片山北海墓 梅松院(産湯味原池の北方小橋東寺町)にあり碑表に北海片山先生墓とありて裏面に蕉中禪師の撰文にて篠崎三嶋の書を刻せり越後新瀉の人にして名は猷

字は孝秩、浪華に來りて混沌詩社の盟主たり寛正二年九月廿二日歿享年六十八。

●入江長輔墓 同上梅松院にあり墓石の外側に墓誌を建つ文は頼春水にして書は篠崎三嶋なり入江氏諱名は昌喜別號を猿狓子といふ其の著書十二種六十餘卷世に現はる寛政十二年八月十二日歿す年七十九。

●阪本亮墓 同院境内にあり明治年代に於ける浪花詩壇の巨擘なり號を葵園、又は白蓮居士と云ふ碑文書は藤澤南岳の手に成る明治十四年十二月十九日歿す享年五十五。

●熊谷直好墓 同寺町西念寺にあり周防岩國の人にして天王寺夕陽丘の畔に居住し香川景樹の高弟なりき名を信賢俗稱を助左衛門又は勘作と云へりとなん文久二年八月八日卒去。

●主夜天堂 同寺町成道寺にあり盜難避けの主護神として市人の參拜するもの多く俗に主夜神と稱しつ、あり此の堂後の谷を御殿谷と云ひ仁徳天皇高津宮殿の下方にあるがゆへに附會せるならんも南水先生の著書に依れば大阪城本丸の御殿下に當りしを以て誤傳せしならん云々とあり。

●木村兼段堂墓 東區餌差町大應寺内にあり後藤隱岐守基次の六世にして其五世吉右衛門重周木村家の嗣となる翁は重周の長子にして家は酒造を業とし累世の富豪なりしと其の名は孔茶字は世肅異齋と號す人として博學多識書畫を善くし諸藝に堪能なりしと享和二年四月十八日歿す、年六十八、官命じて其の貯書遺文等を上納せしめ祭葬料として黄金五百兩を賜りしと傳ふ。

●淺生庵野坡墓 大應寺の南實國寺内にあり表面舊門第二世高津野々翁淺生庵春元居士と題し右側に元文五年正月三日行年七十八歳卒と刻しあり野坡姓は志太氏越前福井の入通稱を彌助と云ふ芭蕉翁に師事し一家を成せり。

●姫山神社 大應寺の北の辻を東に進めば同神社の北門に達すべし本殿に仁徳天皇を祀り末社に稻荷神社三光神社あり此の西隣は陸軍所管の墓地にして北邱壘々たるが中にも今井少將の墓標は高く群を抜けり。

●胞衣塚 山小橋の東下小橋人家の南方にあり大小橋命の胞衣を埋納せし所なりといふ寂しけなる柳樹の下に小石を建て其の所在を示せり。

●比賣古曾神社 右胞衣塚の北に小社あり此の町邊の氏神とせり祭神は諸説區々にして考證家の詮議に任せんも南水氏は天探女を祭れりと云ふ其の説に依ると天探女は天日矛の妻にして大國主命の時代に難波の海上の霸王たりしものなりといふ。

●磐船山 小橋に一堆の丘あり俗に岩船山と云ふ天探女の船を泊し地なるよし傳説す昔此所を掘しに船の如き大なる石ありしと蓋し石棺ならんか萬葉集に

ひさかたのあま探女がいは船の泊し高津はあせにせるかも

●味經宮趾 小橋方面に起伏せる一帯の高草中産湯の森の附近なるべし今築地と稱ふる字あり日本紀に孝徳天皇白雉元年春正月朔車駕幸味經宮云々あり則ち此處なるべしと云ふ。

●大阪電氣軌道株式會社(電南二五〇一、二五〇二) 東區上本町六丁目に在り明治四十三年九月の設立にして資本金參百萬圓大阪玉造附近より河内の諸町村を縫ふて奈良に至る電車軌道にして沿線には信貴山等の有名なる古刹あり近く生駒山隧道開通の上は開業のころ、なるべし社長は岩下清周、専務取締役は七里清介氏なり。

●寺院の數々古墳墓 東區に屬する谷町八九丁目并に寺町方面には有名なる寺院に世に誦はれつゝある古人の墳墓尠からず今一々詳細に之を掲げんは記者の造詣深からざるに古書抄獵の時日乏きとあり只其の一片の概様のみを紹介するに止めたり

●僧物外墓 高津神社の東、西高津中寺町禪林寺境内にあり俗に云ふ拳骨和尚之れ也。

●小嶋形山墓

同じく同寺境内にあり丹波の人にして彫刻に巧妙なりしと云ふ。

●中嶋貫齋墓

同境内にあり火技中嶋流の元祖なり。

●古林正桂墓

同境内にあり古林家は代々の大醫にして其の名畿内に冠たりしといふ。

●中村芝翫墓

西高津中寺町正法寺内にあり名は歌右衛門諱宗讀號芝翫天保九年七月廿五日逝く此の優は梨園界稀有の人物にして文學の素養もありて其の技藝以外に於ても他俳優の摸する能はざるの趣味を有せり其の著、芝翫節用集、梅玉除穢等の外、數種の草稿を遺したりと云ふ。

●阪本俊貞墓

同町大倫寺にあり天保八年大塩平八郎の亂に銃を執りて賊徒を潰走せしめたる人なりといふ。

●三浦道齋墓

大倫寺の東、大仙寺にあり相洲鎌倉の人にして醫を業とし側ら覺を開いて國學禪學等の教授をなせり。

●石井宇右衛門墓

同じく大仙寺内にあり世に傳へらる、龜山復讐談中の本人なり石井氏は丹波篠山の城主青山宗俊の家臣にして宗俊の大坂城代となるに及び扈從し來り當時赤堀源右衛門なるもの鎗術の看板を上げて諸人を教授したり石井之れと親しく交はりたるに或日赤堀の技術未だ不鍛練なりと語りしを赤堀のしるころとなり爲めに暗殺せられたるものなりと傳ふ。

●近松門左衛門墓

谷町寺町の妙法寺にあり同寺は近松家累代の墓所にして戯曲界古今獨歩の大家として門左衛門巢林子の名は天下に響き亘れる今更いふまでもなし。

●寶相寺

上本町四丁目にあり寺内に演劇に仕組まれて浮名を誦はる椀久三松山と

の墓あり又五井蘭洲の墓あり和漢の學に通曉したる大家なりし。

●村原西鶴墓 實相寺の南誓願寺内にあり西鶴は大阪の人にして西山宗因の門より出づ碑史小説家として其の名聲天下に鳴る石碑は方柱にして二尺有餘正面に仙鶴西鶴と刻す古より其の文名を慕ふて來り吊するもの多し故人にしては曲亭馬琴、明治文豪尾崎紅葉等も來吊せりとか而して今尙文人騷客の香烟絶すと云ふ。

●中井一家墓 同じく誓願寺にあり齋庵中井先生、竹山中井先生、展軒中井先生其の他一家の墓は皆此寺内に建てらる當代の碩學鴻儒今は枕を列べて此の地下に眠れり又並河樺翁の墓あり中井家の姻戚にして懷徳書院の教授たりし。

●十時梅厓墓 誓願寺の南、正念寺境内にあり大阪の人にして伊勢長嶋侯の儒者となれり名は賜字は子羽、通稱は半藏にして梅厓は其の號也其の書畫に巧なりしこと今尙其の遺墨の珍重せらる、に於て知るべし。

●生國魂神社

市電上本町七丁目下りて西筋を一直線に行けば同神社の東門に達す

すべし社は東區生玉町なる眞言坂上に位置し東北に門を構ふ東南は人家に近邇せるが故に眺望を欠くと雖も西北は市中の光景を一眸の中に集め遠く播淡の諸山を望見するを得べく境内又宏大にして樹木を適度に排栽し就中花の三月櫻花に富むがゆへに生玉の夜櫻等の唱へあり官幣大社にして祭神は生國魂、足國魂にして大物主神を合祀す夏祭は六月廿八日、秋祭は九月九日にして縁日は毎月九の日に當り大に賑ふ本社の草創年代は神武天皇の御宇ともいひ應神天皇時代ともいひ區々なれども元は今の大坂城内にありしもの、如く明應四年蓮如上人の時石山本願寺(大阪城本丸の地)の傍に鎮座しありたるを天下一年間織田信長本願寺と戰ひ其際兵燹に罹りたるを以て同十一年神璽を鎮めて此地に移したり慶長年間豊臣秀吉大阪城を築くと共に片桐且元をして奉行たらしめ大に金帛を奉り拜殿社殿を建築したり然も本社建築は八ツ棟造と稱し大阪天主閣と同式にして莊嚴美觀此上もなかりしに明治四十四年の秋、南區の大火に際し恐れ多くも飢上し本社并に多くの建物をして烏有に歸せしめたり幸ひに御神体に別條なかりしはいとも賢き限にこそ社内には豊臣秀頼献上の石燈籠あり現今の社殿は飢上以

後の建築に係れり。

●北向八幡宮 生玉神社東門外左側にあり本殿は北向にして豊臣秀吉の創建なり云ふ蓋し大阪城鎮護の爲めなり毎年五月五日流鏑馬の神式を行ふ元此地は大阪城中の諸士が射御の稽古場となしるるを以て豊公より時の宮司に命じて八幡宮を勸請せしめたりとかにて該神式は之れに因りといふ。

●眞田山 東區宰相山町と小橋寺町に喝躍せる一帯丘陵にして茶白山と並び稱せらる、有名古戰場也市電東雲町二丁目より南約三丁程にあり眞田幸村が半月の城壘を築たる處より此の名ありと云ふ又元和の役に加賀宰相の陣ともなりしがゆへに宰相山とも呼ぶ此地の一部は騎兵聯隊を置かれあること既記の如く又西南役よりの軍人墳墓地ともなり居れり。

●清水谷高等女學校(電南一四五) 清水谷東之町にあり賢母良妻多く此門より出ず市内女學校中成績首位を占め居れり。

●玉造稅務署(電南一二七三) 空堀通二丁目にあり此の附近に於ける稅務事項を執

掌す。

●明星商業學校 清堀町にあり中等科程度の商業教育を専門とす。

●ウキルミナ女學校 外國人の經營になる高等女學式程度の學科を教授す校は仁左衛門町の高地にありて空氣の流通に宜しく校内又閑雅清潔なり。

●大阪大林區署(南一七〇〇) 東區内久寶寺町二丁目にあり(市電谷町六丁目又は上本町一丁目)農商務省に直隸し國有林野及部分山林に關する事務を掌握す。

●大阪鑛山監督署(電南五六七) 上本町一丁目にあり農商務署の管理に屬し鑛山採掘測量許可等に關する一切事務を處理す。

●朝日神明社 上町神崎町(市電末吉橋北三丁程)にあり市内三神明社の一にして俗に逆船船とも云ふ逆船の論ありし時双方より祈願せるに依ると又朱雀帝が平將門及純友征討の砌勅祭せられたりとも傳ふ昔時方八丁の社祿あり秀吉築城の際此社のみ他に遷さず尊崇し玉へりとぞ。

●東消防署(電東六〇一) 東區内本町二丁目にあり。

●東税務署(電東七〇、七一) 東區内本町二丁目に在り區内の稅務事項を執掌す。

●照日神明宮 東區内平野町二丁目にあり朝日夕日と並稱せられて市内三神明宮の一なり天照皇大神を祭る緣日は御靈神社と同じく每一、六の日なり。

●博物館 東區松屋町筋本町橋詰町にあり此地徳川時代に於ける西町奉行所の跡にして明治七年大阪府廳の建物を充用し同八年十一月開場したるものにして大阪府の公設に係る爾來次第に規模を擴張し現在の官地五千四百餘坪、館の東側松屋町筋に面せる一帯は勸工場に充て諸工藝品の販賣に供せり東西二門を開き行客の縦覽に任かす

館内の美術館は珍奇なる接木細工より成れる一種の洋風の建築にして各社寺秘藏の古畫を摸したる貼天井は注目を惹く館内には時々新古の美術品を陳列して縦覽に供し周圍には茶店、運動場、盆栽等を列ね就中、動物園は世界の珍鳥奇獸等を飼養しあり又時々奏樂、能歌舞等の開催あり僅に金二錢を投すれば終日の觀覽に慰安を得ること深し。

●大阪油取引所(電東八七五) 東區豊後町に在り明治廿六年の設立に係り資本金十萬

圓の株式會社にして菜種油、棉實油、及石油の賣買取引を爲す。

●大矢組(電東四三二) 内淡路町一丁目に在り合名會社にして明治廿九年の設立に係り資本金十萬圓汎く諸物品の販賣を業とす社長は大矢奈良吉氏なり。

●大倉組支店(東自二二九、至三三四) 東京大倉組の支店にして高麗橋東詰南入釣鐘町二丁目にあり。

●高麗橋郵便局(電東二四七) 高麗橋東詰に在り郵電爲替貯金一切の事務を取扱ふ

●高麗橋 大阪市に於ける鐵橋の嚆矢にして明治三年の架設に係り各地への里程元標は此橋を根基とせり長さ四十間巾四間の小橋なれど其名高し同鐵橋は長崎の蘭學者本木昌藏と云ふ人の設計になりしと云ふ其以前の木橋は徳川時代に罪人を曝せし處なりと橋の西詰に今尙屋上に櫓の形を存する家屋あり櫓屋敷と呼ぶ。

●東横堀 今橋、高麗橋等を通じて南區大和橋に至る流域を東横堀と總稱す昔大阪城の外曲輪にして要害堅固の防衛地なりし也。

●東區役所(電本自一九〇至一九二) 本町橋西詰に在り區長は田中兵太郎氏也

●東警察署(電本九〇一) 本町一丁目に在り署長は警視野村壽三郎氏也

●野村定期現物問屋 備後町二丁目に在り市内に於ける新進株式仲買店にして其の業務の發展は其の資産の豊富と共に東西を通じて其の右に出ずるものなしとまで稱へらる店主は野村徳七氏なり(電本自六四三至六五二)

●近江銀行(電本自九六一至九六三) 備後町三丁目に在明治廿七年の設立にして資本金四百萬圓の株式組織頭取は池田經三郎氏にして其の營業狀態は年次旺盛累つ、あり。

●東支店 東區農人橋詰町 (電東二九一五)

●西支店 西區立賣堀南通一丁目 (電西二九六九)

●北支店 北區天神橋筋三丁目 (電東二六七三)

●南堀江支店 西區南堀江通三丁目 (電西三一五九)

●京町堀支店 西區京町堀三丁目 (電土佐堀一九一九)

●京都商工銀行支店(電本二五五〇三、五五二) 本町二丁目に在り本店は京都下京區東洞院通六角南入(電上一二、一三五、一八二六)頭取は田中源太郎氏重役には京都第一

流の實業家内貫甚三郎氏等を羅致す明治十九年十月の設立資本金三百萬圓の株式組織にして大阪支店長は三浦豊二氏也。

●第三銀行大阪支店(電本自三至五) 本町四丁目に在り本店は東京日本橋區小舟町三丁目明治九年九月の設立資本金五百萬圓頭取は安田善四郎氏大阪支店長は川澄末吉氏也。

●堀江支店 西區堀江通六丁目 (電西五一八)

●九條支店 西區九條町 (電西九九五)

●堂嶋支店 北區堂嶋濱通四丁目 (電土佐堀一三五七)

●大阪銅器合資會社(電東四二六) 東區南本町四丁目に在り明治廿九年九月の設立資本金十萬圓にして内外産の諸地金及製品の販賣に従事す。

●大阪三品取引所(電東七〇六、七〇七) 東區北久太郎町三丁目に在り理事長は今西

林三郎氏理事は岩田惣三郎氏外二名にして明治廿七年二月の設立に係り資本金一百萬圓、拂込金高六十五萬圓、綿糸、棉花、白木綿を賣買取引す創業以來の經過は年次波瀾なきにしもあらざるも概して良好少くとも八朱以上の配當を爲し得て紡績業界唯一

の機關として斯業の爲め多大に貢献しつゝ、あり。

●山口銀行(電東自八六〇至八六五) 東區唐物町二丁目に在り明治三十一年七月の設立にして資本金一百萬圓、行主は山口吉郎兵衛氏にして理事は坂野兼通氏營業部長は佐々木駒之助氏個人銀行なれど大阪の大銀行として信用顯著也今市内に於ゆる各支店を上ぐれば左の如し。

- 南支店 (電南七三五、五二七) 南區長堀橋筋二丁目
- 西支店 (電西一四九、一八〇六) 西區西長堀南通五丁目
- 北支店 (電東三六五〇) 北區天神橋筋一丁目
- 京町堀支店 (電土佐堀一九七五) 西區京町堀二丁目
- 堂嶋支店 (電東二七六七) 北區堂嶋裏町三丁目
- 上町支店 (電南一二六四) 南區内安堂寺町二丁目
- 高津支店 (電南二三八九) 南區瓦屋町五番町
- 大阪市長邸(電南三七〇〇) 肝付兼行男爵の邸は博勞町二丁目にあり男が經歷は

海軍の水路部長として聲名當代に馳たるもの今春植村俊平氏の後を襲で市長となる。

●難波神社 博勞町五丁目にあり俗に云ふ博勞町稻荷之れ也祭神は仁徳天皇にして別に天照皇大神を祀る例祭七月廿一日、秋祭は十月廿一日、社内に稻荷座と云ふ劇場あり。

●座摩神社 東區上難波北之町に鎮座す難波御堂の西裏に當り生井、榮井、津永井阿須波、波比祇の五神を祀る今府社に列せらる神功皇后三韓より凱旋し玉ひし時神璽を奉安し給ひたる處にして古は現今の天神橋南詰附近にありしを築城の際此地に移したるに云ふ例祭は七月十月何も廿二日にして門前は座摩の前筋古着商の多き處なり。

●難波御堂 南久太郎町四丁目の突當り北久郎町より北久寶寺町に跨りたる大寺院にして俗に南御堂又は裏御堂とも稱へ東本願寺の別院あり文祿年中教如上人が徳川氏より地を賜り建立せしものなり本尊は安阿彌作の阿彌陀如來にして寺域廣大對面所書院、鐘樓、唐門、茶所、穿門等あり。

●津村御堂 本町四丁目より備後町に跨り寺域宏大、表御堂又は北御堂と唱へ難波御堂に對峙す西本願寺の別院にして堂宇壯大外圍の石垣雄大にして其上に練塀を築けり一見城壁の觀あり本尊は南御堂と同じく安阿彌作の如來にして二尊堂には親鸞、蓮如兩上人の影像を安置す共に蓮如上人の筆なりと云ふ其津村別院と云ふは上人が津の國の村人を此處に教化せるに因めりと堂の西門を不開門と云ふ明和の頃韓國使節の宿泊せるとき刺客が此の門より闖入して殺害せる以來此の門を開かざるに依るこそ又門内に相愛高等女學校、大阪女子音樂學校あり。

●芭蕉翁終焉の地 南久太郎町御堂筋東入南側に花屋某邸ありて其の裏座敷に於て俳聖芭蕉翁は「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」の一句を殘して永眠せられたり其の遺骸は近江粟津なる義仲寺に葬りたること世のしれる處なり但し今は花屋なるものなし。

●御靈神社 平野町五丁目御靈筋にあり中央は天照太神左は八幡宮右は鎌倉權五郎平景政の靈を配祀す天正年中龜井能登寺の勸請せし處にして例年七月十七日大祭あり

り秋祭は十月廿七日毎月一、六の緣日に多數の露店境内に充ち市内第一の夜店として甚しく賑ふ。

●文樂座 御靈神社境内の左側にあり有名な人形淨瑠璃芝居の興行場なり。

●住友本店(電本局自一〇七至二二七) 北濱五丁目尼崎橋の東詰に在り大阪唯一の富豪男爵住友吉左衛門氏の本店にして住友家事業の全体を總理統監す流石は住友家なるだに濟々たる多士を網羅し一種大阪市の花を飾る總理事は鈴木馬左也氏なり。

●住友銀行(電本局自一〇七至二二七) 住友本店と同一場所にして古く個人銀行なりしもの明治四十五年二月株式組織に變更す資本金一千五百萬圓、拂込高七百五十萬圓、預金總額に於て大阪銀行中第一位を占む社長は住友吉左衛門男にして中田錦吉氏常務取締役たり之れに取締役として鈴木馬左也、湯川寛吉の兩氏を配し伊庭貞剛、久保無二雄兩氏を監査役とし支配人として植野、吉田、八代の諸星を有す支店を東京横濱京都其他中國四國九洲樞要の地に置く今市内各支店を擧ぐれば左の如し。

●船場支店(電東自三〇一至三〇三) 東區南久太郎町二丁目

●中之嶋支店(電土佐堀三〇〇四、三〇〇五)

北區中之嶋五丁目

●川口支店(電西三九九)

北區富嶋町

●道頓堀支店(電西一五八〇)

西區西道頓堀通一丁目

●日本生命保險株式會社(電本二三、二四、二五) 今橋四丁目に在り明治二十二年七月の創立に係り資本金三十萬圓、社長は片岡直溫氏にして土居通夫、越野嘉助、弘世助太郎、橋本重幸の諸氏取締役たり而して社運隆々として旭日昇天の勢を以て進み止まず昨秋既に被保險金額一億萬圓を超過し諸準備金其の他に於て全國生命保險界第一位を占め往年首位を領しつ、ありたる明治生命を後へに瞠若たらしむ然かも年々多額の配當を爲しつ、更らに毎八年目に大決算を行ひ被保險者に配當を行ふ等の特長あり會社も茲に至りては自然に營業增收の外途なかるべく然も其一株二十五圓券が近く七百圓臺と云ふ約三十倍の時價を保てるに尙賣手なしと云ふに至りては此會社の盛甚前途益々好望なる推て知るべきなり。

●大阪毎日新聞社 大川町(淀屋橋南詰)にあり其前身は明治十四年大阪日報を更めて

て立憲政黨新聞と名乗れるを更に同二十一年に至りて大阪毎日新聞と改題し現今に至る資本金二十六萬五千圓の合資會社にして本山彦一氏之れが社長たり二十一年當時は東海散十柴四郎氏之れを主宰し二十六年渡邊治氏主幹たり同氏逝きて高木喜一郎氏之に代り現内務大臣原敬氏三十年社長となり三十三年小松原英太郎氏之れに代り三十六年以來本山氏社長たり編輯主幹は渡邊已之次郎氏にして日々の發行紙數二十五萬と稱す(編輯用電本自五〇至五七)。(代理部用電本五八)。

●大阪時事新報 高麗橋三丁目にあり明治三十八年三月東京時事の分身として創刊せられ同四十一年十月より夕刊を發行して朝夕二回制となす關西に於る普通新聞にしての夕刊は蓋し本紙を以て嚆矢とす主幹は高見龜氏也(編輯用電本自八一至八三)。(營業用電本八四)。

●大阪新報社 今橋三丁目にあり明治三十二年大阪商業新報の改題せるもの同三十三年山田敬徳氏社長の下に横井時雄氏編輯主幹たり越へて三十六年に原敬氏社長となり山田氏副社長の椅子に凭る明治四十一年山田氏去り加藤恒忠氏社長となり富樫萬次郎氏編

輯監として現在に至る資本金五萬圓の合資會社にして加藤氏は業務執行社員、富樫氏は理事、編輯長は中山太郎氏、實業部長は古内省三郎氏、營業部長は倉林延豊氏也(編輯用電本七一、七二、七三、營業用七四)。

●**洪庵塾址** 碩學鴻儒緒方洪庵先生の塾址は内北濱三丁目に在り今の緒方病院の在る所之れなり明治の人傑福澤、大嶋、大村等の名士は此門より出せるなり。

●**商業興信所**(電本自六六三至六六五) 北濱三丁目にあり明治二十五年四月の開業にして社長は外山修造、理事は牧野元良氏にして我國に於ける商業通信の鼻祖也其の内容は加入者に對し週報日報を發行して日々商業上の波瀾を報じ就中銀行會社は勿論個人商店に對する機密事項を調査内報するがゆへに實業家に取りては此上もなき好機關たるは言ふまでもなし輓近に至り此種營業者の瀕々として續出するあるも其の調査機關の具備せる確實にして機敏なる此所の右に出るもの莫し。

●**淀屋橋** 淀屋辰五郎なる名は淨瑠璃に謳はれ劇に彩ぎられ今尙譽し此橋は即ち辰五郎の祖先二代淀屋介齋が巨額の金を投じて架設せるもの北濱四丁目より中之嶋に懸り

中之嶋公園の咽喉を扼して横たふ橋上市電通じ橋角に淀屋橋停留場を設けらる。

●**大阪日々新聞社** 北濱四丁目にあり明治四十四年二月の設立になり資本金二十萬圓の株式組織にして梅原龜七氏之れが社長たり當時帝國新聞社と稱せられしも同四十五年梅原氏之れを吉弘茂義氏に讓渡すと共に大阪日々と改題せられたり然も帝國新聞時代には其記事の眞摯に涉りしが爲め餘り俗眼に受けざりしが吉弘氏の經營なるに及び忽ち眞面目を一新したりしかば聲價大に昂り日々發展しつ、あり(編輯用電本局一〇二、一〇三、一〇四、營業用一一〇)。

●**三菱銀行支店**(電本局自三〇一至三〇五) 今橋四丁目に在り建物は約三ヶ年の長日月を費やし明治四十五年を以て竣工せしもの最新の洋館造りなり本店は東京麹町區八重洲町にあり資本金一百萬圓、社長は岩崎久彌男にして天下の富豪岩崎一家の經營に成る大阪支店長は青木菊雄氏也。

●**大阪農工銀行**(電本五六〇、五六一) 今橋四丁目に在り明治三十一年八月の設立にして資本金二百萬圓、頭取は川井爲己氏也。

●三十四銀行(本自三三〇至三三四) 高麗橋四丁目に在り明治十一年三月の設立にして資本金一千萬圓の株式會社にして頭取小山健三氏、市内五大銀行の一なり市内支店は

●南支店 東區南久寶寺町三丁目 (電南二〇三四、三〇三四)

●天滿支店 北區樋上町 (電東三二八)

●雜喉場支店 西區京町堀上通五丁目 (電土佐三四、七三四)

●堀江支店 同北堀江一番町 (電西五六一)

●百三十銀行(電本二一〇、一三一、一三二) 高麗橋三丁目に在り明治十一年九月の設立にして資本金五百萬圓頭取は安田善三郎氏副頭取は高橋長秋氏にして富士田卯之助氏常務たり營業部長には森脇茂氏を有す天下の富豪安田家の銀行にして基礎の鞏固なるいふ迄もなし市内支店は

●南支店 東區南久寶寺町四丁目 (電南一七三〇)

●堀江支店 西區北堀江通二丁目 (電西三三三〇、三三三一)

●安治川支店 北區安治川通南一丁目 (電西一三〇、四一六)

●難波支店 南區難波元町二丁目 (電南五一、一三〇)

●八軒屋支店 東區京町一丁目 (電東一三〇)

●西濱出張所 南區西濱南二丁目 (電西一八四四)

●大阪貯蓄銀行(電本五一〇、五一、五二二) 伏見町三丁目に在り明治二十六年五月の設立に爲り資本金十萬圓にして市内唯一の貯蓄銀行にして信用顯著諸積立金百三十萬圓預金三千萬圓年次營業の好成績は同行を飾りつ、あり專務取締役は外山脩造氏にして常務は平瀬三七雄氏也

●南支店 南區笠屋町 (電南一五一)

●西支店 西區新町通三丁目 (電西三四八)

●北支店 北區天神橋筋一丁目 (電東一一四二)

●本田支店 西區本田三番町 (電西三六三)

●難波支店 南區難波新川町一丁目 (電南一五二)

●福嶋支店 北區上福嶋中二丁目 (電西三九〇五)

●空堀支店 東區空堀通三丁目 (電南二九〇二)

●九條支店 西區九條町 (電西九〇二)

●明治生命保險大阪支店(電本三〇八) 道修町四丁目にあり本社は東京麴町區八重洲町一丁目にあり明治十四年七月の設立にして資本金十萬圓の株式組織其の業務の確實にして基礎の鞏固なる本邦無比の大會社也。

●明治火災保險大阪支店(電東二〇四、二〇五) 同上生命保險支店と同建築内にあり

明治二十四年一月の設立資本金百萬圓拂込二十五萬圓の株式會社にして同生命保險とは一心同体の間柄にして社長として均しく阿部泰藏氏を戴く其名聲の隆々たるものある今更言ふまでもなし。

●關西信託株式會社(電本一六〇七、一六〇八) 道修町四丁目心齋橋筋に在り明治四十五年五月の設立にして資本金二百萬圓の株式組織増田信一氏社長にして高山圭三氏

之が常務取締役也。

●朝鮮銀行支店(電本五三〇、五三一) 道修町四丁目に在り明治四十三年十月の設立にして資本金一千萬圓拂込高五百萬圓市原盛宏氏總裁に大阪支店長は高瀬梅吉氏也。

●竹原現物問屋 平野町四丁目に在り店主は竹原友三郎氏にして古きより有價證券の現物問屋として有名なり營業振親切にして確實也(電本自四二〇至四二六)。

●堺卯樓(電東本一二二〇、一二二二) 平野町四丁目に在り有名なる料理屋にして紳士紳商會社向の宴會席場として知らる。

●横濱正金銀行(電本自五二〇至五二五) 淡路町四丁目に在り本店は横濱市南仲通五丁目明治十三年二月の設立に係り資本金四千八百萬圓拂込金三千萬圓頭取は水町袈

袈六氏大阪支店支配人は中村錠太郎氏也。

●浪速銀行(自七二八至七三二) 淡路町二丁目にあり明治十一年一月の設立資本金七百萬圓頭取は松方正雄氏にして市内五大銀行の一也。

●西支店 西區立賣堀北通五丁目 (電西五五五、二二四、二六一六)

●南支店 南區安堂寺橋通二丁目 (電南二五二、二四一九、一六〇九)

●難波支店 南區難波元町二丁目 (電南三八一五)

●中央電話局 平野町二丁目にあり局長は小野房若氏也。

●大日本麥酒大阪出張所(電本自二五至三英) 高麗橋二丁目にあり本社は東京目黒にて

明治三十九年三月の設立に係り資本金一千二百萬圓拂込金七百五十二萬圓の株式會

社にして所長は大阪支店長兼務(支店は吹田)武内常太郎氏にして惠美須、サツポロ、朝

日の三ビールの醸造元なり。

●第一銀行支店(電本自二〇至二四) 高麗橋三丁目に在り本行は東京兜町明治六年七

月の設立、資本金一千萬圓の株式組織にして頭取は男爵瀧澤榮一氏總支配人は佐々木

勇之助氏大阪支店支配人は野口彌三氏也。

西區支店 西區立賣堀北通三丁目 (電西六四、三四一、四八六〇)

南區支店 南區安堂寺橋通三丁目 (電南一一〇)

●萬歲生命保險支店(電本一二二三) 今橋三丁目に在り明治三十九年八月の設立資

本金一百萬圓拂込金二十五萬圓にして本社は東京日本橋區本材木町、社長は藤村義苗

氏大阪支店主任は若林清氏也。

●鴻池銀行(電本局自一〇一至一〇五) 今橋三丁目に在り明治三十三年十一月の設

立資本金三百萬圓の合名組織なり業務擔當社員は古來の丸持長者、男爵鴻池善右衛門

氏にして専務理事は原田二郎氏理事に嶋村久氏理事兼支配人に蘆田順三郎氏あり市内

の支店は左の如し。

●中之嶋支店 北區中之嶋三丁目 (電西一〇九)

●上町支店 南區松屋町 (電南一六六、一六七)

●西支店 西區新町南通五丁目 (電西三八、八五)

●鞠支店 西區鞠上通三丁目 (電西一九二)

●南支店 南區大寶寺町西之町 (電南八一)

●鴻池男爵邸 古來鴻池家の名聲天下に喧傳さるや久し故に大阪に遊ばんとするも

のは必ず鴻池男爵邸を訪はざるは尠し實に鴻池家は古よりの富豪として今尙渝

らず百萬の富を致しつ、あるは洵に目出度き限也本邸は今橋三丁目鴻池銀行前面に

あり門庭に丹頂鶴を飼養す(市電北濱停留場を距る西約二丁目)。

●北濱銀行(電本自四四〇至四四六) 内北濱三丁目に在り明治三十年三月の設立、資本金一千萬圓、拂込金六百五十萬圓の株式組織にして信託業をも兼營す頭取は岩下清

周氏、常務取締は小塚正一郎氏也。

●堂嶋支店 北區堂嶋濱通二丁目 (電東二〇八、二〇九)

●西支店 西區松嶋二丁目 (電西一七〇一、三八九九)

●南支店 南區安堂寺橋通一丁目 (電南二三四五、二三四六)

●船場支店 東區本町二丁目 (電東五一九、五九二)

●築港支店 西區築港三條通三丁目 (電西七四七)

●銘酒澤之鶴 の醸造元石崎合資會社は平野町二丁目(電本自九〇八至九一〇)に在り明治三十一年四月の設立、資本金三十二萬圓、業務擔當社員は石崎嘉兵衛、佐野幸助氏にして醸造所は兵庫縣灘新在家にあり。

●日本債券株式會社(電本三九一) 平野町二丁目に在り明治三十八年二月の設立、資

本金二十萬圓、拂込金五萬圓にして諸債券賣買及擔保貸付を業とす社長は伊藤喜十郎氏也。

●灘萬(電本五九) 北濱々通一丁目にあり有名なる會席料理業にして紳商紳士の張宴場所として知らる其の販賣蒲鉾所謂なだまんの蒲鉾なるもの亦一名物として數へらる。

●大林組(電本自一〇二二至一〇二五) 北濱二丁目難波橋の南詰にあり明治四十二年七月の設立にして合資組織たり無限責任社員として伊藤哲郎、白杉龜造兩氏の名を列ぬれど其の實權は大資本家大林芳五郎氏の掌中にあり其の營業は汎く土木建築請負及職工人夫の供給を爲す外、木材石材鐵物其他あらゆる建築用材料物品の販賣を主とし兼て海外貿易并に官公民間需用品供給商行爲の代理を業とす近時新規事業の勃興と共に電鐵工事等一般、本組により供給さる、もの陸續として屈指するに違あらず其の業務の甚盛を極めつ、ある所以蓋し偶然に非らずと云ふべし。

●難波橋 市内三大橋の一にして東區北濱二丁目より北區灘之上町に跨る大橋にし

て中央に中之嶋劍先を中に挟みて橋足南北に二分し北は堂嶋川に南は土佐堀川に横りつ、あり東方天満天神橋の二大橋を望み西部中之嶋公園に接続せり往時は淀川東流に架せる一橋なりしも明治初年中之嶋劍先を築きしが爲め現時の如く兩分したるなり。

●難波橋は取拂ひ 今春難波橋の北部橋柱が弛んで人馬が河中に墜落した其の時に馬だけが死んで人には故障がなかつた其れを修繕して工事二千圓程費やしたものが十日も経たぬ間に又橋柱が沈下して倒れかけたソコデ市内有志者が危険であるから大修繕して貰いたいと當路者に迫つた其時安田土木課長の言明に市内電路が堺筋より天満に至るやうに晚くとも大正三年中になるのだから目今の中之嶋劍先の埋立てを高くして市電の新架橋と丁字形を成し交通が出来るやうにする即ち現在の難波橋の東方二丁程の處に電車の橋が架設される之れは十二間幅にして中央を電車線路とし左右に人道を設けることにする左すれば舊難波橋に大費を掛けて保存する必要もないから多少難波橋筋住民の不便となるだらうが取拂をするに内定して居るのである云々果して之が實行なるにすれば古き歴史を有する右の難波橋も一寸位置か變るやう

になるのである参照の爲めに記して置く。

●大阪株式取引所(電本自二〇至三三) 北濱二丁目にありて同町の中央部たる大區劃を獨占して洋館造りの厦樓を築き上げあり一攫萬金の製造本家として東京株式に次で全國無二の株式取引所たり明治十一年五代友厚、廣瀬幸平氏等に依りて發起せられ同八月十五日を以て開業の式を擧げたり當時の資本金は二十萬圓にして爾來賣買取引の不振なりしが爲め一時減資の止むなきに至れるもの今や資本金七百萬圓全額拂込の大會社として年次少くとも八朱以上の配當を爲しつ、あり然も創立以來爰に三十有五年此間幾多の盛衰榮枯を繰返したりといへ社運の順調にして其の發達の程度甚しき他に類範を見ず現時所屬仲買人定員一百名、役員は理事長一名、理事四名、監査役三名、支配人以下八十餘名にして理事長は植村俊平氏、顧問濱崎永三郎氏、常務理事として田中太七郎、飯田精一、寺井榮三郎の諸氏、支配人は増山忠次氏也。

●北濱築地 北濱二丁目なる淀川の本流の岐れて東横堀川となる分岐尖端東北一帯の俗稱にして旅館割烹店等群少雜居せしも今は市内電路の開通に依り舊觀を止めず只二

にして明治四十二年十月の設立に係り資本金二千萬圓全部拂込の大會社、社長三井八郎次郎男にして取締役には飯田義一氏あり山本象太郎氏あり其の他早川千吉郎、岩原謙三、福井菊三郎、三井養之助、倫敦在勤の渡邊専次郎氏等の諸星を網羅す營業の目的は物品問屋兼運送代理製材等にして全國樞要の地に支店出張所を設け韓國臺灣滿洲南清主要の地たる處に支店出張所を置き又香港、馬尼刺、子貢、新嘉坡、紐育、桑港、倫敦、漢堡等に支店出張所あり、大阪支店長は棉花部長藤野龜之助氏也。

●三井銀行支店(電本自三一至三四) 高麗橋二丁目三井物産支店と同棟續きにあり本店は東京日本橋區駿河町にして資本金二千萬圓拂込済の大銀行にして明治四十二年十一月の設立に係り社長として三井高保氏常務に早川千吉郎、池田成澎、米山梅吉の三氏、取締役に三井守之助、團琢磨、飯田義一、渡邊専次郎の諸氏ありて全國主要の地に支店を置く大阪の支店長は菊本直次郎氏又西支店は西區新町通三丁目(電西二三一二三二)にして支店長は長谷川數衛氏也。

●東京火災海上保險大阪支店(電本四五、五四五六) 高麗橋一丁目にあり本店は東京日

本橋區北鞆町、明治廿年七月の設立になり資本金一千萬圓拂込二百五十萬圓社長は安田善雄氏にして大阪支店長は新井智三郎氏。

●愛國生命大阪支店(電本三六八、三六九) 高麗橋一丁目にあり本店は東京日本橋區本材木町二丁目、明治三十年二月の創立にして資本金三十萬圓拂込金七萬五千圓社長は鈴木萬次郎氏にして専務は大阪支店長兼任の中野實氏なり尙同支店には主務理事として岡本松太郎氏執務されつ、あり。

●臺灣銀行支店(電本自五八至五七〇) 高麗橋西詰角にあり明治三十二年六月の設立、資本金壹千萬圓拂込高六百二十五萬圓の株式組織にして頭取は柳生一義氏、總務部長理事として梶原磯辰氏あり本行は臺北廳大加蚋堡臺北城内文武街一丁目にあり大阪支店長は支配人助役池田常吉氏。

●山中商會(電本一九七〇、一九七一) 高麗橋一丁目にあり明治三十三年二月の設立にして資本金三十萬圓の合資組織、營業の目的は新古美術品並に雜貨輸出にあり社長は山中吉郎兵衛氏、顧問に松本重太郎氏あり總支配人は青木喜三郎氏にして支店を紐

育市フヒフス、アベニュー、英領倫敦市ニューボンド、スツリート、米國ボストン市ボイルストンスツリートに置き廣く貿易業に従事す。

●大阪逓信管理局(電東壹番百番) 今橋一丁目にあり逓信省に直隸し管下に於ける郵便電話其の他貯金を爲替等の各局を監督す。

●今橋 高麗橋の北方にありて以前は東横堀川最北の橋にして往來瀕繁なりしも今は其の北部に電車の開通と共に一橋を架せられたれば又昔時の觀なし。

●天神橋 天満橋と竝稱せられて市内唯一の長大鐵橋にして淀川の本流に横たはり東區京橋三丁目松屋町筋より北區市之側に通せる長さ百三十一間幅六間、中央を車道とし左右に人道を設く橋材は總て鐵を用る構造主牽にして美觀を極む以前は木造なりしもの明治十八年の洪水に全部流失せるを時の知事建野郷三氏が三年の歲月に十五萬圓の工費を以て構築せしめたるもの夜間橋柱に電燈閃き人車の絡繹來往に便資せり。

●八軒屋 天神橋と天満橋に至る京橋町一帯の沿岸を總稱す昔は伏見通ひの三十石船の發着地として有名なりしが今は三十石船に代るに小汽船の此處を根據として伏見

に往復せるを見る又た別項市内巡航船の根據地となり居れり。

●大阪巡航株式會社(電東一九八四三五二五) 天神橋南詰京橋町三丁目にあり明治三十九年九月の設立にして資本金二十萬圓の株式組織、社長は伊藤喜十郎氏にして山松友次郎氏専務取締役たり營業の目的は市内の河川に石油發動機船を浮べて交通の便を計るにあり其の開業後五六年間は其の賃金の低廉なるに陸上電車の設備なかりしが爲め多大の乗客を吸收し多大の収益を得たるも今や電車の開通と共に稍市人に忘れられんとしつ、あり然れども漸次電車の不便なるの地に航路を擴張しつ、あれば尙好況を維持しつ、あり。

●大阪郵便爲替貯金管理局(電東自三〇〇六至三〇〇八) 京橋三丁目にあり管下郵便局に於ける郵便爲替貯金の管理を掌る。

●大阪衛生試験所(電東一三四八) 京橋三丁目にあり藥品の試験分拆鑑定等を爲す。

●聖ニコライ教會 石町一丁目にあり明治四十四年七月の竣工にして地の高所なる其の上に高さ十丈の聖塔を築き上げたるにあれば此邊に於ける建築物中一種の偉觀た

るを失はず、住友本店總理事鈴木左馬也氏邸は此處東半丁程に在り。

●天満橋 東區京橋町より北區金屋町一丁目に跨る有名なる鐵橋にして天神橋とは姉妹の間柄なり長さ百十七間幅六間、中央に車道を劃し左右を人道とす以前は木橋なりしもの明治十八年の洪水に流失せるを建野知事時代に十五萬圓の工費と三年間の歳月を要して竣成せしめたるものにして大偉觀を呈す橋上眺望に富み西方天神橋を通じて中之嶋公園を望み東北大阪城井に淀川上流に對して風光絶佳也。

●將棋嶋 天満橋の中央より二丁許西方に突出せる高洲にして其の尖端に於て淀川本流と寢屋川とを分割せり明治四十五年七月有志者資金十萬金を以て此處に難波館なる洋館式寄席を設け尙其の棟續きに飲食店料理店勸工場等を建添、四時種々裝置の下に春草納涼臺扱ては菊人形等を仕掛け盛んに遊士を吸收しつ、あり。

●京阪線天満驛 天満橋南詰にあり之れ京阪電車の大坂より京都市に至る起點にして市電又梅田福嶋九條難波天王寺等各方面よりの交叉點に聯續しあるがゆへに交通の便至大なり。

北區之部

●北區 位置は大坂市の北部にして淀川、土佐堀川、寢屋川を界して東西の兩區に對す只安治川口の一部のみ西區に觸接せり廣袤東西約二里、南北一里三十余丁にして町數二百四、最近の人口五萬七千七百五十六、人口三十三萬三千五百九十九ありて市内に於ける工場會社の多數を占むる外、梅田驛の日々交通運輸の頻繁なる北新地の管絃如沸は此區の精華にして明治四十二年七月三十日の大火は區内空町より火を失し人口の延燒實に一萬五千に上りて一時其中軸地を灰燼に歸せしめたりしも今や新築の高樓厦屋建設せられ區内の面目一新、街衢益々美觀を極めつ、あり尙し夫れ北部の發展に至りては前途益々好望を期待されつ、あり。

●北區内電車線案内

- 天満橋北詰……○造幣局(東一丁……)
- 天満青物魚市場(西一丁……)
- 空町……○泉布館(東一丁半)……○淀川橋(東北二丁半)……

- 櫻之宮(東北四丁)……………○官線櫻之宮驛(東北七丁)……………○天満織物會社(北四丁)
- 大阪電氣分銅會社(北四丁)……………
- 岩井町……………○天満寺町(北二丁)
- 南森町……………○天満宮(南二丁半)……………○かしわらや呉服店(南二丁)
- 天満劇場各寄席遊技場(南二丁)……………○住友銀行支店(北半丁)○山口銀行支店
- 大阪貯蓄銀行支店(南五丁)……………○官鐵天満驛(北六丁)
- ▲此停留場は南北天神橋筋通なるを以て各商店軒を駢べ區内第一般盛の場所也
- 伊勢町……………○大日本精糖支店(西南五丁)……………○北警察署(西南五丁)
- 梅ヶ枝町……………○北區役所(北二丁半)……………○大阪控訴院○大阪地方裁判所
- 大阪區裁判所(南二丁)
- 梅田新道交叉點……………○宇治川水力電氣株式會社(東北角)……………
- 帝國鑛泉株式會社(東南角)……………○共同火災保險株式會社(東南角)……………
- 大阪時事新報本社建設用地(西二丁)……………○大阪兄弟新聞社(東一丁半)……………

- お初天神(北二丁)
- 船大工町……………○北新地東側(西北一丁)……………○高橋盛天堂(西側)……………
- 回生病院(東一丁半)……………○濱崎水三郎氏邸(西南一丁半)
- ▲室嶋市場へ東南より來るものは茲に降車するを便す
- 大江橋南詰……………○日本銀行支店(西前)……………○日本棉花株式會社(西二丁)
- 浪花火災保險株式會社(西二丁)……………○中之嶋公園(東前)……………
- 市役所建築用地(東前)……………○圖書館(東二丁)……………○豊國神社(東二丁)
- 大阪公會堂建築用地(東三丁)……………○旅館銀水樓(東三丁)
- 梅田車庫前……………○箕面電車起點(北前)……………○會根崎警察署(西角)……………
- 大融寺(東四丁)……………○北野鶴之茶屋(北五丁)……………○北野中學校(北六丁)
- 梅花女學校(北六丁)
- 梅田……………○官鐵梅田驛(北前)……………○梅田郵便局(東一丁)
- 東梅田……………○阪神電車起點(西前)……………○内國通運支店(西二丁)……………

▲此附近に旅館小飲食店回漕業者多し

●櫻橋北詰……○豊國火災建築用地(西南角)……○同上假本社事務所(西北角)

○北消防署(北一丁)……○北新地西側(南前)

●堂嶋中町……○堂嶋座(北二丁)……○内外綿株式会社(北半丁)

○山口銀行支店(北二丁)……○北濱銀行支店(南半丁)

○川北電気商會(南一丁)……○合同紡績會社(西北二丁)

○藤田組(西三丁半)……○堂嶋取引所(東二丁半)……○大阪日報社(東二丁)

○中橋徳五郎氏邸(西三丁)

▲此東方附近米穀取引所仲買店群居せり

●渡邊橋南詰……○大阪瓦斯會社○大阪黨業會社(南西門)

○大阪朝日新聞社(南西一丁)○鴻池銀行支店(南西二丁)

○大阪倉庫會社(南西三丁)……○中央郵便局(東前)

○旅館花屋自由亭(東一丁)……○法律新聞社岸本辯護士事務所(東一丁)

○高田商會(東南二丁)……○肥後橋(南一丁)……○加嶋銀行(東南二丁)

●田箕橋……○大阪商業會議所(北二丁)

○大阪府立病院○大阪高等醫學校(南二丁)……○東洋木材防腐會社(南三丁)

●玉江橋……○海事局(東二丁)……○大倉商業學校(東二丁半)

○土居通夫氏邸(東一丁)……○大阪高等工業學校(西二丁半)

○大阪稅務監督局(南東四丁)……○中之嶋稅務署(同上)

○大阪電燈株式會社(南西六丁)……○住友倉庫○住友銀行支店(南西五丁)

●堂嶋大橋……○大阪商品陳列場○大阪工業試驗場(北二丁)

○日本紡績株式會社(北五丁)……○中之嶋製紙會社(東二丁)

○三菱支店銀行部(南東三丁半)

●船津橋……○住友伸銅場○住友電線製造所(船津橋を北詰西七丁)

●聖ハルナバ病院(西南一丁半)……○川口居留地(西南二丁)

▲備考 北區富嶋町大阪商船○日本郵船○尼崎汽船部○商船韓國組○富嶋組

總て川口より乗船各地に到らんとするものは西區本田通二番丁若しくは同三番丁に降車するを至便とす。

●福嶋出入橋……大阪市役所假廳舎(南二丁)……阪神電車出入橋乗場(北前)……

西成郡役所(北西三丁)

●福嶋二丁目……加嶋銀行支店(東南前)……大阪貯蓄支店(南一丁)……

阪神電車福嶋乗場(北二丁半)……●福嶋座(北東二丁)……●角自轉車商會(北西四丁)

安田鐵工所(東北四丁)……●大仁墓地に至る此處に下車するを便とす

●福嶋三丁目……●浦江五百羅漢(東北二丁)……●聖天宮(北西四丁)……

○關西大學校(北六丁)……●大阪藥學校(北六丁)……

○福嶋紡績株式會社(南西三丁)

●網島 大阪城近く北方京橋を右折せる東北一帯の土地にして寢屋川と淀川本流とに介在せり官鐵櫻之宮、京橋南驛に行くもの又は京阪電鐵本社、大日本冷蔵株式會社に行くべく必ず通過せざるべからざる順路にして鮎字樓は此の界限に於ける舊き割烹

店也。

●藤田男爵邸(電東四八、四八、四九) 網嶋の中央に在り先代藤田傳三郎氏茲に邸を構ふ

氏逝きて嗣子平太郎氏男爵家を襲く家屋宏壯淀川の青流に瀝み庭内の裝置奇巧善美を

盡せり然も自然の風光に配する人工の絶妙を加へたるにあれば一小仙寰たる趣ある

偶然に非ず故人傳三郎男は少壯國事に奔走し維新鴻業後、心機一轉、身を實業界に委ね土

木礦山業を經營する側ら西南戰役に軍需を供給し其他海防費公共事業等に巨萬の資を

献納したるが如き大偉人なりしは世の既に認識せるところ嗣子平太郎氏克く其の遺業を

繼承し謹嚴身を持し規矩正しく實業界に奮闘せられつ、あるは芽出度き限りなり。

●大長寺 網嶋の東北端にあり淨土宗にして登鯉山と號す、本堂は惠心僧都作、阿彌

陀佛なり、寛文の頃、此里の漁夫、淀川にて鯉を獲たり其の鱗、悉く金色にして巴紋

をなす、寺僧以て大阪役、戰死者の靈なりとし葬りたり之れを鯉塚と呼べり其の塚今

尙境内にあり又淨瑠璃心中天網嶋で名高き紙屋治兵衛及び小春の墓あり享保七年此寺内

に於て情死したりと傳へられ今尙兒女子により言ひ囃されつ、あり寺は京阪電鐵開通の

爲め西方に狹められ舊觀を殺ぐこと夥し。

●京阪電氣鐵道株式會社(電東自六二〇至六二四) 本社は北河内郡枚方町にあり其の全体の事務は北區野田町事務所に於て執られつ、あり明治三十九年十一月の設立にして資本金壹千五十萬圓の拂込濟の株式會社にして社長は土居通夫氏、専務取締役は太田光昭氏、該社は起點を天滿橋南詰に置き寢屋川を涉り備前嶋を経て東北に進行し東攝の平野を翔りて京都市五條驛終點に了る而して今支線を山城宇治に敷設せんとして起工着手中に在り沿線の風光絶佳にして名所舊蹟尠からず、香里遊園地の遊適地として著名なる枚方三十石舟の復活、八幡町の男山八幡宮、同温泉場、伏見の新御陵伏見稻荷神社等は是非とも國民の參拜せでは叶はざるの地なり天滿橋驛は既記の如く市内各方面よりの電車と聯續しあるがゆへに其の便利尠からず然も電車の快速力は近畿電鐵中に冠たるものあると共に官鐵により梅田より京都に赴く沿線の無風流なるに比し新線路車窓の風光眺め飽きせぬ趣ある交通に遊覽を兼ね得たる好線路と云ふに憚らざるべし。

●大日本冷蔵株式會社(電東三九五六) 北區東野田町にあり明治四十二年一月の設立にして資本金貳拾萬圓の拂込濟の株式會社にして凍豆腐、寒天、氷製造販賣を營業とす社長は井上徳三郎氏にして取締役に高倉藤平、エフ、エム、ジヨチス氏等あり製品年次好成绩を擧げて其質良好然も廉價に販賣しつ、あるがゆへに好評嗜甚從て販路日に月に擴張せられつ、あり以て社運の前途を卜するに足る因に云ふ前季の配當は年一割五分を爲し得て尙積立金等其の多くを殘し得たり。

●櫻之宮 網嶋の北方淀川堤に添い行く淀川橋の北東にあり郷社にして天照大神を祀る例祭は十一月廿一日にして社内廣からず雖も割烹店等あり祠殿宏大ならざれども古雅にして崇神の念を起さしむ此邊一帶は春時櫻花咲き亂れ加ふるに四邊の眺望秀逸なるがゆへに市人の出遊多く掛茶屋一面に設けられて管絃興味沸くが如く小樂境として記憶さる。

來るからに見るからに花の散るからに 鬼 貫
櫻樹擁祠花婀娜。矯絃脆竹幾舟過。風光瀕向東人詫。也興靈川不較多 奥野 小山

●櫻之宮驛 官鐵城東線に屬する同停車場は櫻之宮北二丁にあり此の驛は天王寺方面に行くもの四條堰を経て山城笠置木津方面に行くもの、乗車驛也。

●水道水源地 櫻之宮停車場北方なる都嶋に在り大阪市の水道は明治廿八年十一月十三日を以て通水式を舉行したり此水源地は七臺の唧筒によりて一と先づ大阪城内なる貯水池に送られ更に高壓力によりて市内に送られつゝありたるも爾來人口の増殖は斯る小設計にては給水に不足を感じたるより更に明治四十二年度より倍大の設計を行ひ漸く今年七月より給水に着手し得るの運びに至れり。

●毛馬岡門 地は東成郡に屬し居れど順路上紹介せむに同門は都嶋水源地の北にあり舊淀川と新淀川との分岐點に設置せらる此の装置は隨時自由に開閉せられ市内に注入する水量を平均せしめ洪水の憂ひを除くが爲めに設けられたるものにして此れが爲め明治十八年時の大洪水を見るが如き虞なきに至れり然も近時市川水量の減水沙汰にて幾分の非難を試むるものなきにあらねど舟楫の便は痛く殺がれたり云ふにあらず。

●母恩寺 北區滓上江町の西端、水道水源地の北にあり淨土宗にして法皇山と號す弘

安年中後白河法皇が御母后侍賢門院の爲めに懇立せる尼寺なり云ふ本尊は阿彌陀如來にして恵心僧都の作なり。

●淀川橋 大阪市最北端の橋梁にして櫻之宮堤より造幣局裏門通に架せられたる市内最長の大橋にして明治三十五年日本式木橋の新設に係る長さ百三十六間幅三間三分近く官鐵櫻之宮鐵橋に對して宛然長蛇の横たはるが如く淀堤一望櫻花爛熳たるの時市人絡繹として群を爲す。

●泉布觀 造幣局の北に隣接せる洋式建物にして明治五年明治天皇西巡の際、行在所に充てられ初めて泉布觀の稱を賜ひしもの其の後屢臨幸あり同廿四年宮内省の所管に移れり光榮を有せる聖蹟庶幾くは以て萬世に傳ふべし。

●造幣局(電東三) 北區新川崎町にあり明治四年二月十五日開業にして我國唯一の金銀銅貨の鑄造所なり天神橋を北に渡り右折すれば直ちに其の門前に達すべし門側には日々第四師團よりの衛兵を配せられ非常の警戒に任ず局庭 縵 廻りて宏く櫻樹百餘栽、満開の候、例年衆庶に縦覽を許さる俗に之れを造幣局の通り抜けと稱し大いに賑ふを

見る而して局内に於ける貨幣鑄造模様は一般の縦覽を禁じあるも時としては内外貴賓の爲めに參考として觀覽に供することもあり局長は池袋秀太郎氏也。

●鶴満寺 天満橋筋を距る約十二丁、豊崎村大字南長柄にあり創建の年月詳ならず延享年間忍鏡上人の再興にして本尊は慈覺大師の阿彌陀佛なり其他秩父、阪東西國各巡禮所の觀音佛を安置し境内の古梵鐘は長門國主毛利氏の寄附に係り太平十年二月云々の文字あり太平は西晋の二世惠帝時代にして吾朝にては應神帝の時に當り今より凡そ一千五百年以前のものたり其の蒼然として古色を帯びあるもの故なきに非ず而して境内に有名なる糸櫻あり花時韻十騒客の來杖するもの尠からず。

●鶴満寺 聽鐘

藤井竹外

兩字依稀認太平。報晨與夕至今鳴。庵僧莫怪我傾耳。得聽一千年外聲。

●長柄長者邸址 鶴満寺の南道西側に露塚あり此塚に六英の古梅木あり其の下に苔蒸して古色蒼然たる小形なる五輪石塔あり世に之れを長柄長者の邸跡なりといふ眞偽疑はし。

●新淀川 大阪市外の北方を流る、大河にして明治二十八年政府は淀川の改修を決議し同二十九年より三十八年に至る十ヶ年の繼續事業として改修工事費總額九百九萬四千圓を投じ浚通せしめたるものにして改修着手以來幾多の障害に逢着せるがため空しく豫定の時日を経過し漸く四十二年に至り竣工を見るに至りしもの今や同川に懸れる大鐵橋は官鐵の二大鐵橋を初め箕面、阪神の鐵橋而して十三橋、長柄等にして其の蜿蜒として長く高く横たはれるさま實に偉觀といふの外なし。

●國分寺 豊崎町字南長柄鶴満寺の西にあり聖武帝の朝行基菩薩の開基に係る眞言律宗にして正國山金剛院と號す映日比丘尼の再興せるものなりと云ふ。

●崇禪寺 長柄の北、北中嶋村にあり曹洞宗にして享隣和尚の開基、本尊は行基僧正の作釋迦如來なり、嘉吉年中、赤松滿祐の爲めに弑せられたる將軍足利義教の菩提所なりと云ふ、本寺は境域廣大にして、松林、竹簇其の周圍を繞り翳鬱たり、門前に小松原あり之れ劇に名高き崇禪寺馬場にして、正徳年間、大和郡山の藩士、遠城金次、安藤光乘の兄弟、敵生田傳八の爲めに返討に遭ひて無殘の死を遂けたる地なり、不運なる兄弟

の遺骸は寺内に厚く葬られあり又本堂の左側に二基の墓碑を立つ吊者皆來り袖を濕す尙寺には兄弟の遺物として名高き長刀、刀劍、鎮帷子等を藏し年歲其の忌日には厚く弔ひつゝあり而して其の遺物は諸人の需めにより觀覽に供することあり。

●大願寺 崇禎寺の東凡そ半里程新庄村にあり、日蓮宗日慶上人の再興にして閻浮檀金の釋迦如來を安ず境内に橋柱地藏堂あり、同寺縁起に曰く、後一條天皇の御宇、長柄の橋柱水底より上りしかば之れを天皇に獻するものあり天皇則ち佛匠に命じて地藏尊を彫刻せしめ堂宇を營み之れを安置せしめたるもの之れなり。

●江口の里 淀川の分流神崎川なる岐端、江口村あり之れ古來江口の里と呼べる地にして往古は巨船輻輳し來り旅舍遊里等甚しく賑へる由、其の時の頃とか此里に妙と呼ぶ遊女あり才色並び謳はれて名高く詩人西行と和歌の應答を爲したること今尙談欄に遺れり世に云ふ江口の君とは此の妙のことにして同人の墓は此村より程近き大道村寂光寺にありい云ふ。

●江口城址 江口村の北端にあり天文十八年三好長慶の從弟同苗宗三の據れるところ

にして一に中嶋の城と稱へられたるものなるも今は其の蹟煙滅して形だに莫く只村民の宅地となりて小丘状を爲せる附近一帶そのものならんを傳へらる。

●東洋製紙株式會社(電東四九三六) 西成郡豊崎町にあり明治三十九年七月の設立にして資本金七十萬圓拂込高四十三萬七千五百圓にして營業の目的は煙草專賣局所要に係るライスペーパー製造販賣にあり取締役は中村爲三郎井上周氏初め外數氏なり。

●稲畑染工場(電東一六四三) 同上豊崎町中津川の沿岸にあり合資會社にして明治三十八年三月の設立に係り業務擔當社員として稲畑勝太郎氏之れに任ぜり稲畑氏は貿易家として大阪實業界、其の名を逸すべからざるの人、工場に於ける營業理事は大直三氏にして理事稲畑惣七氏之れが補佐たり其の他工務長以下錚々有爲の人尙からず營業の目的は無地染及艶付整理にして資本金は拾萬圓なり。

●日本フランネル株式會社(電東五二四) 豊崎町稲畑染工場を距る西二丁程にあり明治二十四年四月の設立にして資本金五十萬圓、營業の目的はフランネル其の他諸種毛織物及毛糸製造販賣にあり社長は安宅彌吉氏なり。

●毛斯綸紡織株式會社(電東自七八二至七八六) 箕面電車北野驛北三丁程、中津町に

あり明治二十九年一月の設立にして資本金一百五十萬圓、營業の目的は毛糸毛織物製織販賣にあり、社長は松本重太郎氏、常務取締役には瀧村竹男松尾久男の兩氏、支配人として羽仁新八氏あり、松本氏の大坂實業界に於ける効績は今尙世人に忘らるべくもあらず、而して之れを翼賛して精力絶倫終始渝らざる瀧村氏的美徳松尾羽仁兩氏の精勵熱心なる營業方針等は同社をして年歳多大の配當を繼續せしむる其の一面に多額の積立金を倍殖せしめつ、あり然も同社が職工に對する待遇の優秀なるものある蓋し同社をして益々發展向上の地歩を進めしむる原因の一なるべし。

●豊崎宮舊址 豊崎町大字本庄日本フランネル會社の接續地にあり孝徳天皇の白雉二年十二月都を此地に遷させ玉ひ豊崎宮と名づけ賜ふ、宮殿宏大ならざるも莊嚴の氣に充てり、白雉五年十月、天皇此地に崩じ河内國磯長の里に葬るに古事記に見へたり。

●萩之寺 箕電北野停留場北二丁程にあり寺號を圓頓寺といふ境内に萩多く秋季遊士の來杖するもの踵を絶たず。

●梅花女學校(電東一二七〇) 箕電北野停留場東二丁程にあり高等女學校の教育程度にして明治四十五年新築工成り市内土佐堀裏町より此地に移轉せるものなり校屋秘花色に彩り一種の異觀を呈せり。

●源光寺 豊崎町字南濱にあり、淨土宗にして清淨瑠璃三昧院と稱す、天平勝寶年間僧行基の草創にして其後僧良忍上人融通念佛宗を普教して當寺を再興し一派の本山となす、本尊は天筆阿彌陀如來の畫像にして建武年間、法明上人加古の念佛堂に至りて其像を請受け本寺に安置せしものなりと云ふ境内に詠歌堂、子守勝手、の祠等あり古は賽人絡繹として香煙絶ゆるなかりし由なるも今は漸次寂寥の感あり。

●箕面電車梅田驛(電東自一五七六至一五七八) 市營電車梅田車庫前角田町にあり即ち俗に云ふ梅田より北野、十三、三國其の他の各驛を経て豊能郡石橋驛に至り此地にて箕面方面行きと寶塚行きとに岐れるものにして箕面の秋色は畿甸に冠たるはいふまでもなく其の山奥に懸る瀑布の有名なるは世の既知るところにして會社經營に

なる動物園は珍鳥奇獸を網羅して遺すなく四季遊覽人士を迎ふるに共に寶塚温泉の設

●曾根崎警察署(電東五五〇) 同上停車場前にあり市電の開通に依り近く此處に移
轉し來れるものなり。

●太融寺 市電梅田車庫前東四丁程、北野太融寺町にあり、古義眞言宗にして桂木
山と號す高野山の四善庵に屬し弘仁年間弘法大師の開基に係る、承和年間左大臣源融、
仁海上人に命じて大に佛院を修理せしめ改めて太融寺と號す舊地は現今の寺地を距る
西北三丁餘の處なりしを近世に至り快濟上人此地に再興せり、本堂は南面して床高く
屋根峻しく堂内に千手觀音を安し別に毘沙門、地藏尊を置く、本堂の西に大師堂あり
弘法大師の像を安置し又本堂の東に巡禮觀音堂ありて西國巡禮三十三ヶ所の觀音
を安ず、境内藤の棚あり其の枝四もに蔓延して花時頗る美觀を呈す、藤浪亭あり精進
料理殊に湯豆腐を以て名あり又淀君の墓と云ふもの大師堂の裏手にあり小形なる五輪塔
にして河内の鳴野にありしもの此處に改葬したるものなりと云ふ淀君を以へば豊太閤
の寵嬖、秀頼の母にして絶世の美人と謳はれしもの元和の歲、大阪落城と共に敢なく自
乃果ぬるもの今や苔蒸す日蔭の下に埋まり遺天下の英美人も誰縁者の訪ふものなくし

て賽人一縷の香煙に綿々として長き餘情を訴ふるものあるに似たり扱ても墓なきは浮
世の状なりけり。

●寒山寺 天満西寺町の西端にあり、禪宗にして山號を松雲寺といふ、吳の姑蘇、寒
山寺を模倣したるものにして扁額に姑蘇名利とあり俗に寒山寺五更の鐘と稱するは此寺
にある梵鐘を云ふなり。

●兎餓野 西寺町兎餓野町邊一帯の古稱にして仁徳天皇八田の皇女と高臺に登り鹿の
鳴く聲を聞かれしと云ふ有名なる鹿の樓みし所なりといふ。

●鹽大平八郎親子墓 寺町橋東詰北側成正寺門を入れば直に其の堂前にあり平八郎
字は中齋、後素と號す、天保八年饑饉の時に當り貧氣救恤を企て時の奉行の横政を矯
めんとし市中の富豪を襲ひ兵を上げしも幕兵の爲めに破られ自刎せる武士にして陽明の
學者として尊敬せられし人なるは世人の知るところなり。

●西山宗因墓 西寺町西福寺内にあり、正寶年間の人にして俳諧と詩を以て世に名高き
人、天和二年江戸に歿したるを此處に假墓地を設けしものなりとぞ。

●森狙仙墓 同上西福寺内にあり狙仙の兄周峰の墓も此處にあり狙仙の猿と云へば天下一品の稱へあり文正四年七月二十一日七十五歳を一期として歿せられたり。

●五井持軒墓 同町九品寺にあり漢學者にして四書に精通せり碑文は伊藤東涯の筆なり。

●墨江武禪墓 同町妙福寺内にあり月岡雪鼎の高足にして丹靑に妙を得殊に春色を能くしたり。

●篠嶋小竹墓 同町天徳寺内にあり名は弼、字は承弼嘉永四年五月四日歿す又三嶋翁の墓あり翁は小竹の養父にして小竹の義子竹陰の墓もあり、三嶋翁の碑文は古賀精里の撰にして表題は頼春水のものなり。

●網敷天神 太融寺の東北、北野堂山町にあり、俗に北野天神といふ、昌泰年中、管公の筑紫に左遷せらるゝの途次、福嶋より太詣寺に融でんとして此處に網を敷て其の上に座し四方の景色を愛でられし跡なりとぞ。社記に曰く管公の筑紫に誦せらるゝや此地を過ぎり浪花の梅を愛す其の梅、年経て枝幹繁茂し花を點くること數百、晩春に

及ぶも猶凋落せず里人傍に小祠を立て公の靈を祭れり之之本社の縁起なり。

●露天神社 市電梅田新道交点東北二丁程にあり俗に之れをお初天神といふ、郷社菅原道實公を祭る傳へ云ふ管公の筑紫に遷さるゝの途次此地を過ぎしに偶路上露

深かりければ露と散る涙に袖は朽ちにけり都のこころを思ひ出ればの吟あり其の後、舊址を卜し小祠を營みしもの即ち之れなり爾來幾變遷屢營築せられしものにして

今の社殿は明治四十二年北區大火災の時に類焼せるを近く新築せられしものなり。

●夕日天神社 露天神を距る東三丁程梅ヶ枝町にあり市内三神明宮の一にして天照

皇太神を祀る社記に曰く左大臣源融、浪花遊歴の際本社を此地に創設し後文治年間、

源義經、梶原景時と逆船の事を論ずるや義經黄金を寄進して祈願するところあり又

醍醐天皇の嘉曆年中、当社を勅願所と定められ天皇屢行事ありたりと而して當時の

社殿は巍々たる大社なりしも足利尊氏の代に兵燹に罹り爾後幾度の修造せるもの現今は

僅に舊觀の半を存せるに過ぎずと云ふ。

●北區役所(電東自三五一至三五六) 市電西梅ヶ枝町停留場北二丁程曾根崎上一丁目

にあり區長は中村健夫氏也。

●堀川戎神社 寺町橋西詰にあり市電南森町停留場西二丁程にして中央に姪子命、左右に少彦名命、太玉命を祀る一月十日は例祭にして賽人群集、吉凶を卜なふ今宮戎に劣らざる觀あり。

●天満天神社 南森町市電驛南一丁半なる天満大工町にあり府社にして菅原道真公を祀る天曆年間の創建に係り市中唯一の名高き神社なり舊地は天神山にありしを寛文年中、此處に移したるものにして此附近俗に天満と云ふもの之れに起因す境内宏壯華麗にして日々露店群出、賽人四時絶えずして頗る股賑を極む境内には本社の外、寶殿、繪馬堂、神厩、末社に稻荷神社等外數多し、社の維持に付いては宮内省内務省等より下賜金ある外有志者の寄進に係る金品、數十萬圓に値ひするものあり、以て靈驗顯著、市人信仰の念厚きを知るに足る社殿の構造は檜杉皮を以て屋根を葺き柱は概ね樟材を用ゆ神苑には丹鶴數羽を放飼し龜の池に數百の龜を養ふ池畔藤の棚あり例祭は月の二十五日にして一月二十五日は初天神といひて殊に賑しく大祭は七月二十五日に

して銚流しの神事と稱し神輿は松嶋の行在所に渡御し盛大なる式を擧げらる此日は大阪市中第一の大祭式にして町人商賈の業を休みて拜觀するもの多く遠邇の群集十幾萬を算す以て如何に其の盛大なるかを窺ふべし又十月二十五日は秋祭にして諸鐺馬の式典あり、社記に曰く、往時此邊一小森林なりしに天曆中林中に雲光あり又里人に神託あり菅公の靈難波の梅を愛して影向すこのことなりしより奏請して此處に社殿を營みしものなりといふ。

●同神社附近 天満天神社を中心として觀るべきもの多し、社前通は各種の商店及び飲食店小割烹店軒を列ね社後には天満劇場あり落語席浪花節淨瑠璃活動寫眞館射的場扱は待合茶屋旅館各種遊技場等ありて千日前に次で繁華の巷なり。

●天満別院 天神社を距る東北三丁程にあり興正寺といふ天満寺院中最も古き寺院なり又一に産寺といふ昔は天臺宗にして後眞宗に改む幕府時代は宗旨の如何に拘らず天満一般の民家は米錢を奉納して産子を參らせしところなり伽藍結構雄大にして附近各寺院に冠たり。

●監獄署 天神橋筋西一丁目にあり大阪監獄署(電東四三〇九) 堀川監獄署(電東三二七九) 相列べり市電南森町に下車するを順路とす又官線天満驛に下車するもよし。

●天満市場 天神橋北詰より天満橋に至る大川筋一帯は蔬菜市場にして仲買問屋百數十軒毎朝未明より開市す又天神橋北詰より難波橋に至る大川筋一帯の地は乾物問屋を列ね軒を接し居れり。俗に之れを總稱して天満市場と呼ぶ。

●中之嶋公園 難波橋以西、淀屋橋大江橋以東に介在せる墮圓形の土地を總稱す公園とては東京の芝、上野に比し語るに足らざれど散策地として市内天王寺に次ぐ適地なり園内に大阪ホテル、大阪銀行集會所、銀水旅館、公會堂、圖書館、豐國神社等あり。

●豐國神社 同公園内にあり明治十二年の創建にして別格官幣社なり豊臣秀吉公を祭り左右に秀頼秀長を配祀す元大阪ホテル前にありしもの一百萬圓寄附岩本榮之助氏が大阪公會堂の建築するに當り同境内に前大阪公會堂を壊して其の敷地に宛たるが爲明治四十五年移して圖書館の西側に位置せり豊公の威風凛々たる英姿銅像は境内にあり

末社とし白玉稻荷神社あり。

●大阪圖書館 男爵住友吉左衛門氏の寄附になるものにして古今の群書を蒐集し公衆の縦覽に供しつ、あり。

●大阪公會堂 北濱取引所仲買人として丸持長者として豫備陸軍歩兵中尉として金鷄勳章を有せる少壯實業家岩本榮之助氏が金一百萬圓を寄附して今や銀水旅館南側の地に公會堂の建築中に在り工成るの日は正に中之嶋公園中の大偉觀なるべし。

●市役所建設地 中之嶋公園西端、日本銀行支店の前面にあり既に賞を懸て其の建築物の摸型を決定したれば其の堂々たる雄姿は一兩年ならずして同公園を飾らんなり。

●北警察署(電東二三六一) 若松町にありて大江橋北詰と難波橋北詰との中間にあり明治四十二年の大火に類焼して一洋館式に建設せられたるものなり。

●裁判所 北警察署の西側にあり大阪控訴院(電東自二二至二四) 大阪地方裁判所(電東自四〇至四二) 大阪區裁判所(電東一六。一五) 何れも同地域内に駢建されつ、あり之れ又明治四十二年の大火に類焼したるものにして今や過半落成の運びに至りつ、あ

成立ち居るかを窺ふに足るべし今同工場内に据付られあるウエスチンクハウス用水殺菌器は虎列刺菌十乃至十五秒大腸菌十五乃至二十秒空扶斯菌十乃至二十秒赤痢菌十乃至二十秒肺炎菌二十乃至三十秒に死滅せしむべしとのことにして之等の機械を經由して製造する、三ツ矢印飲料水は宮内省御用品として御買上の榮を荷い各胃腸病院の飲料水として用命を受けつ、ある所以に思ひ至らば其衛生的効力の大なる言ふまでもなし従て年々嗜好飲料家の益々増加するに共に以て同會社の前途を祝福するに足る。

●櫻セメント株式會社大阪支店（電本三三八一） 梅田新道市電の交叉點前にあり

本社并に工場は西區木津川尻にありて明治四十年四月の設立に係り資本金一百萬圓拂込高四十三萬圓社長は平賀敏氏專務は阪本已之助氏也。

●共同火災關西營業部（電東一一七五、一一七六） 梅田新道市電の交叉點前にあり

本社は東京日本橋區槍物町にして明治三十九年六月の設立資本金五百萬圓拂込高一百二十五萬圓、社長は田邊貞吉氏專務に村上定、常務に森本清兵衛、倉地誠夫の諸氏あり關西營業部支配人は廣瀬耕治氏也。

●宇治川電氣株式會社（電東自四六〇〇至四六〇四） 市電梅田新道交叉點前にあり

明治三十九年十月の設立に係り資本金一千二百五十萬圓拂込濟みの會社にして社長に中橋徳五郎氏常務に村木正憲氏重役に土居通夫、大倉喜八郎、松方五郎氏などの財界に於ける明星を戴けり營業課長は林長繁氏にして營業の目的は電力の供給販賣及び電氣工業並に電氣機械器具の製造賣買を營むにあり即ち第一期工事了り七月上旬より開業さるべき水力電氣の供給は滋賀縣滋賀郡石山村字南郷に於て琵琶湖より一秒時二千立方尺の水量を引入れ開渠及隧道を經由して山城の國宇治町に導き其の生ずるところの落差二百五尺四寸を利用して四萬馬力の電力を發生せしめ之を大阪、京都其他近畿附近に供給するにあり右南郷宇治間に於ける發電用水路の延長は二里二十九丁余にして此間十二個の開渠三十二個の隧道とあり其工事の偉大壯觀大仕掛なるは古今無双なりと稱せらる然も此會社の開業に依り經濟的利便を受くるもの少からざる文明の餘輝とはいへ洵に喜ばしきことなりといふべし。

●會根崎新地 里人又呼んで北の新地ともいふ會根崎新地二丁目より三丁目に擴がり

表裏通じも席貸座敷あり三絃の音絶ゆることなく不景氣知らずの別乾坤なり著名にして正確なる席貸座敷は佐藤、早川、瀧柳、豊田、成樹屋、北樹屋等にして置屋にて名あるは津川、大西、平田、一流藝妓としては清子、若春、喜代次、勝彌、呂之助等嬌名最も顯はる此廓明治四十二年の大火に全部類焼し今は舊觀以上に花を咲かせつ、あり而して最近に於ける席貸組合甲種百五十三戸乙種十戸藝妓の數五百七十二人幫間六名を算ふ。

●同廓行事 各遊廓により其の行事同じからず此廓行事は一月二十五日初天神賀

惠駕、七月二十五日天神夏祭八乙女、春秋二回温習會を催す、花代一本十五錢一時間四本の割、朝より正午迄六本、正午より午後六時迄十六本、同六時より十二時迄二十本、朝六時より夜十二時迄二十八本、一晝夜通し三十四本、芝居行打出し迄十五本、夜十二時より朝迄六本、以上は平日の場合にして一月四日より十日迄又は節分、祭日、初天神夏祭の當日は小紋日と唱へ花代朝より正午迄十二本、朝より夜十二時迄三十四本、一晝夜四十本、預け六本、芝居花十六本の割にして天長節を中紋日と云ひ朝より夜十二時迄四十八本、一晝夜五十五本、預け七本、芝居花十七本、又一月の三ヶ日は大

紋日と稱へ朝より夜十二時迄五十三本、一晝夜六十本、預け七本、芝居花十七本、此以外にお約束花は一時間六本の割にて小紋日は八本、大中紋日は十本の定め尙日柄といふものあり、一本三十五錢の割にして無粹にては分らぬ三十の三十と五十の五十といふはお樂み筋の謎い言葉にして即ち三十の三十とは三十圓に加ふる日柄三十本の謂にして計四十圓五十錢といふことになるなり何分にも女ならでは夜の明けぬ世の中に冥途の土産に財の持腐り無粹汰沙は野暮の骨頂、金があるなら北々を招かれなくも行きたまへ薬罐の親爺さへ浮れ狂ふ實にく文明進歩の餘澤なりと知らるべし。

●大阪堂嶋米穀取引所(電東三八、三九) 堂嶋濱通一丁目の中央にあり以前は堂嶋川岸に建設せられたるもの明治四十二年の大火に類焼し現今の洋館式建造物は最近の普請に係り明治九年九月の設立にして資本金一百二十萬圓拂込済み今回増資認可せられたるを以て總資本金額二百萬圓とはなれり理事長は高倉藤平氏にして同氏就任以來其の成績の著しく良好にして見るべきもの多く輓近米界思惑者の増加は同所重役連の經營宜しきと相俟つて殆ど北濱株式市場を凌駕せんかの盛觀を呈しつ、ありて同所

株の時價連りに奔騰を重ねつ、あるは洵に慶すべき次第なりと云はざるべからず今堂嶋米相場に付いて其の沿革を釋見んに古書沿革史の多くは散逸收拾すべからざるものあり只口碑に依りて推敲せられあるところを基礎とし敷愆せんに往古大阪にて諸侯の米穀を引受け扱ふものを藏元と唱へ米仲買若くは米問屋と名づけられつ、ありき寛永正保の頃大川町に居住したりし淀屋與左衛門二代目源右衛門三代目辰五郎等は諸侯よりの積登米を委託せられ之を販賣したるころ所謂藏元の起源なりしもの、如く兎に角堂嶋は日本米穀取所の嚆矢たりしことは疑ふの餘地なし即ち淀屋の業を初めし以來同種營業者の數多きを加へ來り此間に於て多少盛衰榮枯ありしは免れざる自然の趨勢なりき次で元祿時代より幕末に至るまで堂嶋帳合米取引所又は文久年間に石建米取引なる者ありて明治二年に至るまで標準米を設けて取引を開始されつ、ありしが同四年に至り堂嶋米會所設立せられ同九年米商會所條例發布せらる、と共に改めて米商會所を置き同二十年に取引所條例の發布あり次で同二十三年に發せられたる條例に依り現在各地の取引所と一般營業を見つ、ある次第にして現今は同四十三年の改正條例に依り營業

されつ、ある也。

●堂嶋濱通 大江橋より堂嶋大橋に至る長方形なる堂嶋川に沿ひたる地域にして一丁目より四丁目に涉れり一丁目には米穀仲買店軒を列ね麓を接し日々巨萬の商内出來しつ、ありて賣買客堵列群集盛觀を極む二丁目より四丁目には會社商會公所等散在せり。

●劇場堂嶋座(電東二四九一) 堂嶋裏町二丁目電車筋に向つて西面せり明治四十三年十月株式組織に依り資本金十五萬圓拂込濟みを以て成立せるもの即ち堂嶋演藝株式會社之なり先づ北區に於ける第一の劇場にして近く堂嶋と會根崎新地とを控ゆるに依つて稍觀客を惹くに足れき未だ道頓堀に於ける大劇場の如くならざるを遺憾とす

●藤田組(電東自七六一至七六六) 堂嶋北町と中二丁目に跨る地域に三層洋式の高樓數棟而も最新式に造營せられたるものなるがゆへに其の壯觀美觀道は藤田男爵家の合名會社なるだけ首肯し得べし明治四十二年の大火以前は一個の洋館建なりしもの類鏡の厄に遇い一時東區淡路町に假營業所を設置しありたるも今春工成り此處に

復歸せられたるものにして資本金六百萬圓明治二十六年十二月の設立に係る營業の目的は藤田家の事業全部を總括し主として農林礦業を營む代表社員は男爵二世藤田平太郎氏にして左右に理事として池原鹿之助氏桂與市氏あり其の他事務員として多くの敏腕家を有せり藤田男は品格高邁貴公子として充分の敬意を拂ふに足るに共に左右翼に位置せる池原氏曾て市高給助役として聲望實力兼備の人、桂氏は桂公の嫡子として又聲名あり共に柱石として同事業を泰山の安に置く蓋し欽慕するに堪へたり。

●大阪合同紡績株式會社（電東自四三四四三六） 堂嶋濱通二丁目にあり明治三十三年一月の設立に係り資本金二百四十萬圓なりしもの今回増資の結果資本金四百萬圓となり常任取締役は谷口房藏氏にして同社創業以來の成績は利益金總計（賞與金を除き）八百九十五萬六千圓（平均資本の三割七分に當る）を挙げたり而も其の製造能力は昨年下半年に於て綿糸五萬一千六百個綿布四百萬碼を製造し得て今又日ならず兵庫縣神崎川沿岸の新工場に於て精紡機四萬餘織機一千臺の運轉を見んとする盛況にありといふ。

●大阪市役所（土佐堀自四〇〇至四一八） 堂嶋濱通二丁目にあり出入橋の南方新柳橋に面して藤田組に對峙せり本舎は叙上つ如く日本銀行支店前中之嶋公園の西端に新築せらるべく今は臨時此地に設けられある也。

●大阪商業會議所（電土佐堀自三六至三七） 堂嶋濱通三丁目にあり明治六年各商業團體の組織上より市内有志の發意に依り企畫せられしものにして同十一年に至り五代友厚、中野梧一、藤田傳三郎、廣瀬宰平の諸氏等商法會議所の設立を願して許可せられたるものにして實に全國に於ける商業會議所の嚆矢なりし當時五代氏會頭に中野廣瀬兩氏副會頭に推選せられ同業團體の規約方法を定め會議所を高麗橋四丁目に置きたるを二十二年に至り此地に新築したるものに係り爾來幾變遷を重ねて現時に追ふ目下會頭は土居通夫氏副會頭は今西林三郎法橋善作の兩氏にして書記長は井上濟美氏而して同所議員にして近く推選せられたる四部常設委員の名を列記すれば左の如し

●交通委員 今西林三郎、山岡順太郎、山本藤助、堀田元治郎、中西竹次郎、近藤喜祿、玉手弘行、柿崎欽吾、西成新右衛門、梶彦兵衛、田中平三郎、阪本龜三郎

大谷善兵衛。西川清七。

●理財委員 小山健三。三谷軌秀。芝田太吉。飯田精一。高山圭三。秋岡半三。岩

本榮之助。志方勢七。澤田牛麿。竹田忠藏。安住伊三郎。河野豊次郎。宮崎敬介。

●商業委員 加藤彰廉。藤野龜之助。森平兵衛。西澤武助。酒井猪太郎。莊所太郎

兵衛。廣谷惣助。高砂長兵衛。法橋善作。國廣清右衛門。岩崎定三郎。山田市郎兵

衛。大嶋伊八。杉本勘七。福田六兵衛。藤森源之助。山中嘉兵衛。

●工業委員 安永義章。池原鹿之助。稻畑勝太郎。湯川寛吉。八木福松。駒井庄

太郎。清水芳吉。森川彌三郎。春元重助。栗本勇之助。西井猪之助。伊藤佐助。松

本秋津。堀啓次郎。

●大阪府知事官邸(電土佐八〇) 維新の元勳大久保利光公の息として令聲高き大阪

府知事大久保利武氏の官舎は堂嶋濱通三丁目田籾橋北詰北東手にあり赴任以來日尚

淺きがゆへに其の治績の見るべきもの莫しと雖も高崎親章氏の後を襲ぎ其の威望盛徳

の高きものある蓋し良二千石の名空しからざるものあるを覺ゆる也。

●日本銀行大阪支店(電東自七五至七九) 大江橋と淀屋橋との間に介在して洋館

の大建築物にして中之嶋公園に東面して大偉觀を呈す本行は東京日本橋區本兩替町に

あり明治十五年十月の設立にして資本金六千萬圓拂込三千七百五十萬圓本邦最高の銀

行なり總裁は三嶋彌太郎子爵大阪支店長は麻生二郎氏也。

●浪速火災保險株式會社(電東自二九一五至二九一七) 中之嶋二丁目にあり明治四

十三年一月の設立に係り資本金一百万圓拂込高二十五萬圓社長は高倉藤平氏專務は淺

野陽吉氏なり然も本社設立以來各地に大火瀕出し此種會社何れも聲譽の狀況にあり

しも同社は株主に難波一流の實業家を網羅しあると毎期積立金を多くし其經營宜しきを

得つ、あるがゆへに其の保險金支拂等に躊躇せざるが爲め新設會社なるにも拘らず

多大の信用威望を繋ぎつ、あり。

●高田商會支店(電東自六二六至六二八) 中之嶋二丁目にあり合資會社組織にし

て明治四十一年十二月の設立になり資本金一百万圓、本商會は東京麴町區有樂町一

丁目にあり營業の目的は輸出入貿易公周旋代辦不動産賣買等に加へて運送土木建築鐵

業をも兼營せり而して支店を倫敦、紐育、上海其の他樞要の地に出張所を置けり社長は高田慎藏氏にして大阪支店長は石川慎一氏、同商會の事務員は多く高商出の人材を網羅しありて其の營業振の盛大なる三井大倉の壘を磨しつ、あり。

●大阪中央郵便局 中之嶋二丁目にあり明治四年驛遞司大阪郵便役所なるもの淀屋橋北詰に置かれ次で明治五年に東區高麗橋詰町に移され同年更に京橋町二丁目即ち現在の郵便爲替貯金管理所の處に遷され其の後大阪郵便局を改稱二十六年五月を以て現位置に來れるもの爾後又大阪郵便電信局を改稱せられ現今は中央郵便局、中央電信局と各別に同一局舎にて執務せられつ、あり。

●大阪瓦斯株式會社(電東二五一五、自四六六二至四六六九) 中之嶋三丁目渡邊橋南詰にあり明治二十九年十月の設立にして資本金六百萬圓拂込濟の株式會社にして社長は片岡直輝氏、同株主の四分は、外人の出資に懸り從つて、浮動株少く其の配當の割合に株式時價は高價を保ち居れり今回業務の發展に伴ひ四百萬圓の増資を遂行し資本金一千萬圓に増加したり。

●大阪窯業株式會社(電自東四一一九至四二二九) 同上瓦斯會社の南隣にあり明治十五年一月の設立資本金壹百萬圓拂込高八十六萬四千圓にして營業の目的は煉瓦及耐火用物品製造販賣にあり社長は磯野良吉氏。取締役兼支配人は大高庄右衛門氏也。

●大阪朝日新聞社(電自東九〇一五九一〇、二二二〇) 中之嶋三丁目肥後橋の西北角にあり合資會社組織にして資本金六十萬圓、大阪朝日東京朝日新聞の發行を營業とす東朝の發行所は東京にあり現今の社長は村山龍平、上野理一の二氏にして當初村山氏個人經營に屬せるを後上野氏と合資組織とし更に明治四十一年九月合資會社となし爾來毎年代に社長事務を執る其の發行紙數東洋第一と稱せられ其の記事の精確にして報導の迅速なる其の各方面に興味と實益を加味せるもの此紙の右に出づるものなしといふ敢て過當に非ず往年憲法發布當時若しくは日清戰役時代に於ける明細の電報は一電數千金を投じたるもの數多く其の今日より見れば珍とするに足らざるも其の能く讀者に忠實なりしものある欽するに堪へたり而して社是としての議論論終始渝らず常に政府施政の上に督勵の位置に超立し、又た社會記事の如き淫醜を避け卑猥を排するに努めつ、

ある如き流俗外に超脱し以て風教上矯正の本色を發揮しつ、あり彼の甘言以て衆俗に媚びるものあるに比す、慥に異彩を放てり其の社運の益々隆昌内外信用の厚き偶然に非ず今や其の支局特派員の如き内外樞要の地に配置せられ日本無雙の大新聞としての機關具備せるを見る蓋し又た熾んなりといふべし。

●大阪倉庫株式會社(電土佐二二二、二二三) 中之嶋三丁目秋月橋西詰にあり明治十六年五月の設立、資本金五十萬圓社長は男爵 鴻池善右衛門氏にして監事は江崎政忠氏なり。

●大阪稅務監督局(電土佐自一一至一三) 中之嶋四丁目筑前橋と常安橋の中間にあり西區土佐堀通五丁目より移轉最近の建築に係る局長は渡邊義郎氏にして國稅徵收事務に對し所管各稅務所を管理す。

●中之嶋稅務署 同監督局の西隣にして同一建物の中にあり直、間接稅徵收事務を執る。

●大阪高等醫學校(電土佐二二四) 同監督局の北裏手東角にあり校長は佐多愛彦氏也

●大阪府立病院(電土佐自二〇至二三) 前上醫學校の北正面にあり院長は佐多愛彦氏にして各部に専門の學士博士を網羅す市電田箕橋停留場下車するを便す。

●大倉商業學校(電土佐一五七二) 東京大倉家の出資に係る商業學校にして中等教育程度商業科目を教授す。

●土居通夫氏邸(電土佐二八六) 市電玉江橋停留場東、常安町にあり大阪實業界の元勳にして現今は大阪商業會議所會頭、大電社長、京阪社長として大正貯蓄銀行頭取として其の他幾多の銀行會社に重役たり。

●大阪電燈株式會社(電土佐堀自三二〇至三二七) 中之嶋五丁目越中橋北詰東にあり明治三十年十二月の設立に係り資本金壹千四百四十萬圓拂込濟の大會社、社長は土居通夫氏、常務は菅沼達吉氏、關西唯一の有利會社として年次の配當一割二分を下らず而も積立金の多くを有し基礎鞏固、益す發展膨脹を逞しふしつ、あり編者の此稿を草するの當時は、偶 大阪市に於て電燈市營を企畫し此社重役と市理事者との間に折衝中に屬し第一回の商協は不調に歸したりしも更に會見の上双方交讓以て圓滿の

局を結ばんとする消息の傳へられたる機會なりき無論此社事業の市營たるべきは早晚實現なるべきことにして此間多少時日の経過如何に存せる問題なりき今叙上重役の外諸役員の名を上ぐれば技師長に木村駒吉、常任監査寺田甚與茂、工務課長橋本千之助、倉庫課長林兼雄、計理課長に中村晋次郎、庶務課長に高橋誠暉の諸氏外部には所長として石井豊一、横溝小八、河口義一等の諸氏を有せり左に市内に於ける發電所と營業所とを掲ぐ

- 中之嶋營業所(電土佐自三二〇至三二七) 北區中之嶋五丁目
- 天滿營業所(電東自五一一至五一三) 北區源藏町
- 高津營業所(電南自二七〇〇至二七〇二) 南區瓦屋町五番丁
- 幸町營業所(電西自三一〇九至三一一一) 西區幸町通二丁目
- 製 作 所(電土佐九七六) 北區西野田兼平町
- 安治川發電所(電西三九三七) 北區安治川上通二丁目
- 幸町發電所(電西自三一〇九至三一一一) 西區幸町通二丁目

●西道頓堀發電所(電西自三〇九五至三一一二)

西區西道頓堀通二丁目

●本田發電所(電西三一三)

西區本田通三丁目

●銀行と會社の數々 玉江橋南詰より常安橋北詰に至る一直線地帯に於ける以西即ち玉江町一、二丁目中之嶋四丁目より七丁目に至る間に於て紹介すべきもの多し即ち玉江町方面にては大阪高工學校、住友玉江町倉庫、中之嶋製紙株式會社、中之嶋方面にては三菱支店銀行部、東京倉庫支店、住友倉庫本店西倉庫等之れなり然も其の内容はいふまでもなければ一括して之に掲載せり。

●明治製煉株式會社(電土佐一四〇) 中之嶋七丁目にあり明治四十年四月の設立にして資本金三百萬圓拂込高七十五萬圓、營業は銅並に諸金屬鑛製煉及硫酸肥料製造販賣を目的とす社長は矢野莊三郎氏にして今西林三郎氏外數名重役たり佐嶋製煉所を愛媛縣八幡濱町に置き鑛山部を同縣西宇和郡川之石村に設く事業は順調にして配當年八分を下らず、然も其の鑛山部は頗る有利なること最近に於て發見せられ従つて同社の聲價を高めつ、あり。

●大阪商品陳列所(電土佐五〇九) 堂嶋濱通四丁目堂嶋大橋と同小橋の中間に於ける堂嶋の西端にあり元堂嶋濱通三丁目にありしもの北區の大火に類焼し此處に移されたるものにして其の後の新築に成れり其の創立の基因は明治二十三年時の合尹西村捨三氏が貿易事業擴張の爲め市内實業家と計り設置せられたるものにして館内には製産品の多くを陳列しつゝ、ありて日常公衆の縦覽に任せり又た同棟連きに大阪工業試験場(電土佐二〇八三)あり鑛石の分析工業資料としての鑑定等に應ぜり。

●福嶋 梅田以西、堂嶋川の支流蜷川に添ひたる北方一帯の土地を福嶋と總稱す往時西成郡に屬したりしもの近く市内に編入されたるものにして茲十年前までは一荒涼たる村落なりしもの今や人家の膨脹發展驚くべきものありて會社工場大小學校旅館飲食店商舖群をなせり攝津名所圖繪に曰く菅公筑紫へさすらへ給ふ御時此嶋に船繋りましまし里人に所の名を尋ねたまへば餓鬼嶋なりと申上る是れ不祥の名なり改めて福嶋と名乗らば後繁昌すべしとの仰せに依り後世福嶋と呼べりとなん云々。

●逆橋松 市電福嶋二丁目南一丁目浄正橋の北詰東折する半丁江口橋の西詰にありたるもの今は道路改修の爲め撤回せられ其の跡を止めず其の紀念たりし松の枯木は其の地主たる船場某が明治四十五年の頃持去りしといふ可惜矣昔時源義經、梶原景時と逆橋を論じたる地なりと傳ふ。

●福嶋天神 市電福嶋二丁目停留地半丁南手にあるを上の天神と稱し中の天神又た同じく上福嶋にあり下天神は下福嶋にありて其の距離三四丁に過ぎず何れも菅原道實公を祭れり。

●五百羅漢 市電福嶋二丁目と同終點停留場との中間にあり今は福嶋葬儀所となりて僅かに舊跡を存するを見るのみ其の五百羅漢といへるは俗稱にして寺號を妙徳寺といひ禪宗にして鐵梅和尚の開基、正徳年間南源和尚之れを創建す本尊は釋迦如來にして其の周圍に五百羅漢を排置す明治四十二年の大火に類焼し其の佛像の多くは他に持去り今は其の面影なし。

●浦江聖天 市電福嶋終點の西北五丁程にあり了徳院といふ本堂に歡喜天を祭り境

内に庫裡、額堂等あり本堂後の蓮池撫子花は有名にして清遊するもの多し而して歡喜天の信仰者は藝妓連相場師連に多く今尙香煙燈火常に絶へず縁日殊に賑ふ。

●關西大學(電土佐一〇四九) 關西唯一の私立大學にして本科、豫備科、商業科に分たれ法律經濟等の諸科目を教授す職員は何れも専門の學士博士連等にして市電福嶋二丁目停留場北へ二丁目官鐵踏切線西二丁程にあり。

●大阪電球株式會社(電土佐二二六一) 西成郡鷺洲町箕面電車淀川停留場西南三丁程にあり明治四十年二月の設立にして資本金三十萬圓拂込二十四萬圓、營業成績は年次一割の配當を持續しつ、ありて社長は渡邊修氏、取締役には土居通夫、大塚惟明、守山又三の諸氏を有す。

●學校の數 福嶋を中心として此の附近に各専門學校多し市電出入橋を北東五丁にして梅田高等女學校あり同校を北三丁にして大仁新道通に大阪市立工業學教あり其の西南六丁程上福嶋一丁目に關西商工學校あり夫れより南西五丁程に大阪商業學校、又た聖天宮の北三丁に大阪藥學校等あり。

●福嶋紡績株式會社(電土佐自二至二四) 下福嶋一丁目市電福嶋終點南約三丁程にあり明治二十五年八月の設立資本金壹百二十萬圓にして社長は八代祐太郎氏、支店を福山、笠岡、今治等に置き船美人商標の一と際目立つと共に其の紡績系の名世に高し。

●日本紡績株式會社(電土佐六〇三、六〇四) 下福嶋一丁目にあり明治二十六年二月の設立にして資本金二百七十五萬圓、社長は竹尾治右衛門氏専務は播本孝良氏也。

●野田の藤 西野田玉川町野田神社境内にあり境内紫藤花多く古來野田の藤といひ傳へられて名高し野田神社の創建年次は詳ならずれど春日明神を祀れり文祿年間豊臣秀吉公來遊し藤花を賞せりといふ茶亭の址あり號して藤の庵といふ又た曾呂利新左衛門の建築なるを以て一に曾呂利庵ともいへり境内小池あり玉川と呼ぶ貞平三年足利義詮住吉神社へ參詣の途次、此地を野田の玉川に擬し和歌を詠せしと傳ふ。

いにしへのゆかりを今も紫の藤のみか、る野田の玉川 義 詮

●圓満寺 野田神社の南に當り證如上人の開基にか、る證如上人は本願寺十代目にして天文年中、山城山科の御堂を日蓮宗徒に焼討せられ此地に逃れ來りし處、敵又た

此所に押寄せ來りしが此の地の門徒防戰克く力めし跡なりといふ。

●住友伸銅場(電土佐五〇五、五〇六) 安治川上通一丁目にあり住友電線製造所

(電土佐五〇五、五〇六)と相列り洋館作りの高樓厦屋にして此の附近に於ける建築物中壯麗第一位を占む俱に男爵住友家の經營に係り湯川寛吉、庵地保氏等之れを監督せり製品は銅板、銅線、銅管、亞鉛板、棒及びアルミニウム板線等にして明治三十年に日本製銅會社の工場を同三十三年に大阪製銅會社の工場を買收し爾來諸般の改良を加へ發展以て今日に至れるものにして現工場は最近に新築せられたるもの也。

●商船韓國組(電西四六八、一〇三二) 北區富嶋町にあり明治四十二年五月の設立合資組織にして資本八、貳、四、圓、社員代表者は植木義三郎氏、氏は久しく大阪商船にあり各地支店長より樞要地位に歴務したる人にして同組營業としての荷客及關稅貨物取扱海上保險取次等に付ては多大の經驗を有せり今其の主なる取引方面は朝鮮及北清一帶並に内地各港にして大阪商船に專屬す而して此組の前身は小今井英三郎氏個人營業なりしもの漸次發展日韓商船組となりたるものに黒田一久氏の清韓商行を合併し茲に

植木氏を中心として黒田氏並に此日韓組の山本孫次郎氏等 出資成立したるものなりといふ。

●富嶋組(電西一五二二自三〇四一至三〇四四) 北區富嶋町にあり明治四十一年二

月の設立、資本金十萬圓、營業の目的は貨物運送、稅關貨物取扱、阪神間船隻船、養罐給水等にして合資組織に係り代表者は理事井上虎治氏事務長に松原曠氏を有す創業年次は明治十七年五月組合組織に起り爾來幾變遷合資組織となりて今日に迫るなり。

●大阪稅關(電西九、三四二、一五三三) 北區富嶋町新和橋の西詰にあり關長は大槻龍治氏にして大藏省に隸屬し輸入稅、噸稅等の徵收を掌る。

●古川橋 五間に充たざる小橋ながら北區富嶋町と西區本田三番丁に跨り船客等の往來瀕繁なるを以て名高し而して此の附近には運送回漕店を初め旅舍割烹店數多く橋畔の古川俱樂部は洋食の風味上乘を以て鳴れり。

●大阪商船株式會社(電西六六、三〇〇、三〇一、三〇二) 北區富嶋町にあり明治十七年五月の

設立、資本金壹千六百五十萬圓にして壹株額面貳拾五圓券なりしもの昨年十二月一日を以て株券合併三十三萬株五十圓額面券となりたり社長は中橋徳五郎氏取締役に堀啓次郎山岡順太郎の諸星を有す昨年末現在に於ける會社諸積立金を上ぐれば船舶保險積立金一百九十一萬六千二百五十五圓餘、同修繕費積立金一百九十九萬八千三百五十三圓餘、準備積立金七十九萬六千四百四十圓餘を有し毎期營業の好成績は年九朱の配當を爲し得て諸積立金に尙多數の充用を見る其の航路は内地各要港に遍ねく其の他外航路には臺灣、南支那、大連、天津、朝鮮、日本海より浦汐、米國に涉り其の汽船總數一百八艘總噸數十六萬九千餘噸に上れり該社創立の動機は關西に於ける各汽船主對時競争の爲め弊害困難百出せるが爲め打て一丸となしたるものにして其の當時の資本金一百二十萬圓其の所有の船舶大小九十六隻噸數僅かに一萬七千五百六噸なりしもの爾來斯業の發展に伴れ資本金増資に次ぐに増資を以てし遂に昨今の如き好況に至れる也尙今後斯界の膨脹發展に従ひ社運の隆昌尙驚くべきものあるを信ぜらる。

●日本郵船大阪支店(電西三、三五、三六) 同く富嶋町に在り同社は東京麴町區有

樂町一丁目にして其の株式組織となれるは明治十八年十月にして資本金二千二百萬圓、昨年九月末現在に於ける各種積立金にして船舶保險に七百九十七萬九千三百七十二圓餘、同修繕に九百五十四萬一千三百六十一圓餘、準備に三百三十萬八千六百八十六圓餘、配當平均準備三百三十萬圓餘を有し本邦第一の汽船株式會社たることいふまでもなし社長は近藤鹿平男副社長は加藤正義氏大阪支店は明治四十二年來一時廢せられるたも北海道方面並に清國方面航路の大阪築港經由することになりたる結果近く再置せられたるものなり。

●尼崎汽船部(電西五、二六、三五) 同く富嶋町にあり個人船主にしては唯一盛大なる海運業者にして業務は故尼崎伊三郎氏により經營せられ現今二代目尼崎伊三郎氏に依り繼承する其の股肱として西川豊四郎中尾包時等の諸氏あり同部の營業狀態の日に月に隆昌に導かれつ、ある所以のもの全く斯る至誠忠良なる輔弼のあるが爲め也因に云ふ同營業航路方面は主として中國航路に在りて其の乘客に對する待遇方法の如き頗る懇懇を極めつ、あり之れ又た同汽船部の好評ある所以なり。

西區之部

●西區 市の西南部に位し西横堀川を界として東區に聯り南は道頓堀川を界として南區に葦み西南方は大阪灣を擁して遠く紀淡の諸島嶼を望む面積一方里八三、周圍七里廿一丁東西一里廿五丁、南北一里三十丁に迫る最近の戸數六萬五千九百七十三、人口三十四萬三千六百十六を算せり。

●西區電車線路案内

- 土佐堀裏町停留場 ○加嶋銀行(東北角) ○大同生命保險株式會社(西南半丁)
- 内務省大阪土木出張所(西三丁半) ○金森旅館(西南五丁) 住友本店同銀行 藤本ビブローカ銀行(東二丁)
- 江戸堀南通 ○大阪電氣商會(西一丁半) 日米商會(北東一丁)
- 京町堀通 ○日本火災保險株式會社支店(東北二丁) 御靈神社(東三丁) 文樂座(東三丁) 山口銀行支店(西三丁) ▲京町堀通は東區平野町より通じて繁華

の巷にして各商店商舖甚しく賑へり

- 靱南通 東區本町より川口に至る交叉點
- 津村別院相愛女學校大阪女子音樂學校(東五丁)
- 阿波座下通 ○座摩神社(東三丁) ○難波別院(東五丁)
- 新町通 ○近江銀行西支店(北東一丁半) 左右田銀行支店(東一丁)
- 加嶋銀行南支店(東三丁) ○新町遊廓(西南方一帶の地)
- 四ツ橋 東區玉造方面より九條、天王寺難波より梅田に至る大交叉點にして古來四ツ橋といへば炭屋橋上繫橋吉野屋橋下繫橋の榊形になれるを一名所として稱へ來りしもの今は吉野屋橋の西近く電車鐵橋架設せられしが爲め一層壯觀とはなれり
- 大阪朝報社(南西二丁)
- 南堀江 木綿屋橋筋にして三津寺八幡宮(東四丁)
- 宇和嶋橋 (百十銀行支店(南一丁) 越後町遊廓(北一二丁))
- 間屋橋 ○三井銀行西支店(西北四丁) ○大阪貯蓄西支店(北三丁)

- 岸松館 (西北一丁半) ○阿彌陀池 (西南三丁)
- 鏗座橋 ○山口銀行西支店 (西南二丁)
- 浪華土産大黒栗おこし本店 (南東二丁半)
- 玉造橋 ○土佐稻荷 (南東二丁) ○鴻池銀行西支店 (北西三丁)
- 松嶋町一丁目 ○松嶋遊廓 (西方附近一帯の地)
- 千代崎橋 附近に松嶋遊廓を控へ寄席飲食店群集大に賑ふ
- 身喰橋 ○天満天神御旅所 (北二丁) 岩崎葬儀所 (西南七丁)
- 大阪紡績株式会社 (南十四丁)

- 太郎助橋 ○大阪市衛生試験所 (西南四丁)
- 岡崎橋 ○鴻池銀行鞠支店 (北三丁)
- 江の子嶋 ○雑喉場 (北三丁) ○川口郵便局 (北二丁)
- 大阪府廳、大阪警察部 (西南二丁)

- 川口町 ▲此附近一帯は外人居留地にして街巷廣く緩やかにして清楚也○プール女學校、信愛高等女學校、東洋捕鯨株式會社、川口警察分署、大日本人造肥料支店 (西南二三丁程)
- 本田三番丁 ○大阪貯蓄支店 (西北角) ○大阪商船尼崎汽船部、大阪税關、富嶋組、商船韓國組 (以上何れも北西五七丁程にあり) ▲大阪市より海路旅行せんごするものは此の停留場に下車するを便ごす
- 本田一番丁 ○加嶋銀行川口支店 (西二丁)
- 常盤橋 佐々木産科婦人科醫院 (東南二丁半) ○茨住吉神社 (西北二丁)
- 木村ワイケイ商會 (東南四丁)
- 花園橋 ○第三銀行九條支店 (北西二丁) ○大阪貯蓄九條支店 (北西三丁)
- 劇場八千代座 (東南一丁)
- 九條中通 ○九條警察署 (西南二丁)
- 九條發電所前 ○大阪市電氣鐵道部 (南前)

- 境町川 ○ 運河筋
- 市岡町 ○ 市岡中學校前
- 磯路橋 ○ 南安治川木屋町に至る通路
- 夕風橋 ○ 南安治川湊屋町及尻無川甚兵衛渡に至る通路
- 朝潮橋 ○ 新池田町及田中、八幡屋新田の通路
- 千舟橋 ○ 天保町に至る通路
- 三條通三丁目 ○ 第三廣澤館(南一丁目) ○ 安治川税關出張所(北八丁目)
- 天保山燈臺(北八丁目) ○ 井上倉庫事務所(東一丁目)
- 三條通四丁目 ○ 測候所(北六丁目) ○ 陸軍糧秣支廠(北三丁目)
- 築港棧橋 ○ 税關出張所前 ○ 大阪築港棧橋前 ▲ 此の附近旅舎飲食店等數多し。

● 大阪築港 大阪市陸上の位置は帝國の中軸に當り四通八達交通機關完備され居りたるも海上交通運輸の機關は未だ完成しあざりしがゆへに大阪港改築の議は明治六

七年の頃知事渡邊昇氏時代より唱道せられ當時有志者に於て釀金三百餘萬圓を集め起業に着手せるも成らず明治廿年知事建野郷三氏時代に於て四百餘萬圓の豫算を以て安治川築港と淀川改修とを企てし之亦着手を見ずして止み越へて廿三年に至り市民の一部に於て築港期同盟會組織せられ知事西村捨三氏の熱誠なる意見に市當局者も調査研究其の成案を以て政府に迫るゝところあり爾來當路者及び内外技師等の反覆調査の結果國庫の補助を得ることとなり廿九年に至りて愈認可を得るに至り茲に多年の宿望を達するを得たり事務所長は西村捨三氏工事監督は工學博士沖忠雄氏之に當り營々起工以來十餘年間に於て二百八十三萬八千餘坪の海面を浚渫し一百三十八萬三千餘坪を埋立て南突堤の二千四百三十九間北突堤の一千五百廿間防波堤の八百間と大棧橋二百五十間及び之に伴なふ四十六萬四千餘坪の埋立地等粗完成せる外に尙工事繼續中若くは未着手に屬するもの若干を剩せり今試みに大棧橋に出て其經造し得たる跡を見れば如何に其の規模の宏大大偉觀を爲せしかを知るに足らん遊覽者は宜しく市電築港行に搭じ其の棧橋の手前に下車せらるれば此の大偉觀に接して此大工事の如何に長年月

を費やし巨額の資金を要せしかを知るに足らん也。

●天保山燈臺 安治川口にあり明治五年八月の築造に係り白色塗木造六角形にして第四等燈臺なり不動白色の燈質にして基礎の高さ三十尺水面を抜く五十二尺光達十二里の距離に迫る。

●木津川燈臺 木津川口の東岸にあり明治十一年の公設になり煉瓦造りにして白色の圓形をなす第六等燈臺にして不動紅色の燈質其の高さ基礎より二十九尺水面を抜く四十尺光達距離七里に迫る。

●櫻嶋遊園地 西成官鐵安治川停車場の西に在り園中に多数の櫻樹を植へ見晴亭其他小料理亭あり大阪灣の西望濶大、開園當時は美觀にして股賑を極めたりしも近時市接各電鐵の開業に依り顧客其の方面に吸収せられ今寂寥舊觀を止めず只其の土地の廣大なるがゆへに自轉車競争又は運動會等に應用せらる。

●安治川 安治川口の南岸に面し櫻嶋と相對す天保二年幕府安治川の土砂を浚深し此處に丘阜を築き船舶航路の目標に供す此附近小街衢を爲す即ち天保町にして川村瑞

軒の築きし處なりといふ。

●瑞軒山 天保町に在り一名を波除山といふ川村瑞軒を紀念せんが爲めに名づけられしものなり。

●大阪鐵工所(電土佐自二七至一九) 西區安川北町に在り範多龍太郎氏の經營になり汎く船艦製造修繕其他船舶諸機械の製作を營業とす分工場として造船場を櫻嶋(電土佐九一)天保山(電土佐三〇)に設け日々多数の職工を役使して業務を取る其の規模設計の宏大なる關西に於ける三菱川崎に次での大造船所たり曩に軍艦朝霧艇疾風艇を造製し商船にては千噸内外のもの、數多く進水せしめたり同所監督技師は甲賀卯吉氏にして其の幕僚には工學士の多くを有せり蓋し熾なりといふべし。

●大阪セメント株式會社(電西一八一、一八二二) 西區木屋町にあり明治十五年十一月の設立にして資本一百九萬八千圓拂込五十一萬七千七百四十五圓專務取締は北村鏡太郎氏也。

●市岡中學校(電西一三五) 西區市岡町にあり明治三十四年二月の開業にして教育

成績頗る良好なり。市營電中市岡停留場に下車すれば半丁程にあり。

●東洋捕鯨株式會社(電西一八七九、二〇四八) 川口町にあり明治四十二年五月の設立にして資本金七百萬圓拂込高二百十萬圓社長は岡十郎氏專務取締役は原眞一、横山一平、曾根忠兵衛の三氏なり。

●竹林寺 松嶋花廊の西南にあり恕心山寶樹院と號す淨土宗なり寛永年間教譽上人の開基創建になり本尊は香西哲雲の納めたる惠心僧都の作丈二尺の阿彌陀佛を安置す境内閑靜にして書院廣潤、庭園に哲雲遺愛の香梅あり。

●茨住吉神社 九條町にあり郷社にして低筒男、表筒男、神宮皇后を祭る往時此邊は衛壤嶋と稱し淋しき田圃なりしを香西哲雲開拓して斯社を創建す當時荆棘繁茂せるを以て世人呼び傳へて茨住吉といふ古昔社地廣大なりしを人戸蕃殖爲めに漸次境域を犯され現今は方一町餘に過ぎざれば賽客多く絶ず賑ふ祭日は七月三十日なり。

●九條院 茨住吉より西二丁西の辻を北に入るにあり靈龜山と號し黄檗派なり後水尾天皇の勅命に依り寛文年間創建せるものにして本尊は觀音を安置せり。

●九條新道 松嶋花園橋西詰より南北數町に亘り西安治川に通ぜる長方形一帯の土地にして十年前までは僻地なりしも近時に至りて其の發展驚くばかり商業繁盛各商賣櫛比し新心齋橋通なまのなまへあるに至れり。

●松嶋遊廓 仲の町、高砂町、十返町、松嶋町を包含し全土は東西に松嶋千代崎梅本花園常盤の諸橋を通じ東京花の吉原に對し大阪松嶋遊廓の名は關西に響けり其の中仲之町は尤も繁華にして道路の中央に櫻樹を植ゑ四層五層の樓閣闌々として天に冲し夜間は電燈の光眩ゆく二千有餘の妓粉黛を粧ひ綺羅を飾遊士の心腸を蕩かすものありといふ昔時此邊を姫嶋と稱したりしが其の北端蒼鬱たる枝振の珍妙なる松樹ありしが爲め松嶋と改稱するに至れり。今其松樹も古齡證なく枯木となりし儘木津川畔に横はりつつあり。

●佐々木醫院(電西二三三四) 同廓域十返町にある産科婦人科花柳病専門にして院長は佐々木辰之進氏開業以來殆ど廿年に近く日々數百の患者に接しつつあるがゆへに其の治療技術實地に堪能にして博士連舌を捲く而も院長は春秋に富み仁惠温厚なるが

ゆへに更に其の好評を博しつゝあり。

●千代崎橋 松嶋橋の下流木津川橋架せる最終の橋にして橋上より南望すれば和洋船輻輳帆檣林立壯觀なり。

●大阪府廳(電西壹、一四〇〇) 西區江の子嶋上の町にあり市電江の子嶋若くは本田

三番丁に下車するを便す以前は東區博物館の所にありたるを知事渡邊昇氏時代に新築せられ明治七年七月に移轉せられたるものにして普通の洋館造りなり當時の經費

十六萬圓を要せりといふに徴しても其の結構なるを知るに足らん次來建野郷三、西村捨三、菊池侃二、高崎親章の諸知事を経て現大久保利武氏に至る。

●大阪警察部(電西一五〇〇) 同上府廳の南隣にあり池上四郎氏之れが部長たり。

●大阪府會議事堂(電西二〇七) 同上警察部の南隣にあり。

●西區役所(電西六、一五五二、七四四、二二二二) 同上南三丁江之子嶋東之町にあり區長は小川平馬氏也。

●雜喉場 西區京町堀三丁目より江戸堀五丁目に有る西端一帯の部地をいふ毎朝魚市

を開く諸國より大阪に來る鮮魚概ね此の市場を経由して供給さる。

●永代濱 朝南通三丁目東、朝中通三丁目の東を流る、海部堀一帯の沿岸を總稱す、干鰯乾魚人の倉庫隣次せり。

●靱 朝通、阿波堀通一圓の總稱にして乾魚鹽魚類の間屋多く商取引盛也。

●願教寺 薩摩堀北之町にあり祝松山廣教寺といふ俗に願教寺と稱す眞宗にして西本願寺派に屬す門主の血族常に住職たり本願寺三代覺如上人の子、善宗上人の創建にして當寺の額は法如上人の眞筆なり其の内庭は奇趣に富み頗る雅致に富めり。

●新町遊廓 往時此邊一帯は海濱なりしを寛永の頃、木村亦次郎といふもの新街を造り花廓を設け新町と稱す新町南通は越後町、新町通北の町は之れを九軒と稱へ電

車線路に沿へるを塀の側といふ目下有名なる青樓は吉田屋、茨木、木原、藤田、河内屋等にして毎年四月十五日より十日間は九軒町の櫻の下に雪洞を點じ夜櫻と稱し賑

ふ又毎年浪華踊とて踊子數百名日毎數十名の交代に綺羅衣裳を飾り歌舞音曲の春季温習を爲す近時歌舞の獎勵盛になりしかば中々の見物なり。

●四ツ橋 炭屋橋、上繫橋、下繫橋、吉野屋橋、井字形に懸りあるを以て此名あり現時市電の九條玉造間、梅田天王寺間の交叉點に當りあるを以て中々に股賑を極めつ、あり。

●堀江遊廊 新町と程遠からず西長堀川を隔て、數町の間に在り南北新町遊廊に次での遊廊なり例年春時歌舞の温習あり之れまた新町廓に次での賑ひなり。

●阿彌陀池 西區北堀江下通五丁目に在り元祿十一年智善上人の開基にして蓮池山智善院和光寺と號す往寺物部守屋が佛像を難波堀江に投じたりといふ史乘の舊跡なり推古の御宇本田善光なるもの、手に拾はれ信州善光寺の本尊となり居れりと當寺の本尊又同一體の一光三尊佛にして伊豆走湯山の淨蓮上人佛告に依りて鑄造せりとぞ有名な阿彌陀池は本堂の北にあり蓮花を植ゆ池中に寶塔あり彌陀三尊を安置す之の塔を放光閣と稱ふ境内廣く觀音堂、地藏堂、閻魔堂、藥師堂、鐘樓等あり舊二月涅槃會と四月の誕生日には門前附近、植木の市あり老若男女群集甚し。

●土佐稻荷 阿彌陀池の西三丁、玉造橋の南詰にあり舊土佐藩の藏屋敷にして稻荷

は同藩主の勸進せるもの倉稻魂命を祀る境内宏大櫻樹多し。

●陶器神社 西横堀流域に懸る信濃橋の西詰にあり西横堀沿岸一帯陶器問屋衆の商神として崇拜する神社にして毎年七月廿三日祭禮を行ひ戸毎に陶器一式の造り物を拵へ縦覽せしむ之れ大阪名物として數へらる、夏祭の一なり。

●加嶋銀行(電土佐堀自三二〇至三二四) 土佐堀通一丁目に在り關西に於ける累代の富豪加嶋家廣岡氏の個人銀行にして明治十六年六月の設立、資本金一百万圓、頭取は廣岡惠三氏、理事星野行則氏、支配人祇園清次郎氏にして業務確實、個人銀行として其の信用重望、關西地方此行の右に出るものなし。

●南支店(電南一五八六、一五八七) 南區順慶町通四丁目

●福嶋支店(電土佐堀四二〇、四二二) 北區上福嶋中一丁目

●加嶋貯蓄銀行(電土佐堀自三二〇至三二四) 土佐堀通一丁目にあり明治廿八年十二月の設立、資本金三萬圓の株式組織、頭取は廣岡惠三氏にして取締役は總て廣岡家系統の人々を以て組織さる其の信用重望、加嶋銀行と異ならず。

●大阪朝報社(電西自四一〇至四一二) 南堀江上通一丁目に在り明治四十四年一月の設立、株式組織資本金二萬圓、社長は小田垣鐵次郎氏にして取締役として遠藤文米、森秀次、三田政右衛門等の諸氏にして大阪朝報なる日刊新聞を發行す創業當年は花柳新聞の名あり漸次發展著しく近年花柳記事の豊富に加ふる經濟記事に用意せるを見る外に於て市政事項に周到也其創業日尙淺きにも拘らず大阪日報と對峙して其の特色を發揮しつつあり。



南 區 之 部

●南區 市の東南部に位し東は天王寺堂ヶ芝町を極點とし西は木津川一丁目木津川中軸を北は順慶町通三丁目を極度とす面積方哩六〇、周圍五里十五丁、東西延長一里三丁、南北二十八丁にして四區中其の面積に於て狹少なれども人口稠密せるがゆへに戸數十一萬三千六百八十九、人口四十一萬八千三百七十二を算し他區中に冠絶せり就中心齋橋通り千日前道頓堀は大阪唯一繁華の場所にして天王寺に於ける新世界亦最近に於ける建築物中遊適地としては日本一の唱へあり。

●南區内電車線路案内

- 谷町六丁目 ○山口銀行上町支店(北西二丁) ○代議士守山又三氏邸(西北二丁)
- 末吉橋 ○鴻銀上町支店(北二丁) ○加嶋銀行支店(北三丁)
- 板屋橋 ○住友男爵邸(東南二丁) ○船場病院(北二丁半)
- 長堀橋 ○第一銀行南支店(北三丁) ▲北濱境筋より天王寺方面への交叉點

●三休橋 ○大阪憲兵隊本部(北三丁)

●心齋橋 名高き心齋橋北詰の停留場にして此の南北の通りは市中第一繁華の地に

て此橋詰南数丁の間に十合、大丸、高嶋の三大呉服店の外に各商店櫛比し時流を
趁ふて嶄新美妙の裝飾を施し頗る美觀を呈しつゝあり。

●湊町 ○官線湊町停車場前▲東方九郎右衛門町を通じて道頓堀に至る捷路也

●難波新川 ○鐵眼寺(南西三丁) ○百三十銀行支店(南西七丁)

○大阪貯蓄支店(南西五丁)

●難波 ○南海鐵道難波驛前○南地演舞場(北二丁) ○千日前(東二丁)

○明月樓(東南半丁)

●清水町 ○西警察署(西二丁) ○山口銀行南支店(南二丁)

○南區役所(東南六丁)

●日本橋 ○南稅務署(西北三丁) ○加嶋銀行道頓堀支店(南二丁) ▲日本橋北詰

の停留場にして橋南は道頓堀にして大劇場の人氣取り々賑しく火災後の千日前
は面目更に一新せるがゆゑに人衆雜鬧今も昔も渝りなし。

●日本橋二丁目 ○阪町新地(西一丁半) ○東陽株式會社(北二丁)

●日本橋三丁目 ▲難波よりの交叉點

●日本橋四丁目 ●日本橋五丁目 別に記載すべきものなし

●惠美須町 ○阪堺電車今宮驛前○新世界前○今宮戎神宮(西三丁)

●霞町(市營今宮終點) ○新世界西門前

●天王寺公園前 ○同公園北門○石神病院前○安居天神(東二丁)

○一心寺(東二丁)

●権寺町 ○天王寺銀行(南二丁) ○東成郡役所(北三丁)

○天王寺警察署(東二丁) ○大江神社(西四丁)

●天王寺西門前 ▲此停留場は市營の終點にして之れより南海電車に連絡し茶臼山、

天王寺公園東門より阿部野等を経て住吉驛なる本線に合する也。

●心齋橋 心齋橋通長堀川に架設せる石橋にして石工細工の妙を極め頗る美觀なり以前の半月形鐵製の小橋は明治五年の架設に係り多く世に歌はれたるものにして此の橋の南北通りは市内目貫の場所にして無數の呉服店舶來小問物屋店等軒檐相接し店頭の裝飾善美を極め高嶋屋、大丸、十合、白木屋等の大呉服店妍を競ひ美を争ひ實に筆紙の克く盡すべきに非ず。

●三津八幡 佐野屋橋筋八幡町に在り祭神は應神天皇にして創建の年月詳ならずと雖も古説に依れば仁徳天皇即位以前味原池の附近にありたるもの此處に遷せるものなりと例祭は七月十六日にして此の界限には漆器及び古道具店多し。

●佐野屋橋筋 東區北座摩の前と連り古着店軒を並べ頗る繁榮を極めつ、あり。

●三ツ寺 三津八幡の南半丁程にあり大福院と號す眞言宗にして僧正行基の開基也行基自作丈五尺八寸の十一面觀世音菩薩を安置す境内の差側に大樟樹あり行基の手植

せる者なりといふ一説には其手栽の樹は祝融に罹り今の樹は後に植培せる者也と云。

●宗右衛門町 南地五花街の一にして有名なる富田屋は之の濱通にあり。

●住友男爵邸(電南三) 長堀川の東端安綿橋と板屋橋南詰に介在し日本造家屋に

洋館建の家屋を排置し其の區域東西二丁餘、南北二丁にして長方形の地盤を劃す當代吉左衛門氏は右大臣徳大寺公純公の六子にして入りて住友家の嗣子となれるもの人格高く貴公子として充分の敬意を拂ふに足るべし。

●湊町停車場 市電湊町停留場の南前面にあり元關西鐵道所屬なりしもの官有となりて依然舊觀を存しつ、あり奈良名古屋方面に至る起點線路なり。

●赤手拭稻荷 湊町停車場の西路を南に進むと三丁餘難波稻荷町にあり十數年前までは田中内にありたるもの此處に移せり境内に茶亭料理店あり紫藤花多く花時賑ふ。

●大國神社 木津の大黒として名高く東部大黒町にあり祭神は大國主命にして例月の日を祭期とす燈心草は福徳圓滿、家運隆昌の土産として有名なり。

●八阪神社 難波元町にあり古來七堂伽藍對峙し附屬十二坊を支配したる有名なる大

寺なりしといふ祭神は素盞烏命にして毎年七月十四日例祭なり此日臺樂と稱するものを町人共勇ましく擔ぎ廻りしも近來電柱等の爲め街衢狹少爲めに各町に飾り置くのみ又た正月十四日に難波の綱引と稱する神事ありて賑ひしも今は廢れたり。

●汐見停車場 汐見橋南詰二丁程にあり高野山登山鐵道の起點にして紀州高野山にまで線路延長を企畫せるもの工事難の爲め河内の長野驛に至り終點とす沿線の風光賞美すべきもの多く就中終點長野には名所舊蹟多く又温泉場等の設備ありて四時遊客を吸収す。

●瑞龍寺 難波新川町にあり慈雲山と號し禪宗黃檗派に屬す本尊は藥師如來にして別に十二神將を安んじ天主堂には彌勒佛を安んず八百餘年前の創建にして當時藥師寺と號せり延寶四年肥後の人鐵眼和尚、黃檗の本山に於て佛道を研磨し單獨諸國に勸進し其の財を以て再興し鐵眼寺と稱す寺域二千坪に亘り結構厦大、隱元木庵寺の書筆多くを藏す又た鈴木重幸及び「朝霜や杖で畫きし富士の山」の辭世を止めたる淡々の墓あり。

●願泉寺 木津にあり推古天皇十一年僧永證の創建に係る永證は初め小野多佳麿と號し妹子の八男なり多佳麿聖德太子を滅し四天王寺創立の際奇瑞あり僧となりて此寺を建立せりと傳ふ今は眞宗本願寺の末派なり。

●道頓堀 數町の總稱にして高津町二ツ井戸町、東西橋町九郎右衛門町を包含す東橋町西橋町には有名なる大演劇あり我橋南詰東より順次數ふれば浪花座次ぎは角座、中座、朝日座辨天座にして俗にいふ千兩役者の出演するところにして人衆の雜沓大阪第一たり。

●南地演舞場 我橋南詰南約三丁市電難波停留場北半丁に在り例年春時南地歌妓の蘆邊踊ありて日々數十の美女交代に出勤し遊士艶郎の賜を恍かす本年は第廿九回にして其の踊唱歌を掲ぐれば

倭 錦 このもかのも

「こゝろあらん人に見せばやな津の國の。浪花あたりの廓景色。いつも春邊と木の花の。梅は南の枝よりぞ。さくらもやがて麗しう。ふくむ色香の袖たも。さす手引く手の汐合に。田鶴も立ち舞ひ年々に。しげるあしへの一とをどり